

平成 27 年度 子ども教育学科 シラバス目次

基礎教養ゼミ（教養基礎）	1
日本語表現法（教養基礎）	2
日本国憲法（教養基礎）	3
法学（教養基礎）	4
経済学（教養基礎）	5
社会学（教養基礎）	6
生涯健康論（教養基礎）	7
生涯学習概論（教養基礎）	9
生命と環境の科学（教養基礎）	10
国際関係論（教養基礎）	11
体育理論（教養基礎）	12
体育実技（教養基礎）	13
キャリア形成論（教養基礎）	14
哲学（人間理解）	15
倫理学（人間理解）	16
心理学（人間理解）	17
文学と人間（人間理解）	18
芸術論（人間理解）	19
ボランティア・市民活動論（人間理解）	20
人権論（人間理解）	22
人間関係論（人間理解）	23
ジェンダー論（人間理解）	24
共生の倫理（人間理解）	25
チーム医療アプローチ論（人間理解）	26
国際医療事情（人間理解）	27
Introduction to Healthcare Sciences（人間理解）	29
英語ⅠA（リテラシー）	31
英語ⅠB（リテラシー）	32
英語ⅠC（リテラシー）	33
英語ⅡA（リテラシー）	34
英語ⅡB（リテラシー）	35
英語ⅡC（リテラシー）	36
英語ⅢA（リテラシー）	37
英語ⅢB（リテラシー）	38
英語ⅢC（リテラシー）	39
英語ⅣA（リテラシー）	40
英語ⅣB（リテラシー）	41
英語ⅣC（リテラシー）	42
Integrated EnglishⅠ（リテラシー）	43
Integrated EnglishⅡ（リテラシー）	44
ドイツ語（リテラシー）	45
フランス語（リテラシー）	46
ポルトガル語（リテラシー）	47
中国語（リテラシー）	48
ハンガール語（リテラシー）	49
コンピュータ入門Ⅰ（リテラシー）	50

コンピュータ入門Ⅱ（リテラシー）	51
コンピュータ実習Ⅰ（リテラシー）	52
コンピュータ実習Ⅱ（リテラシー）	53
レクリエーション論（専門教養科目）	54
子どもと医療（専門教養科目）	56
宗教と倫理（専門教養科目）	57
人間発達論（専門教養科目）	58
人間行動学（専門教養科目）	59
音楽基礎Ⅰ（専門教養科目）	60
音楽基礎Ⅱ（専門教養科目）	61
現代教育論Ⅰ（専門教養科目）	62
現代教育論Ⅱ（専門教養科目）	63
現代教育論Ⅲ（専門教養科目）	64
現代教育論Ⅳ（専門教養科目）	65
世界と子ども（専門教養科目）	66
保育原理（保育・教育の原理）	67
教育原理（保育・教育の原理）	68
教育基礎論A（保育・教育の原理）	69
教育制度論A（保育・教育の原理）	70
地域教育社会論（保育・教育の原理）	71
児童家庭福祉Ⅰ（保育・教育の原理）	72
児童家庭福祉Ⅱ（保育・教育の原理）	73
障害者福祉論（保育・教育の原理）	74
社会福祉（保育・教育の原理）	75
社会的養護（保育・教育の原理）	76
子どもの保健Ⅰ（保育・教育の原理）	77
子どもの保健Ⅱ（保育・教育の原理）	78
子どもの保健Ⅲ（保育・教育の原理）	79
教育心理学（保育・教育の原理）	80
発達心理学（保育・教育の原理）	81
乳幼児心理学（保育・教育の原理）	82
臨床心理学（保育・教育の原理）	83
遊びの指導（保育・教育の原理）	84
保育者論（保育・教育の原理）	85
教師論A（保育・教育の原理）	86
青年心理学（保育・教育の原理）	87
こころの健康（保育・教育の原理）	88
異文化と教育（保育・教育の原理）	89
観察学（保育・教育の原理）	90
保育内容総論（保育・教育の内容）	91
保育内容健康（保育・教育の内容）	92
保育内容人間関係（保育・教育の内容）	93
保育内容環境（保育・教育の内容）	94
保育内容言葉	95
保育内容表現	96
子どもの食と栄養Ⅰ（保育・教育の内容）	97
子どもの食と栄養Ⅱ（保育・教育の内容）	98
乳児保育Ⅰ（保育・教育の内容）	99
乳児保育Ⅱ（保育・教育の内容）	100
障害児保育Ⅰ（保育・教育の内容）	101

障害児保育Ⅱ（保育・教育の内容）	102
社会的養護内容（保育・教育の内容）	103
国語（保育・教育の内容）	104
社会（保育・教育の内容）	105
算数（保育・教育の内容）	106
理科（保育・教育の内容）	107
生活（保育・教育の内容）	108
家庭（保育・教育の内容）	109
図画工作（保育・教育の内容）	110
体育（保育・教育の内容）	112
英語学概論（保育・教育の内容）	113
英文法総論（保育・教育の内容）	114
英語学文献講読Ⅰ（保育・教育の内容）	115
英語学文献講読Ⅱ（保育・教育の内容）	116
英米文学概論（保育・教育の内容）	117
英米文学講読（保育・教育の内容）	118
英米文学文献講読（保育・教育の内容）	119
英米児童文学文献講読（保育・教育の内容）	120
英語教育学文献講読Ⅰ（保育・教育の内容）	121
英語教育学文献講読Ⅱ（保育・教育の内容）	122
言語文化論（保育・教育の内容）	123
ヨーロッパ思想と多文化理解（保育・教育の内容）	124
表現演習（保育・教育の内容）	125
絵本論（保育・教育の内容）	126
家庭教育と幼児教育（保育・教育の内容）	127
パーソナリティの心理学（保育・教育の内容）	128
音楽と表現Ⅰ（保育・教育の方法技術）	129
音楽と表現Ⅱ（保育・教育の方法技術）	130
造形と表現Ⅰ（保育・教育の方法技術）	131
身体と表現Ⅰ（保育・教育の方法技術）	132
ことばと表現Ⅰ（保育・教育の方法技術）	133
器楽Ⅰ（保育・教育の方法技術）	134
器楽Ⅱ（保育・教育の方法技術）	135
造形と表現Ⅱ（保育・教育の方法技術）	136
身体と表現Ⅱ（保育・教育の方法技術）	137
ことばと表現Ⅱ（保育・教育の方法技術）	138
OralCommunicationⅠ（保育・教育の方法技術）	139
OralCommunicationⅡ（保育・教育の方法技術）	140
WritingⅠ（保育・教育の方法技術）	141
WritingⅡ（保育・教育の方法技術）	142
在宅保育論（保育・教育の方法技術）	143
家庭支援論（保育・教育の方法技術）	144
親子遊び論（保育・教育の方法技術）	145
教育課程論（保育・教育の方法技術）	146
カリキュラム論（保育・教育の方法技術）	147
幼児教育指導論（保育・教育の方法技術）	148
初等特別活動論（保育・教育の方法技術）	149
初等教育方法論（保育・教育の方法技術）	150
中等特別活動論（保育・教育の方法技術）	151
中等教育方法論（保育・教育の方法技術）	152

国語科指導法（保育・教育の方法技術）	153
社会科指導法（保育・教育の方法技術）	154
算数科指導法（保育・教育の方法技術）	155
理科指導法（保育・教育の方法技術）	156
生活科指導法（保育・教育の方法技術）	157
家庭科指導法（保育・教育の方法技術）	158
音楽科指導法（保育・教育の方法技術）	159
図画工作科指導法（保育・教育の方法技術）	160
体育科指導法（保育・教育の方法技術）	161
英語科指導法Ⅰ（保育・教育の方法技術）	162
英語科指導法Ⅱ（保育・教育の方法技術）	163
児童英語指導法（保育・教育の方法技術）	164
英語科教材研究Ⅰ（保育・教育の方法技術）	165
英語科教材研究Ⅱ（保育・教育の方法技術）	166
初等道徳教育論（保育・教育の方法技術）	167
中等道徳教育論（保育・教育の方法技術）	168
相談援助（保育・教育の方法技術）	169
保育相談Ⅰ（保育・教育の方法技術）	170
保育相談Ⅱ（保育・教育の方法技術）	171
幼児教育運営論（保育・教育の方法技術）	172
保育内容指導法（保育・教育の方法技術）	173
子ども理解の理論と方法（保育・教育の方法技術）	174
幼小教育相談（保育・教育の方法技術）	175
中学校教育相談（保育・教育の方法技術）	176
生徒指導論（保育・教育の方法技術）	177
生徒・進路指導（保育・教育の方法技術）	178
心理検査法（保育・教育の方法技術）	179
家族療法（保育・教育の方法技術）	181
保育方法論（保育・教育の方法技術）	182
心身の発達と学習過程（保育・教育の方法技術）	183
保育実習Ⅰ（実習）	184
保育実習指導Ⅰ（実習）	185
保育実習Ⅱ（保育所）	187
保育実習Ⅲ（施設）（実習）	188
保育実習指導Ⅱ（実習）	189
保育実習指導Ⅲ（実習）	190
幼小教育実習事前事後指導（実習）	191
中学校教育実習事前事後指導（実習）	192
中学校教育基礎実習（実習）	193
幼小教育基礎実習（実習）	194
幼稚園教育実習（実習）	195
小学校教育実習（実習）	196
中学校教育実習（実習）	197
特別支援学校教育基礎実習（実習）	198
特別支援学校教育実習（事前事後指導含む）（実習）	199
保育・教職実践演習（幼）（実践演習）	200
教職実践演習（小中）（実践演習）	201
特別支援教育概論（特別支援）	202
知的障害児の心理・生理・病理（特別支援）	203
肢体不自由児の心理・生理・病理（特別支援）	204

病弱児の心理・生理・病理（特別支援）	205
障害児の発達診断（特別支援）	206
知的障害児の指導（特別支援）	207
肢体不自由児の指導（特別支援）	208
病弱児の指導（特別支援）	210
特別支援教育の課題と実践（特別支援）	211
知的障害児教育演習（特別支援）	212
肢体不自由児教育演習（特別支援）	214
病弱児教育演習（特別支援）	216
視覚障害・聴覚障害教育総論（特別支援）	218
知的障害者教育総論（特別支援）	219
重複障害児教育総論（特別支援）	220
発達障害児教育総論（特別支援）	221
卒業研究（卒業研究）	222
学校経営と学校図書館（司書教諭科目）	223
学校図書館メディアの構成（司書教諭科目）	224
学習指導と学校図書館（司書教諭科目）	225
読書と豊かな人間性（司書教諭科目）	226
情報メディアの活用（司書教諭科目）	227

基礎教養ゼミ（教養基礎）

担当者

案田 順子、町田 修三、内田 幸子、小泉 英明

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 2単位

講義目標

「生徒」から「学生」へと、短期間で意識改革を要求される大学生活。入学直後からの「とまどい」を払拭し大学生活を充実させるために、学習方法の修得、大学生活の心得と改善の理解、さらには将来へのキャリアデザインの構築を図る。

到達目標

大学初年次生としての基礎的な学習方法を実践でき、発展的自己学習方法を目指すことができる。基礎学力確認試験を通じ、自分の現時点での実力を確認でき、自己学習の方向性を具体的に把握できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 大学で何を学ぶか(意義と目的)
- 第2回 書くためのスキルⅠ(ノートテキング)
- 第3回 大学生としての自覚と認識Ⅰ(学びの意味)
- 第4回 コミュニケーションスキルⅠ(ディベート)
- 第5回 コミュニケーションスキルⅡ(敬語法)
- 第6回 大学生としての自覚と認識Ⅱ(社会を見つめる)
- 第7回 書くためのスキルⅡ(レポート作成法)
- 第8回 大学生としての自覚と認識Ⅲ(安全教育)
- 第9回 コミュニケーションスキルⅢ(プレゼンテーション)
- 第10回 書くためのスキルⅢ(文章作成法)
- 第11回 コミュニケーションスキルⅣ(自己紹介・他者紹介)
- 第12回 大学生としての自覚と認識Ⅳ(友人・教員との関係)
- 第13回 大学生としての自覚と認識Ⅴ(薬物・飲酒)
- 第14回 大学生としての自覚と認識Ⅵ(キャリアデザイン)
- 第15回 基礎学力確認試験(文章読解・数的理解)・解説

評価方法

授業参加度 20%、学期末筆記試験 80%で総合的に評価する。詳しい評価基準は該当授業時に提示する。

使用教材

使用教材は、授業時に適宜配布する。

授業外学習の内容

毎回異なるテーマで教員も入れ替わるが、同一教員のプリントはまとめてファイルしておくこと。

備考

受講ルール：私語・携帯電話の使用および飲食は厳禁とする。

キーワード：「初年次生」「学習方法」「学習意欲」

学習上の助言：大学生活での「不安」を「解消」するために多方面から指導するので、たとえ眠くなっても眠ってはいられないでしょう。

日本語表現法（教養基礎）

担当者

案田 順子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

日本人の極端な日本語能力の低下が問題視されている中で、主に「書きことば」における表現力を向上させるために、まず自分の「考え」をまとめ「書く」に至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と、生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、「考え」をいかに「文章化」するかを修得する。

到達目標

日本語の基礎的知識を、表現・文法・語彙の三側面から把握し、活用することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 「考え」をまとめるための5段階
- 第2回 日本語表現の基礎知識Ⅰ「公的」と「私的」
- 第3回 日本語表現の基礎知識Ⅱ 慣用句
- 第4回 日本語表現の基礎知識Ⅲ ことわざ・故事成語
- 第5回 日本語表現の基礎知識Ⅳ 四字熟語
- 第6回 日本語表現の基礎知識Ⅴ 比喩法
- 第7回 日本語表現のミスⅠ 主述関係
- 第8回 日本語表現のミスⅡ 修飾語・被修飾語
- 第9回 日本語表現のミスⅢ 重複表現
- 第10回 日本語表現のミスⅣ 副詞の誤用
- 第11回 日本語表現のミスⅤ 助詞の誤用
- 第12回 文章の組み立て方Ⅰ 起承転結
- 第13回 文章の組み立て方Ⅱ 5W1H
- 第14回 文章の組み立て方Ⅲ キーワード・キーセンテンス
- 第15回 文章の組み立て方Ⅳ 字数制限

評価方法

筆記試験（80%）・漢字テスト（10%）・授業参加度（10%）によって、総合的に評価する。評価方法の基準については、講義時に通達する。

使用教材

『文章表現テクニック』（教育弘報研究所）…漢字テストは左記教材の付録2、3による。

授業外学習の内容

自ら学ぶ姿勢を身につけるため、ノート整理しておくこと。

備考

受講ルール: 私語・携帯電話の使用および飲食は厳禁。

キーワード: 「日本語」「自己表現」「基礎知識」「再確認」

学習上の助言: 「日本語」の基礎を再確認し実力をつけるラストチャンスと考え、

授業には積極的に、しかしながら謙虚な姿勢で参加するように。

担当者メールアドレス: janda@takasaki-u.ac.jp

日本国憲法（教養基礎）

担当者

金井 洋行

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 必修 2単位

講義目標

身近な生活の中から人権の保護や社会への参加の意義を探り、課題の解決のための憲法の各規定の理念や解釈の方法を理解する。その理解に必要な歴史的、社会的、政治的な背景の重要性を知り、市民相互間や公的部門との関係のあり方についての考察力を高める。

到達目標

社会生活を営んでいくに当たって必要とされる憲法に関する基本的な知識を修得する。教職に就く者に要求される憲法的規範意識を、学習を通して醸成する。

講義内容と講義計画

- 第1回法とは何か?憲法とは何か?憲法は何を護るのか?
- 第2回国家・国民・政府-憲法学習の前提となる基本要素
- 第3回基本的人権の歩みと基本理念-人権規定の適用上の問題
- 第4回個人主義と幸福追求権の意味と保障領域
- 第5回法の下での平等の意味と合理的区別の許容範囲
- 第6回精神活動の自由
- 第7回経済社会生活上の自由
- 第8回教育・労働の権利と生存権
- 第9回義務・負担と手続上の権利保障
- 第10回立法作用の特色と国会
- 第11回行政作用の特色と内閣
- 第12回司法作用の特色と裁判所
- 第13回地方自治の意義と地方公共団体
- 第14回憲法保障-憲法を護るための理念と制度
- 第15回まとめ-基本的人権の保障と統治機構の機能を結びつけるシステム

評価方法

①平常点②筆記試験

使用教材

「アトラス 法学憲法」金井洋行 その他著(文教出版会)

授業外学習の内容

テキスト内当該章の「演習問題」を行うこと。レジュメの次回「考えてみよう」を行っておくこと。

備考

法学（教養基礎）

担当者

金井 洋行

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

法の存在意義を、法が権利と義務の変動の関係を規律しているという観点から理解する。法律関係の基本的システムを習得し、社会生活を営む者に要求される法規範意識を身に付ける。

到達目標

- ・身近に生じる生活上の課題から派生する法的問題を探ることができる。
- ・法的問題を解決するための法制度や法解釈の基礎を理解できる。
- ・法の仕組みや解釈の手法を通して、社会人としてのものの考え方ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回法とは何か ①法の意義②法の機能
- 第2回成人と法 ①人間の年齢の法的意味②人間の能力の法的意味
- 第3回就職と法 ①採用の法的意味②選定の法的問題
- 第4回労働と法 ①労働契約の法的意味②労働条件の保護の課題
- 第5回結婚と法 ①婚姻の要件と障害②夫婦の権利義務関係
- 第6回親子と法その1 ①子の出産をめぐる法律問題②親子関係の形成-嫡出性の問題
- 第7回親子と法その2 ①親権関係②扶養関係
- 第8回教育と法 ①義務教育の意義②就学過程において生じる法律問題
- 第9回社会活動と法 ①社会生活上の団体の意味②団体生活において生じる法律問題
- 第10回社会負担と法 ①租税や社会保険料の意味②公共生活上の法律問題
- 第11回国際化と法 ①出入国の管理②涉外事件における法律問題
- 第12回財産関係と法 ①物権取引において生じる法律問題②契約締結において生じる法律問題
- 第13回犯罪と法 ①犯罪と刑罰の法的意味②科罰手続の問題
- 第14回争い事と法 ①紛争の法的処理の方法②裁判の仕組み
- 第15回老年期と法 ①老年期の介護と医療②人間の死の法的意味

評価方法

授業に対する姿勢(30%)、期末試験(知識と思考力の審査)(70%)

使用教材

「アトラス法学憲法」金井洋行 その他著(文教出版会)

授業外学習の内容

- ・テキスト内の“演習課題”は必ず行うこと。
- ・日々社会のでき事を興味をもって考えられるようにしておく。

備考

経済学（教養基礎）

担当者

町田 修三

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、ほとんどの学生は十分な知識を持っていない。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。

到達目標

- ①日本の経済社会の現状を説明できる
- ②新聞やテレビの経済関連のニュースが理解できる

講義内容と講義計画

- 第1回イントロダクション
- 第2回日本経済の流れ(世界との比較のなかで)
- 第3回経済政策の2大潮流—マーケットorケインズ
- 第4回需要と供給(需要曲線の意味)
- 第5回市場メカニズムと価格(どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだらう?)
- 第6回価格の変動(どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだらう?)
- 第7回国民所得(国の経済力はどう測るんだらう?GDPって何?)
- 第8回国民所得(あなたが1万円使うとGDPはいくら増える?)
- 第9回財政(日本の借金は大丈夫?消費税は何%に?)
- 第10回景気と失業(不景気で学生の就職はどうなる?)
- 第11回金融(日本銀行は何をすところ?)
- 第12回経済政策のしくみ
- 第13回為替レートのメカニズム(円高、円安ってどうして起こるの?)
- 第14回世界と日本(日本の貿易は黒字?赤字?)
- 第15回まとめと確認のためのテスト

評価方法

筆記試験 80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物 20%。

使用教材

特定のテキストは使用しない。毎回の授業で資料を配布する。

授業外学習の内容

本講義の理解を深めるためには、新聞やテレビで日々のニュースに触れることが効果的である。テキストを利用した予復習は課さないかわりに、日常的に新聞を読みテレビニュースを視聴すること。

備考

社会学（教養基礎）

担当者

安達 正嗣

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

社会学的なものの見方とは、どういうものか、社会学的にものを考えるときに使用する専門的概念には、どのようなものがあるのかなどといった社会学の基本の理解を目指す。使用教材を中心にしながら、日常の具体的な事例から解説する。

到達目標

初めて社会学を学ぶ学生に対して、社会学の基礎的な知識ならびに考え方を理解させて習得させることが、この講義の到達目標である。

講義内容と講義計画

- 第1回 社会学への招待
- 第2回 「私」という社会的存在
- 第3回 「自由」と個人主義化
- 第4回 対人関係の多様化の時代
- 第5回 対人関係とメディアの発達
- 第6回 「希薄な関係」と「濃密な関係」
- 第7回 テレビアニメからみる日本の家族と子ども像
- 第8回 恋愛・結婚・夫婦関係
- 第9回 少子高齢社会の家族と介護
- 第10回 会社と仕事
- 第11回 文化と社会
- 第12回 格差社会とは何か
- 第13回 社会保障のあり方
- 第14回 グローバリゼーションの時代
- 第15回 まとめ

評価方法

平常点（第1回目の講義で説明します）50%、学期末試験 50%です。

使用教材

浅野智彦編著『図解社会学のことが面白いほどわかる本』中経出版。

授業外学習の内容

毎回の内容について、事前に教科書を読んでおくこと。

備考

私語は、厳禁です。

生涯健康論（教養基礎）

担当者

鈴木 忠

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

生涯を幸せで豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約10年も短い。本講義では、健康寿命の延伸のための生涯にわたる健康増進法について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎能力を身に着けることを目的としている。

到達目標

各回の講義内容欄に〈 〉内に示す語句（キーワード）について理解し、説明できるようになる。

講義内容と講義計画

第1回 健康の定義と健康評価指標

WHOの提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、〈平均寿命〉、〈平均余命〉、〈健康寿命〉、〈最長寿命〉などの呼び方があり、これから重要なのは、健康寿命であることを理解する。

第2回 健康を維持するための構造と働き

健康を維持するための主たる生理機構は、〈物質代謝〉である。物質代謝に関わる体の構造とその働きについて理解する。

第3回 恒常性維持システムの役割と相互作用

物質代謝に関連する構造がバランスよく正常に機能するように統括する恒常性維持（〈ホメオスタシス〉）システムは、脳神経系、内分泌系及び免疫系で構成される。その働きと相互作用について理解する。

第4回 食物と健康

物質代謝のスタートは食物からの栄養摂取である。食物には健康に欠かすことのできない〈栄養素〉を含むものと健康を害する因子を含む食物とがあることを理解する。

第5回 〈運動と健康〉

運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。

第6回 〈心のケアと健康〉

ストレスが、恒常性維持システムのバランスに悪影響を及ぼし、健康を害するメカニズムを理解し、ストレスを解消するための心のケアが健康維持にいかに重要であるかを理解する。

第7回 喫煙による健康障害

たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの〈喫煙と健康障害〉のメカニズムについて理解する。〈受動喫煙の影響〉についても考える。

第8回 生活環境と健康

放射能、排気ガス、温室効果ガス等の〈生活環境と健康〉についても考える。

第9回 21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）

2000年より、健康寿命の延伸を目指す健康づくり運動がスタートした。①食物・栄養、②運動及び③心の安寧を〈健康維持の3本柱〉とし、これまでの早期発見・早期治療による二次予防及び確実な診断と治療・リハビリによる三次予防に対して、病気の発生そのものを防ぐ一次予防を重視する〈予防医学〉のスタートである。

第10回 特定健康診断の重要性及びメタボリックシンドローム

特定健康診断の結果の値を、発病予防のための健康管理の指標とできることを理解する。さらに、〈

定期健康診断>によって、疾患の早期発見あるいは疾患前状態を発見することで、二次予防にも繋がることを理解する。また、<内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）>の怖さを理解し、その予防法について考える。

第11回 生活習慣病の危険因子としての糖尿病

<糖尿病>には、I型とII型があり、第12回で学習する冠状動脈や脳動脈における血液循環障害発生の危険因子となるのみならず、微小血管循環障害による腎障害、視力障害及び神経障害という<三大合併症>を引き起こす。人工透析が必要となる腎不全及び失明の原因の第1位は糖尿病である。危険因子としての糖尿病とその予防法について理解する。

第12回 生活習慣病（心疾患・脳卒中）と発症を予防する生活習慣

死亡原因の2位及び3位の<心疾患（狭心症・心筋梗塞症）>及び<脳卒中>は、<血液循環障害>による。これらの疾患の本態を知り、生活習慣との関係を理解し、その予防のための生活習慣を考える。

第13回 生活習慣病（がん）と発症を予防するための生活習慣

日本人の死亡原因の1位はがん、2位は心疾患、3位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因する。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣（がん発症危険因子）を知る。また、<がん予防のための生活習慣>及び早期発見・早期治療のための<がん検診>の重要性について理解する。

第14回 微生物感染症と感染・発症予防

日本人の死亡原因の第4位は肺炎と呼ばれる微生物感染症である。各種保健医療施設においては、入所（入院）者の<院内感染症>発症予防は、最重要課題である。輸血などの医療行為が微生物感染症の発生要因（医原性感染症）となる場合があること、感染症発生の予防法について理解する。

第15回 地域における健康支援チーム構成員とその役割：まとめ

これまでは、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支え合いに重点を置くとされた。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情報管理士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる<健康支援チームによるチーム医療>が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えようとしているのかを理解する。

評価方法

授業参加度（予習してきたの発表、質問、質問に対する回答等）：30点、レポート：30点、期末試験：40点

使用教材

テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。

授業外学習の内容

- ・講義は、できるだけ質疑・応答を中心として進めていくのでシラバスの中に示したキーワードについての予習をしてくること。
- ・グループに分け、各グループごとに課題を与え、発表してもらうので、全員で協力してまとめること。

備考

講義は、できるだけ質疑・応答を中心として進めていくのでシラバスの中に示したキーワードについての予習をしてくること。グループに分け、各グループごとに課題を与え、発表してもらうので、全員で協力してまとめること。

生涯学習概論（教養基礎）

担当者

森部 英生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

教育水準の高度化や人々の意識、生活形態の急激な変化にともない、「生涯学習」が進展・定着する中で、「生涯学習」「生涯学習社会」とは何かを踏まえ、公民館・図書館・博物館をはじめとする社会教育施設社会における様々な学びの場での人々の学習について、学生グループの報告を交えてその理論・実際を学ぶ。

到達目標

生涯学習の意義、・「生涯学習社会」の意義、・社会教育と生涯学習の関係、・公民館・図書館・博物館・美術館・青年の家の意味と実際、等のテーマを取り上げ、公教育における生涯学習の意義とその実際の活動について、学生の理解を深めるとともに、生涯学習の実践力を身につけることをめざす。

講義内容と講義計画

- 第1回 初回エンターション
- 第2回 「生涯教育」と「生涯学習」
- 第3回 「生涯学習社会」とは何か
- 第4回 「学習権」とは何か
- 第5回 社会教育と生涯学習第1回小テスト予定
- 第6回 公民館とはどんな所か(学生グループ 報告予定)
- 第7回 公民館をめぐる事件
- 第8回 図書館とはどんな所か(学生グループ 報告予定)
- 第9回 図書館をめぐる事件
- 第10回 博物館とはどんな所か(学生グループ 報告予定) 第2回小テスト予定
- 第11回 博物館をめぐる事件
- 第12回 美術館とはどんな所か(学生グループ 報告予定)
- 第13回 美術館をめぐる事件
- 第14回 青年の家とはどんな所か(学生グループ 報告予定)
- 第15回 青年の家をめぐる事件 第3回小テスト予定

評価方法

期間中行う3回の小テストに約70%、授業に対する貢献度に約30%を配分して総合評価する。

使用教材

自作のプリント

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。また、5回目ごとの小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。報告に当たった学生は、当該テーマについて十分な準備をしておくこと。

備考

人間が人間らしく生きる上で、いつでも・どこでも自由に学ぶことは不可欠です。生涯学習はこうした理念に立つものです。これまで自分が行ったことのある博物館・動物園等の施設を思い返し、また、関係する文献・TV番組・新聞記事等にも目を配って、その意義を確認してほしいと思います。

生命と環境の科学（教養基礎）

担当者

奥 浩之

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・今後の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造を学習するので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい

到達目標

本講義を受講することにより、各自が生命や環境に関する事項についてニュースなどを鵜呑みにするのではなく、様々な文献や資料を参照することで自律的に理解・判断できるようになり、レポートなどの形式でまとめられるようになることを学習目標とする。

講義内容と講義計画

- 第1回生命と環境-地球における元素の循環
- 第2回生命と環境-化学進化と生命における元素の役割
- 第3回生命を構成する分子の構造-タンパク質、核酸、脂質など
- 第4回生命を構成する分子の構造-タンパク質と核酸の分子グラフィックス
- 第5回生命を構成する分子-タンパク質と核酸の結晶構造解析
- 第6回生命を構成する分子-化学進化、金属タンパク質、ヘモグロビン
- 第7回金属イオンとタンパク質-様々な酵素の活性中心構造
- 第8回金属イオンとタンパク質-加水分解酵素の反応機構
- 第9回バイオマスのエネルギー化-バイオエタノール
- 第10回バイオマスの資源化-プラスチック・繊維
- 第11回地球環境と資源-シェールガス、バイオディーゼル
- 第12回地球環境と健康-グローバル化、インフルエンザ、新興再興感染症
- 第13回地球環境と健康-さまざまな感染症の予防ワクチン
- 第14回地球環境と健康-ワクチン成分と研究開発
- 第15回まとめ

評価方法

レポート課題 50%、授業参加度 50%

使用教材

使用しない（講義にて用いるスライドを配布予定）

授業外学習の内容

2回に一度、講義に関連した自習学習としてレポート作成を課題とする予定

備考

国際関係論（教養基礎）

担当者

片桐 庸夫

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

皆さんが生活する今日の世界とはどんなものかを理解することを目的としている。まず今日の世界の基本となっている戦後の冷戦について理解する。次に冷戦の何が変わって今日の世界ができているか理解する。それを通じて国際テロ、民族紛争、宗教対立といった現代世界の特徴と戦後日本の外交や国際貢献をめぐる課題について学ぶ。

到達目標

今日の世界情勢と日本外交や国際貢献問題について基本的に理解し、テレビや新聞のホットな話題やニュースを理解出来るようにすること。

講義内容と講義計画

- 第1回授業の展開の方法、出席の取り方、試験の方法、成績の方法等についてのガイダンスを行う。
- 第2回「冷戦の特異性」の意味、大規模な戦争後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立について理解する。
- 第3回「呉越同舟」の例えの典型的事例である戦勝同盟国間の対立の例としてのウィーン会議について理解する。
- 第4回国際コミュニケーションにとって大切な言語、宗教、文化、国家体制といった共通の価値観の意味について理解する。
- 第5回米ソ間の価値観の共有の欠如、イデオロギー対立、体制間対立について理解する。
- 第6回米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化について理解する。
- 第7回冷戦の定義、核の下での平和、冷戦後の現代世界の特徴について理解する。
- 第8回終戦とアメリカの初期対日占領政策の特徴、日本の改革について理解する。
- 第9回冷戦のアジアへの波及にともなうアメリカの対日占領政策の修正、日本国憲法、天皇制存置、象徴天皇制の関連性について理解する。
- 第10回ジョージ・ケンの Five Power Centers 構想、日本の再軍備について学ぶ。
- 第11回サンフランシスコ講和条約による日本の独立回復、同条約の問題点、日米安保条約の問題点、不公平性などについて理解する。
- 第12回戦後日本外交の課題である『「戦後」の克服』の意味、日ソ国交正常化、国連加盟、未解決の北方領土問題について理解する。
- 第13回日米安保改定による日米パートナーシップ 関係の意味、日本の経済大国化について理解する。
- 第14回沖縄返還、日中国交正常化、それらにともなう『「戦後」の克服』について理解する。
- 第15回中国の台頭と日本外交のゆくえ及び国際貢献の在り方について考える。

評価方法

小テスト結果と授業態度等を総合的に評価する。

使用教材

テキストは用いず、授業中にプリントを配布する。

授業外学習の内容

中国の軍事力増強の動き、中国やロシアとの領土問題、沖縄基地移転の問題等について新聞やテレビのニュース、ドキュメント番組等を見て、日頃から国際問題や日本の課題等についての関心を育てて欲しい。

備考

体育理論（教養基礎）

担当者

山西 加織

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 1単位

講義目標

現代社会における運動・スポーツの意義を理解し、生涯にわたり健康づくり・体力づくりを実践するために必要な基礎知識を学ぶ。自らの健康・体力や生活を見つめるとともに、健康づくり・体力づくりに適した身体活動について、その効果や実践方法を知り、実際の生活に活用する能力を養う。

到達目標

身体活動量や体格を測り、判定することができる。
体力を評価し、適切な運動プログラムを作成することができる。
運動による心身への影響を理解することができる。

講義内容と講義計画

第1回リエンテーション健康とは
第2回身体活動量を計算しよう
第3回現代の生活スタイル
第4回「肥満」って? 「痩せ」って?
第5回正しい「ダイエット」
第6回体力を知る(1)体力テスト(前半)
第7回体力を知る(2)体力テスト(後半)
第8回体力を評価しよう
第9回健康づくり運動(1)有酸素運動
第10回健康づくり運動(2)筋力トレーニング
第11回健康づくり運動(3)ストレッチほか
第12回運動カルテを作成しよう
第13回運動と栄養
第14回運動とこころの健康
第15回まとめ

評価方法

出席状況、授業に対する意欲・態度、レポート、期末試験を総合評価する。

使用教材

特別なテキストはなく、必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

健康づくり・体力づくりに関して興味があることをグループで調べ、発表する機会を設けるので、意欲的に参加すること。

備考

体育実技（教養基礎）

担当者

山西 加織

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 1単位

講義目標

生涯にわたり健康づくり・体力づくりを実践するために必要な基礎知識や方法を学び、実際の生活に活用する能力を養う。様々な運動やスポーツの実践をとおして、基礎体力の保持・向上とともに、運動・スポーツを楽しむ習慣を身につける。

到達目標

各基本運動の効果や方法を理解し、実践することができる。
さまざまなスポーツの方法やルールを知り、親しむ。
ストレッチ体操について、その方法やポイントを具体的に説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ストレッチ・レクリエーション
- 第3回 トennisボール
- 第4回 ティーボール
- 第5回 バドミントン(1) シングルス
- 第6回 バドミントン(2) ダブルス
- 第7回 キックベースボール
- 第8回 ソフトバレーボール
- 第9回 バレーボール
- 第10回 キンボール
- 第11回 インディアカ(1) グループ練習・ゲーム
- 第12回 インディアカ(2) ゲーム
- 第13回 バスケボール
- 第14回 フットサル
- 第15回 まとめ

※各講義の開始時にストレッチ・筋トレ・有酸素運動等の基本運動を行う。

評価方法

出席状況、授業に対する意欲・態度を重視し、期末試験を合わせて総合評価する。

使用教材

特別なテキストはなく、必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

授業で行っていくストレッチなどの基本運動を授業外で実践し、健康づくり・体力づくりをはかること。また、日頃から体を動かす習慣を身につけておくこと。

備考

キャリア形成論（教養基礎）

担当者

小泉英明

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1 年後期必修 2 単位

講義目標

社会の仕組みはもとより、経済、雇用など私たちを取り巻く環境は目まぐるしく変わり、仕事の質や内容までも大きく変化しています。本講座では、社会（企業・組織）が大学生に求める「能力」について理解を深め、社会で実際に役立つ人材となるよう支援します。さらに、様々な事例紹介によって社会・職場適応力を養い、近い将来、社会人として適切なスタートを切ることができるよう“自身”の強化プラン策定と目標管理を促し、将来のキャリア形成につなげられるよう支援することも目標としています。

到達目標

- ① 社会に通用する就業観、勤労観を持つ
- ② 自己を正しく理解し、適切なキャリアデザインを描くことができるよう、基礎力と社会適応力を身につける
- ③ コミュニケーション能力、論理的思考力、創造的思考力、問題解決能力など、社会から必要とされる力を身につける
- ④ 効果的な就職活動を遂行できるよう、自己変革のための目標管理行う

講義内容と講義計画

- 第 1 回キャリア形成のために必要なこと、私たちを取り巻く諸環境
- 第 2 回予測困難な時代が到来、社会（企業・職場）が求める人材
- 第 3 回セルフ・ディベロップメントⅠ（自己の理解）
- 第 4 回セルフ・ディベロップメントⅡ（未来視点による自己の確立）
- 第 5 回身につけたいチカラⅠ（コミュニケーション力）
- 第 6 回身につけたいチカラⅡ（気づく力）
- 第 7 回身につけたいチカラⅢ（ロジカルシンキングとクリティカルシンキング）
- 第 8 回身につけたいチカラⅣ（クリエイティブシンキング）
- 第 9 回身につけたいチカラⅤ（創造力を伸ばすには）
- 第 10 回身につけたいチカラⅥ（問題解決能力）
- 第 11 回「就業力」と「仕事力」
- 第 12 回社会・企業・職場の人間関係
- 第 13 回キャリア・マニフェスト（自分自身の強化に向けて※具体策の立案）
- 第 14 回セルフ・ディベロップメントⅢ（将来のキャリア形成に向けて）
- 第 15 回ストレスマネジメント、まとめ

評価方法

最終レポート（60%）、各授業時における提出物（30%）、受講態度（10%）

使用教材

適宜プリントを配布する。

授業外学習の内容

配布プリントをもとに、毎回、復習をすること。配布物はしっかりファイルし、毎回持参すること。授業内外の課題は必ず提出すること。※わからないことがあったら積極的に質問してください。

備考

社会の出来事を理解できるよう、新聞等に目を通して受講すること。

哲学（人間理解）

担当者

大石 桂子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

「他者とどう関わっていけばよいか」「生きることに意味はあるのか」「絶対に正しいことはあるのか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち探究するのが哲学である。本講義では身近な題材をもとに、教育分野に関わるものとして考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの議論や統計なども手引きとして、論理的に考えていくための基礎力を身につける。

到達目標

各トピックの基本的な問題点を理解し、様々に議論されてきた内容について知識を得る。また、現代的な視点から自己の主張を持ち、それを表現する力を養う。

講義内容と講義計画

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: 自分と他者(1) 「人に認められたい」のは本能?
- 第3回: 自分と他者(2) 「本当の自分」はあるのか
- 第4回: 自分と他者(3) 人と人の関係性
- 第5回: ディスカッション
- 第6回: 平等と共生(1) 誰もが信じられる正しさはあるか
- 第7回: 平等と共生(2) 環境は人の心にどう影響するのか
- 第8回: 自由はあるのか——正しい自己決定のために
- 第9回: 心と身体(1) 人間である条件とは理性か
- 第10回: 心と身体(1) 心と体の関係性——脳死を考える
- 第11回: エンハンスメント(1) 変化する「病」
- 第12回: エンハンスメント(2) 「弱さ」を否定する社会
- 第13回: 「空気」を意識する
- 第14回: 責任(1) 責任の範囲はどこまで?
- 第15回: 責任(2) 「何もしなかった」ことに責任は問われるか

評価方法

定期試験(60%)、ミニレポート(40%)に、講義への参加態度等を加えて総合的に評価する。

使用教材

講義中にプリントを配布する。

授業外学習の内容

復習としてノート・資料を読み直し、ミニ・レポートを作成すること。

備考

本講義では知識の習得だけでなく、各自が「哲学する」ために、ミニ・レポートを課しているため、主体的に取り組んでほしい。

倫理学（人間理解）

担当者

出雲 春明

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

現代の医療をめぐる問題を取りあげ、それぞれのトピックを通じて、倫理学の諸理論、人々の多様な価値観について学ぶ。

到達目標

医療に関連する倫理的諸問題について正確な知識を習得し、自分の考えを表現することができる。また、自分と対立する考えについても理解を深める。

講義内容と講義計画

- 第1回オリエンテーション：生命倫理学について
- 第2回不妊治療(1)人工授精
- 第3回不妊治療(2)体外受精、代理母
- 第4回遺伝子操作(1)ヒトゲノム計画
- 第5回遺伝子操作(2)遺伝子診断技術と優生思想
- 第6回人口妊娠中絶：パーソン論
- 第7回遺伝子操作(3)クローン技術
- 第8回遺伝子操作(4)幹細胞研究と将来世代のための倫理
- 第9回終末期医療(1)告知をめぐる問題
- 第10回終末期医療(2)インフォームド・コンセント
- 第11回終末期医療(3)安楽死とホスピスケア
- 第12回臓器移植(1)生体臓器移植
- 第13回臓器移植(2)死後移植と臓器移植法改正
- 第14回エンハンスメント：薬剤の使用をめぐる問題
- 第15回総括

評価方法

授業への参加とその態度(30%)、小テスト・期末レポート(70%)から評価する。

使用教材

講義中に資料を配布する。

授業外学習の内容

なるべく平易な表現を用いて講義を行う。予習は必ずしも求めないが、配布された資料を読み込むなど復習は必ず行うこと。

備考

講義中、一つの問題をめぐる様々な、そしてしばしば対立する見解が示される。自分ならどの立場をとるか、対立する相手に対してどのように反論するか、常に考えながら講義に臨んで欲しい。

心理学（人間理解）

担当者

角野 善司

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

人間の心理的諸機能に関する理論・研究について学び、支援に必要な基礎的知識の習得を目指す。

【授業全体の内容の概要】

こころのしくみに関して心理的諸機能を概観し、心の発達や健康について理解したうえで、心理的支援の方法と実際を学ぶ。

到達目標

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

心理学理論による人の理解とその技法の基礎について説明できる。

人の成長・発達と心理との関係について説明できる。

日常生活と心の健康との関係について説明できる。

心理的支援の方法と実際について説明できる。

講義内容と講義計画

第1回こころのしくみの理解(1):心理学における主要な理論

第2回こころのしくみの理解(2):心と脳/情動・情緒

第3回こころのしくみの理解(3):欲求・動機づけと行動

第4回こころのしくみの理解(4):感覚・知覚・認知

第5回こころのしくみの理解(5):学習・記憶・思考/知能・創造性

第6回こころのしくみの理解(6):人格・性格/自己概念・自己実現

第7回こころのしくみの理解(7):集団

第8回こころのしくみの理解(8):適応/人と環境

第9回人の成長・発達と心理:発達の概念

第10回日常生活と心の健康:ストレスとストレッサー

第11回心理的支援の方法と実際(1):心理検査の概要

第12回心理的支援の方法と実際(2):カウンセリングの概念と範囲

第13回心理的支援の方法と実際(3):カウンセリングとソーシャルワークとの関係

第14回心理的支援の方法と実際(4):心理療法の概要と実際

第15回まとめ

評価方法

宿題 30%（復習課題 15%、予習課題 15%）、学期末テスト 50%、学期末レポート 20%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テスト・レポートの得点に関わらず、単位を付与しない。

使用教材

精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー「心理学ー心理学理論と心理的支援」へるす出版

授業外学習の内容

宿題の提出はC-learningによる。

毎回、復習課題および予習課題を宿題として課すので、授業外での学習を怠らないこと。

備考

文学と人間（人間理解）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

現代人の基礎教養として、日本の名作文学をビデオとDVDで味わうことで、映像表現による心のコミュニケーションを目的にする。

到達目標

視聴覚教材を活用して「文学と人間」への洞察を深めることで、歴史の諸相における人間と人間生活の理解に役立てることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回二葉亭四迷・森鷗外の文学と人間像
- 第2回樋口一葉・泉鏡花の文学と人間像
- 第3回尾崎紅葉・徳富蘆花の文学と人間像
- 第4回夏目漱石の文学と人間像
- 第5回自然主義の文学と人間像
- 第6回芥川龍之介の文学と人間像
- 第7回白樺派の文学と人間像
- 第8回学習の整理と展望(まとめのレポート①)
- 第9回川端康成・小林多喜二の文学と人間像
- 第10回林芙美子・山本有三の文学と人間像
- 第11回谷崎潤一郎・堀辰雄の文学と人間像
- 第12回宮沢賢治・中島敦の文学と人間像
- 第13回井上靖・尾崎士郎の文学と人間像
- 第14回太宰治・三島由紀夫の文学と人間像
- 第15回学習の整理と展望(まとめのレポート②)

評価方法

まとめのレポート2回分を各50点で加算し、それに授業参加度を加味して総合評価する。

使用教材

小田切進『日本の名作』（中央公論新社）定価（本体720円＋税）

授業外学習の内容

授業では、視聴覚教材を活用して作品の梗概を理解させ、人物相関図の板書とテキストの読解から作品鑑賞を深める。これをきっかけに、さらに各自が興味・関心を抱いて原作を読み、発展させた読書につなげる。

備考

芸術論（人間理解）

担当者

石原 綱成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

芸術とは人間の内面の表出です。すなわち人間の心を映し出す「鏡」といっても良いでしょう。その表出されたもの、すなわち芸術作品がいかなる思想に基づいて現われたかを知ることが、人間性そのものを知ることになります。講義は、西洋近代における芸術概念の成立、そして20世紀における芸術概念の変容を見ることを通して、芸術の起源と役割をめぐる問題について考察します。また様々な地域の視覚芸術を比較検討することで、私たち「現代人」の芸術思想を浮き彫りにして見ましょう。

到達目標

芸術概念及び芸術に関連するさまざまな概念の成立・受容・変容という観点から、特に西洋近代以降におけるメディアとしての芸術の歴史を展望することによって、芸術論及び芸術学についての理解を深めることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 芸術の起源①ギリシャ・ローマ
- 第3回 芸術と宗教②ヨーロッパ 中世とキリスト教
- 第4回 芸術論のと神々宗教芸術概観
- 第5回 キリスト教芸術の特色①旧約聖書と芸術
- 第6回 キリスト教芸術の特色②新約聖書と芸術
- 第7回 芸術思想をめぐる①ルネサンスの芸術思想
- 第8回 芸術思想をめぐる②バウハウスの芸術思想
- 第9回 カントの芸術思想と感性学『判断力批判』概観
- 第10回 芸術観の変容と近代哲学の関係
- 第11回 仏教芸術をめぐる①仏の世界
- 第12回 仏教芸術をめぐる②極楽と地獄
- 第13回 現代芸術の美学①遠近法への懐疑
- 第14回 現代芸術の美学②中心の喪失
- 第15回 総復習と総括

評価方法

授業の参加状況と授業中のレポート、学期末試験を総合的に判断して評価する。

使用教材

特になし

授業外学習の内容

- ・ 次回の授業のプリントを配布するので、専門用語等事前に予習しておくこと。
- ・ 今までの授業の理解度を確認するために小テストを行うのでよく復習しておくこと。

備考

興味・関心を持って積極的に参加して欲しい。質問は大歓迎

ボランティア・市民活動論（人間理解）

担当者

金井 敏

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

ボランティア・市民活動は、自主的な貢献活動として福祉分野に限らず環境や情報、国際協力まで幅広く取り組まれ、今日の社会に不可欠な存在となっている。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践することができる力を養成する。

到達目標

ボランティア・市民活動の実践例を理解するとともに、ボランティア・市民活動支援センターを活用し活動に参加し、活動ニーズを体得できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い
- 第2回 ボランティアの力を活かす仕組みとボランティアセンターの役割
- 第3回 子どもの明日をサポートする～子ども劇場の取り組み
- 第4回 人々は何のようにボランティアに取り組んだか～欧米と日本の歴史
- 第5回 ボランティアとNPO～学生でも創れるNPO法人
- 第6回 障害スポーツ・レクリエーションのすすめ
- 第7回 小中高校の福祉教育・ボランティア学習はこれでいいか
- 第8回 バリアフリー社会と心のバリアフリー
- 第9回 新しい支え合いの必要性～20年後のあなたとへ
- 第10回 動物は人間のパートナー～動物愛護協会の取り組み
- 第11回 被災地に届け！災害支援ボランティア活動
- 第12回 分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会（共同募金・地域通貨）
- 第13回 地域支えあいのボランティア～ふれあい・いきいきサロン～
- 第14回 地域支えあいのボランティア～民生委員・児童委員の活躍～
- 第15回 ボランティア・市民活動から学べたこと

評価方法

- ・学期末に課すレポートによる評価(60点相当)
- ・ボランティア実践＝実践から得た成果など学習内容の報告書による評価(25点相当)
- ・授業のリアクションペーパーによる評価（15点相当）
- ・授業開講数の2/3以上の出席について、評価対象とする。15分以上の遅刻は欠席扱いとする。
- ・私語などのため授業を妨げる場合は、退出およびマイナス評価をする場合がある。

使用教材

テキストは使用しない。レジュメ・関係資料は授業時に配布する。

授業外学習の内容

- ・上記のボランティア実践に取り組むこと。
- ・次回のテーマに沿ったボランティア・市民活動について予習しておくこと。

備考

- ボランティア・市民活動は、社会に関心をもつ学生が実際の社会と関わりを持つことができるとともに、自分自身の可能性にチャレンジすることができる、とても良い機会です。
- ボランティア実践では、社会が求めているニーズに応えることを通じて、人々の問題を把握するとともに、その解決策

を考えることもできます。このような体験は、将来の就職活動でも大いに活かすことができます。VSC を活用して参加すること。

■考えて行動する学生を目指して、一緒に学びましょう！

人権論（人間理解）

担当者

森部 英生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 2単位

講義目標

人権ないし基本的人権は、制度的・最終的には、憲法を頂点として構築されている人権法制によって保障される。この授業では、この点に着目し、憲法に定められている諸々の人権条項を概説するほか、国際的な人権文書にも言及し、同時に、単にそれら条文の開設に留まることなく、それら法条に関連する裁判事件を取り上げながら人権感覚を磨くことにする。

到達目標

もっぱら法的な側面から人権を眺めるとともに、日常生活における種々の差別や人権侵害の問題を、実例ないし裁判事例を通して学び、人権感覚を鋭くして、社会における人権尊重とその現実化をめざす。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本的人権の沿革
- 第3回 明治憲法における人権保障
- 第4回 日本国憲法における人権保障
- 第5回 人権の主体 第1回小テスト
- 第6回 幸福追求権
- 第7回 法の下での平等
- 第8回 請願権と国家賠償法
- 第9回 思想及び良心の自由
- 第10回 信教の自由 第2回小テスト
- 第11回 表現の自由
- 第12回 学問の自由
- 第13回 両性の平等
- 第14回 生存権
- 第15回 まとめ 第3回小テスト

評価方法

3回の小テストに約70%、授業に対する貢献度等に約30%を配分し、これらを総合的に評価する。

使用教材

自作のプリント

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。また、5回目ごとの小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

この授業は、憲法に定める種々の人権条項を概観するものですが、単に条文を解説するだけでなく、それぞれの条文にまつわる裁判事件（人権裁判）を多く引用していきます。特に保育者・教育者をめざす学生諸君に有益だろうと考えます。豊かな人権間隔を養うことをめざして授業に臨んで下さい。

人間関係論（人間理解）

担当者

宮内 洋

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

「人間関係論」とはホーソン実験によって得られた発見をもとに、経営組織の諸状況が人間関係によって規定され、その間の因果関係を体系化した理論である。当然のことながら、これらのことを講じるが、本科目においては、人間発達学部が保育者・教育者を養成する場であるということも鑑みて、子ども同士、保育者・教育者と子ども、保育者・教育者と保護者の関係についても焦点を当てる。また、子どもの相互のかかわりと関係作りなどについての理解を深めるなど、人間関係の発達の側面についても講じる。

到達目標

「人間関係論」の基礎的な知識を学ぶとともに、日常生活における人間関係に関する心理学・社会学・教育学の各領域の基礎的な知見を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回ガイダンス
- 第2回「人間関係論」の成立
- 第3回職場と人間関係
- 第4回社会的ジレンマ
- 第5回乳幼児期の人間関係(1)
- 第6回乳幼児期の人間関係(2)
- 第7回乳幼児期の人間関係(3)
- 第8回児童期の人間関係
- 第9回青年期の人間関係
- 第10回恋愛関係論(1)
- 第11回恋愛関係論(2)
- 第12回保育・教育現場の人間関係
- 第13回差別と偏見
- 第14回日本社会における人間関係:「空気を読む」ことについて
- 第15回まとめ

評価方法

全講義終了後に実施される筆記試験と、講義期間中に課せられる課題、講義に臨む態度・参加する姿勢等によって、総合的に判断する。なお、授業を妨害し、他の受講者の学習を妨げる者は受講を認めない。

使用教材

教科書は特に指定しません。必要に応じて、資料を配付します。

授業外学習の内容

授業後に各自で復習をして、授業内容の正しい理解に努めてください。

備考

最初の講義の時間に約束をします。その約束を最終回まで守ってください。本科目では、いくつかの課題に取り組んでいただく予定ですので、授業に対する積極的な態度が望まれます。

ジェンダー論（人間理解）

担当者

前田 由美子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

性別による社会の制度化を歴史的・文化的・社会的視点からとらえ直し、その制度化のもたらした問題を人権の問題として深く理解する。

到達目標

性別に関して存在する偏った社会の慣習や考え方によって妨げられている能力の発揮や、不自由な人生選択の実態を知り、その克服の方策を考えることで、自らの人生設計と社会創造に役立てることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回講義全体の説明
- 第2回ジェンダーという概念
- 第3回生き物としての性とその多様性
- 第4回性的指向セクシュアリティ
- 第5回性役割と性規範
- 第6回性的同一性(ジェンダー・アイデンティティ)
- 第7回性別と経済社会
- 第8回母親と子どもの関係
- 第9回父親と子どもの関係
- 第10回労働と性別秩序
- 第11回過労問題ワーク・ライフ・バランス
- 第12回男性問題
- 第13回セクシュアル・ハラスメント
- 第14回トランスジェンダー・バイレンス
- 第15回まとめ

評価方法

講義日ごとに、ミニレポートを提出。約25%ずつで4日間。

使用教材

プリント、映像資料、文献資料など

授業外学習の内容

配布された授業内容に関連する文献資料などをよく読み、課題にそってまとめること。

備考

共生の倫理（人間理解）

担当者

瓜巢 一美

開講学科と時期・単位

全学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

福祉論、国際理解教育などを基礎にして、多民族、多文化共生社会を身近なところから考える。

到達目標

多文的、分断的な社会生活状況の中で、学習を通して、すべての人間が共に生まれ、育ちあい、学びあい、働きあい、暮らしていることの認識を深め、実践する共生を自覚する。

講義内容と講義計画

- 第1回共生の用語：学習（研究など）の方向、文献紹介、評価について
- 第2回くらししている社会状況をながめる(1)
- 第3回くらししている社会状況をながめる(2)
- 第4回人をながめる(個性として)(1)
- 第5回人をながめる(個性として)(2)
- 第6回人をながめる(個性として)(3)
- 第7回学習の意味(共生にむけて)(1)
- 第8回学習の意味(共生にむけて)(2)
- 第9回人として働くことの大切さ(共生にむけて)(3)
- 第10回人間としての尊厳(生まれ、育つ)(1)
- 第11回人間としての尊厳(家庭、福祉施設)(2)
- 第12回共生の時代を拓く国際理解教育
- 第13回多民族、多文化共生への未来(NGOからの政策提言)
- 第14回共生の倫理の再考察(1)
- 第15回共生の倫理の再考察(2)

評価方法

筆記試験 60%、授業への参加 10%、小レポート 30%(テストの範囲は原則として事前に口頭で伝えたい)

使用教材

参考文献を指示し、小レポートのテーマとすることもある。講義の要点を採にし、その要点を中心にレポートする。

授業外学習の内容

前回の授業に提起された課題を学習しておくこと。図書館や現地踏査などで学習を深めておく。

備考

チーム医療アプローチ論（人間理解）

担当者

全学科担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 1単位

講義目標

福祉・教育・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解する。

到達目標

1. チーム医療を促進するための福祉・教育・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。
2. 各専門職の役割と活動について理解できる。
3. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。

講義内容と講義計画

- 第1回: チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について
第2回: チーム医療における看護師・保健師の役割と活動
第3回: チーム医療における理学療法士の役割と活動
第4回: チーム医療における薬剤師の役割と活動
第5回: チーム医療における管理栄養士の役割と活動
第6回: チーム医療における社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の役割と活動
第7回: チーム医療における保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭の役割と活動
第8回: チーム医療における診療情報管理士の役割と活動

評価方法

評価方法: 授業参加への積極性 (40点)、レポート (60点)

- ・ レポートー他職種 of 役割と活動を理解した上で、チーム医療を促進するために自分が目指す専門職としての役割と活動および使命についてまとめる。
- ・ 各学科の単位認定者が各学科の学生のレポートを採点する。

使用教材

授業時に配布する資料

授業外学習の内容

自身が専攻する専門職の役割や活動およびチーム医療について事前に、自己学習を行うこと。

備考

健康・福祉・医療・教育のスペシャリストを目指している学生の皆さんは将来、人々の健康を維持・増進する役割を担います。各専門職が力を存分に発揮して協働して福祉・医療・教育を実践するチーム医療を推進することが求められます。他学科の学生と交流をしながら多職種の活動と役割を学習しましょう。

キーワード: 専門職、チーム医療、チームアプローチ

国際医療事情（人間理解）

担当者

町田 修三、クリス・ターン

開講学科と時期・単位

全学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的として設置された科目である。特に本学学生は医療系を専攻する者が多いため、海外の医療に関する様々な事項を経験的に学ぶことに重点を置いている。具体的な内容としては、海外諸国の健康・医療教育、健康・医療の実態、医療制度、病医院や医師・コメディカル等の供給体制、病医院や医療施設の世界比較等について学ぶ。国際化を促進するため、学生には英語で日本の文化や医療の説明をしたり、医療に関する基礎的なディスカッションをしたりすることを取り入れる。また、本講義では、学生が実際に海外に赴き実体験として国際医療事情を見聞することを強く推奨する。

到達目標

- ・ 諸外国の医療教育を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の医療の実態を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の医療制度を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の病医院について学び、日本との違いを説明できる。
- ・ 日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回イントロダクション
- 第2回医療の国際化とは
- 第3回日本の医療教育、医療制度、医療事情
- 第4回日本の医療教育、医療制度、医療事情を英語で説明してみよう
- 第5回先進国（アメリカ、イギリス、ドイツ）の医療教育
- 第6回先進国の医療事情Ⅰ
- 第7回先進国の医療事情Ⅱ
- 第8回先進国の病院
- 第9回その他の先進国（北欧、カナダ、オーストラリアなど）の医療事情Ⅰ
- 第10回その他の先進国の医療事情Ⅱ
- 第11回中進国（台湾、シンガポール、中国など）、途上国（ベトナム、インドネシア、タイなど）の医療教育
- 第12回中進国、途上国の医療事情Ⅰ
- 第13回中進国、途上国の医療事情Ⅱ
- 第14回学生プレゼンテーション
- 第15回学生プレゼンテーションとまとめ

評価方法

最終レポート（50%）、提出物（20%）、発表、討論など授業参加度（30%）
海外研修参加者は、事前・事後研修及び発表のパフォーマンス（30%）、研修レポート（30%）、研修中のパフォーマンス（40%）

使用教材

特に指定はない。各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと

授業外学習の内容

本講義では、学生主体のリサーチと発表やディスカッションを多く取り入れる。毎回十分な準備をしてこること。海外研修に参加する者は、受身ではなく積極的な参加意欲を常に意識すること。

Introduction to Healthcare Sciences (人間理解)

担当者

小澤 滯司、クリス・ターン、町田 修三、村上 孝、今井 純、長谷川 恵子

開講学科と時期・単位

全学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際しては特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。

到達目標

- ・医療に関する基礎的な内容に関して、英語での説明を理解できる。
- ・理解した内容について、第三者に説明できる。
- ・医療に関するトピックに関して、英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる。
- ・医療に関するトピックについて、外国の学生と話をすることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 Introduction of the course
- 第2回 Medical globalization Japan's healthcare system
- 第3回 Healthcare system of foreign countries
- 第4回 Cultural comparison on sex education I
- 第5回 Cultural comparison on sex education II
- 第6回 Using MedlinePlus to obtain medical information in English
- 第7回 Heavy-ino cancer therapy -the most advanced medical technology Developed in Japan-
- 第8回 Immunity and diseases I
- 第9回 Immunity and diseases II
- 第10回 Living environment and skin diseases
- 第11回 Healthcare in foreign countries I
- 第12回 Healthcare in foreign countries II
- 第13回 Mental health
- 第14回 Mental health and social skills
- 第15回 Summary and concluding remarks

評価方法

担当各教員による評価を総合して決定する。各教員は、毎回の授業参加度や講義終了時に課す提出物または小レポートにより、それぞれの持ち点に応じて学生を評価する。

使用教材

担当教員が授業中に配布する

授業外学習の内容

教材は毎回次週のものをもつて配布するので、理解度を担保するためにも必ず予習してくる。分からない単語は調べておくこと。

備考



英語 I A (リテラシー)

担当者

キース・ベアリー

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1 年前期必修 1 単位

講義目標

本講義の目的は学生の英語力を総合的に向上させることとともに学生の語彙力を高めることである。また、英語の本（多読教材）を読むことによって異文化理解や学生の教養を涵養する。英語を流暢に読めるように、読む速度を高めることに主眼を置く。具体的に、英語読本の「多読」を始め、語彙学習や速読訓練やリーディング・サークルでそれらについてグループ・ディスカッションし、自らの意見や解釈を発表することが主である。

到達目標

1. 英語を読む速度が早くなる（一分間 250 語を目指す）。
2. グループ・ディスカッションし、自らの意見や解釈を発表することができる。
3. 英単語の語彙力を 200 以上増やすこと。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Reading for Speed & Fluency 1; Vocabulary Test; Oxford Reading Level Test, Moodle Orientation
第 2 回 Reading for Speed & Fluency 2; Hand in Vocabulary Test & Oxford Reading Level Test Results
第 3 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 3; Book Spot 1
第 4 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 4; Reading Circle #1-1
第 5 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 5; Reading Circle #1-2
第 6 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 6; Book Spot 2
第 7 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 7; Reading Circle #2-1
第 8 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 8; Reading Circle #2-2
第 9 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 9; Book Spot 3
第 10 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 10; Reading Circle #3-1
第 11 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 11; Reading Circle #3-2; Reading list for Final Test
第 12 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 12; Book Spot 4
第 13 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 13; Reading Circle #4-1; Sign-up for Final Test
第 14 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 14; Reading Circle #4-2; Hand in Oxford Reading Level #2; Confirm Final Test
第 15 回 Reading for Speed & Fluency 15; Final Test & Reflection Paper

評価方法

多読プログラム 40%、平常点（単語小テスト、授業活動）30%、期末テスト 20%、リフレクション・ペーパー 10%

使用教材

Reading for Speed & Fluency 1, 単語帳, 配布プリント

授業外学習の内容

リーディング・サークルの活動について、事前に読んでおいて、自らのディスカッションで発表する内容を責任もって発表すること。また、英語読本を授業時間以外にも読むこと。

備考

授業に単語帳や辞書必携。講義の妨害となる私語、お喋り、途中退席、等は厳禁。

英語 I B (リテラシー)

担当者

ジム・ヘイ

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1 年前期必修 1 単位

講義目標

(1) 将来教育者になる学生が、幼児に英語会話の導入をするための援助をすること。
(2) 将来教育者になる学生が、安心して英語会話ができるようになる。
毎回の授業で学んだ過程は、そのまま保育園や幼稚園において幼児を教えるときに使用することが可能である。

到達目標

子どもたちに発音の仕方や読み方を教えることができる。英語を教える際に使う、簡単な単語や絵の描かれた教材カードを用いることができる。

講義内容と講義計画

第1回 Intro, rules, materials list, arrange room, CHURCH song
第2回 Assign and practice love/hate until no notes TEAPOT song
第3回 1/2 love/hate. Do 20 questions
第4回 1/2 love/hate. Do 20 questions
第5回 Learn word by teaching letter sounds(caaat=cat). JOE song
第6回 12 groups of 4 choose word to teach to kids. They choose teaching style (music, gesture, game, art, flashcards).
第7回 REVIEW greetings. Make word lesson and props
第8回 Make word Lesson and Props
第9回 Make word Lesson and Props (last day to work in class)
第10回 3 groups do word lessons, 10+ minutes each, ITSY BISTY SPIDER song, make copies
第11回 3 groups do word lessons, 10+ minutes each, BUS song, make copies
第12回 3 groups do word lessons, 10+ minutes each, HAPPY song, make copies
第13回 3 groups do word lessons, 10+ minutes each, make copies for next class
第14回 Folder and fill book, Song Review Day
第15回 Game Day Pictionary

評価方法

学生各自の進歩、授業への参加態度、試験、課題で評価する。

使用教材

授業用プリント (歌、ゲーム、新聞、絵)

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと。

備考

辞書は必携。

英語 I C (リテラシー)

担当者

アンドリュー・カズンズ

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1 年前期必修 1 単位

講義目標

This class' s goal is to help students to enjoy basic conversational English for travel, work etc. Lessons consist of both written and spoken exercises. I don' t generally give the students homework, but I advise them to work though the extra exercises given at the back of the textbook.

到達目標

To acquire basic conversational skill in English.

講義内容と講義計画

- 第1回 Introduction, Unit 1 Please Call Me Beth.
- 第2回 Unit 2 What Do you Do?
- 第3回 Unit 3 How Much Is It?
- 第4回 Unit 4 I Really Like Hip-Hop.
- 第5回 Unit 5 I Come from a Big Famil
- 第6回 Unit 6 How Often Do You Exercise?
- 第7回 Unit 7 We Had a Great Time!
- 第8回 Unit 8 What' s Your Neighborhood Like?
- 第9回 Unit 9 What Does She Look Like?
- 第10回 Unit 10 Have You Ever Ridden a Camel?
- 第11回 Unit 11 It' s a Very Exciting Place!
- 第12回 Unit 12 It Really Works!
- 第13回 Unit 13 May I Take Your Order?
- 第14回 Unit 14 The Biggest and the Best!
- 第15回 Unit 15 I' m Going to a Soccer Match.

評価方法

Assessment will be via a written 60 minute exam on the 15th lesson, which is based on material students will have studied in units 1-12 of the text book.

使用教材

Jack C. Richard, Interchange 4th Edition Level 1, Cambridge UP.

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと。

備考

辞書は必携。

英語ⅡA（リテラシー）

担当者

アンナ・イソザキ

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1 年後期必修 1 単位

講義目標

This courses goal is to help students to enjoy English for working with children, pleasure, and daily communication and media empowerment. Classes will be a mix of pair and group speaking and listening, reading and writing, and homework also, to get used to English and have fun building skills.

到達目標

For learners to feel more comfortable about using English in a variety of ways for their work life and own purposes.

講義内容と講義計画

第 1 回 Introductions; class goals and methods for skill-building. Pre-Unit 1: Meeting and learning about each other. First writing assignment.
第 2 回 Unit 1 Sharing our writing. “About Me.” English activities
第 3 回 Unit 2 and sharing English activities, Book Clubs
第 4 回 Unit 3 and English in the computer room; software and media resources
第 5 回 Unit 4 Children Just Like Me by Barnabas and Anabel Kindersley, and sharing English activities
第 6 回 Unit 5 and sharing English activities, Book Clubs
第 7 回 Unit 6 and sharing English activities
第 8 回 Unit 7 and sharing English activities
第 9 回 Unit 8 and English media on the Internet; finding out what you want to know
第 10 回 Unit 9 and sharing English activities, Book Clubs
第 11 回 Unit 10 and sharing English activities
第 12 回 Unit 11 and sharing English activities
第 13 回 Unit 12 and sharing English activities
第 14 回 Review, Book Clubs, and final assignments
第 15 回 Final: assignment portfolio submissions and role play performances, evaluations

評価方法

Attendance and participation 10%; many short quizzes of speaking English in classes 40%, also short graded assignments 20% and final exam 30%.

使用教材

未定

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと。

備考

Please contact me at anna-isozaki@nifty.com for anything.

英語ⅡB（リテラシー）

担当者

中村 博生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1 年後期必修 1 単位

講義目標

今や事実上の国際標準語とも言える英語は、多くの人々の母語というだけでなく、英語圏以外の人々とのコミュニケーションの手段として、またインターネット上の共通言語としても必須である。こうした現状を踏まえ、本講義では、ビデオ教材を用いながら場面に応じた実用表現を習得することを第一に、また学生の英語力(「読む」・「聞く」・「話す」能力)を総合的に向上させることを目的とする。

到達目標

国際化する現代日本において必要とされる日常的な英会話能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 Chapter 1: Where Do I Get the Bus?
- 第 3 回 Chapter 2: Do You Have a Reservation, Ma'am?
- 第 4 回 Chapter 3: Could You Repeat That?
- 第 5 回 Chapter 4: I'll Take the Wrangler Convertible
- 第 6 回 Review (1)
- 第 7 回 Chapter 5: Would You Like Soup or Salad?
- 第 8 回 Chapter 6: Where's the Fitting Room?
- 第 9 回 Chapter 7: Would You Mind Taking My Picture?
- 第 10 回 Review (2)
- 第 11 回 Chapter 8: Good to See You!
- 第 12 回 Chapter 9: I Enjoyed My Stay
- 第 13 回 Chapter 10: Aisle Seat, Please
- 第 14 回 Review (3)
- 第 15 回 Review (4)

評価方法

授業参加度(10%)、小テスト/課題遂行度(30%)、試験(60%)

尚、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

大八木廣人・Timothy Kiggell(1998).Viva! San Francisco: Video Approach to Survival English(楽しく学ぶケイコのサンフランシスコ).マクミランランゲージハウス.

授業外学習の内容

教員の指示に従い、e-learning に取り組むこと。

備考

辞書は必携。

英語ⅡC（リテラシー）

担当者

嶋田 和成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1 年後期必修 1 単位

講義目標

今や事実上の国際標準語とも言える英語は、多くの人々の母語というだけでなく、英語圏以外の人々とのコミュニケーションの手段として、またインターネット上の共通言語としても必須である。こうした現状を踏まえ、本講義では、ビデオ教材を用いながら場面に応じた実用表現を習得することを第一に、また学生の英語力(「読む」・「聞く」・「話す」能力)を総合的に向上させることを目的とする。

到達目標

国際化する現代日本において必要とされる日常的な英会話能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 Chapter 1: Where Do I Get the Bus?
- 第 3 回 Chapter 2: Do You Have a Reservation, Ma'am?
- 第 4 回 Chapter 3: Could You Repeat That?
- 第 5 回 Chapter 4: I'll Take the Wrangler Convertible
- 第 6 回 Review (1)
- 第 7 回 Chapter 5: Would You Like Soup or Salad?
- 第 8 回 Chapter 6: Where's the Fitting Room?
- 第 9 回 Chapter 7: Would You Mind Taking My Picture?
- 第 10 回 Review (2)
- 第 11 回 Chapter 8: Good to See You!
- 第 12 回 Chapter 9: I Enjoyed My Stay
- 第 13 回 Chapter 10: Aisle Seat, Please
- 第 14 回 Review (3)
- 第 15 回 Review (4)

評価方法

授業参加度(10%)、小テスト／課題遂行度(30%)、試験(60%)

尚、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

未定

授業外学習の内容

教員の指示に従い、e-learning に取り組むこと。

備考

辞書は必携。

英語Ⅲ A (リテラシー)

担当者

中村 博生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2 年前期必修 1 単位

講義目標

保育の現場にまつわる様々なテーマを扱う長文を読み、現場において、子どもたちや保護者との口語表現を中心に学ぶ。また、これに関連して基礎的な文法や語彙も確認する。

到達目標

英文読解の基礎的なスキル、とくにリーディングの力を向上させる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション、イントロダクション
- 第 2 回 The School Year Begins
- 第 3 回 Arrival
- 第 4 回 Playtime in the Classroom
- 第 5 回 In the Sandbox
- 第 6 回 In the Playground
- 第 7 回 Grammar1 一般動詞・be 動詞
- 第 8 回 Lunchtime
- 第 9 回 Changing Clothes and Story Time
- 第 10 回 Nap Time
- 第 11 回 Blowing Bubbles
- 第 12 回 A Sick Child
- 第 13 回 Grammar2 疑問文・否定文・命令文
- 第 14 回 Review(1)
- 第 15 回 Review(2)

評価方法

試験、授業内で課する課題の総合評価。ただし、三分の一以上欠席すると不可となるので注意すること。

使用教材

森田和子, 新保育の英語, 三修社, 2010.

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと。

備考

辞書は必携。

英語ⅢB（リテラシー）

担当者

出雲 春明

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2 年前期必修 1 単位

講義目標

今や事実上の国際標準語とも言える英語は、多くの人々の母語というだけでなく、英語圏以外の人々とのコミュニケーションの手段として、またインターネット上の共通言語としても必須である。こうした現状を踏まえ、本講義では、ビデオ教材を用いながら場面に応じた実用表現を習得することを第一に、また学生の英語力(「読む」・「聞く」・「話す」能力)を総合的に向上させることを目的とする。

到達目標

国際化する現代日本において必要とされる日常的な英会話能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 Chapter 1: Where Do I Get the Bus?
- 第 3 回 Chapter 2: Do You Have a Reservation, Ma'am?
- 第 4 回 Chapter 3: Could You Repeat That?
- 第 5 回 Chapter 4: I'll Take the Wrangler Convertible
- 第 6 回 Review (1)
- 第 7 回 Chapter 5: Would You Like Soup or Salad?
- 第 8 回 Chapter 6: Where's the Fitting Room?
- 第 9 回 Chapter 7: Would You Mind Taking My Picture?
- 第 10 回 Review (2)
- 第 11 回 Chapter 8: Good to See You!
- 第 12 回 Chapter 9: I Enjoyed My Stay
- 第 13 回 Chapter 10: Aisle Seat, Please
- 第 14 回 Review (3)
- 第 15 回 Review (4)

評価方法

授業参加度(10%)、小テスト/課題遂行度(30%)、試験(60%)

尚、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

未定

授業外学習の内容

教員の指示に従い、e-learning に取り組むこと。

備考

辞書は必携。

英語ⅢC（リテラシー）

担当者

松田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2 年前期必修 1 単位

講義目標

現代英米映画をダイジェストで鑑賞し、それについての短い論考を読むことで、リスニング、リーディング、ライティングのそれぞれの英語力を高める。

到達目標

映画についての論考を読み、読む、聞く、書く、という総合的な英語力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション、イントロダクション
- 第 2 回 Unit1 あの頃ペニー・レインと①(鑑賞、読解)
- 第 3 回 Unit1 あの頃ペニー・レインと②(読解、議論)
- 第 4 回 Unit2 リトル・ダンサー①(鑑賞、読解)
- 第 5 回 Unit2 リトル・ダンサー②(読解、議論)
- 第 6 回 Unit3 ブリジット・ジョーンズの日記①(鑑賞、読解)
- 第 7 回 Unit3 ブリジット・ジョーンズの日記①(読解、議論)
- 第 8 回 Unit4 アバウト・ア・ボーイ①(鑑賞、読解)
- 第 9 回 Unit4 アバウト・ア・ボーイ②(読解、議論)
- 第 10 回 Unit5 ボウリング・フォー・コロンバイン①(鑑賞、読解)
- 第 11 回 Unit5 ボウリング・フォー・コロンバイン②(読解、議論)
- 第 12 回 Unit6 メメント①(鑑賞、読解)
- 第 13 回 Unit6 メメント②(鑑賞、議論)
- 第 14 回 Unit7 めぐりあう時間たち①(鑑賞、読解)
- 第 15 回 Unit7 めぐりあう時間たち②(読解、議論)

評価方法

試験(60%)、出席(30%)、授業内で課する課題(10%)の総合評価。ただし、三分の一以上欠席すると不可となるので注意すること。

使用教材

Jim Knudsen 『語り合える映画たち Discussing Movies』南雲堂,2005.

授業外学習の内容

毎回単語小テストを課すので、復習を行う。また教員の指示に従って、e-learning に取り組むこと。

備考

辞書は必携。授業外学習として、不明な単語は事前に調べておくこと。

英語ⅣA（リテラシー）

担当者

アンナ・イソザキ

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2 年後期必修 1 単位

講義目標

his courses goal is to help students to enjoy English for working with children, pleasure, and daily communication and media empowerment. Classes will be a mix of pair and group speaking and listening, reading and writing, and homework also, to get used to English and have fun building skills.

到達目標

For learners to feel more comfortable about using English in a variety of ways for their work life and own purposes.

講義内容と講義計画

第 1 回 Introductions; class goals and methods for skill-building. Pre-Unit 1: Meeting and learning about each other. First writing assignment.
第 2 回 Unit 1 Sharing our writing. “About Me.” English activities
第 3 回 Unit 2 and sharing English activities, Book Clubs
第 4 回 Unit 3 and English in the computer room; software and media resources
第 5 回 Unit 4 Children Just Like Me by Barnabas and Anabel Kindersley, and sharing English activities
第 6 回 Unit 5 and sharing English activities, Book Clubs
第 7 回 Unit 6 and sharing English activities
第 8 回 Unit 7 and sharing English activities
第 9 回 Unit 8 and English media on the Internet; finding out what you want to know
第 10 回 Unit 9 and sharing English activities, Book Clubs
第 11 回 Unit 10 and sharing English activities
第 12 回 Unit 11 and sharing English activities
第 13 回 Unit 12 and sharing English activities
第 14 回 Review, Book Clubs, and final assignments
第 15 回 Final: assignment portfolio submissions and role play performances, evaluations

評価方法

Attendance and participation 10%; many short quizzes of speaking English in classes 40%, also short graded assignments 20% and final exam 30%.

使用教材

未定

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと。

備考

Please contact me at anna-isozaki@nifty.com for anything.

英語ⅣB（リテラシー）

担当者

中村 博生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2 年後期必修 1 単位

講義目標

保育の現場にまつわる様々なテーマを扱う長文を読み、現場において、子どもたちや保護者との口語表現を中心に学ぶ。また、これに関連して基礎的な文法や語彙も確認する。

到達目標

英文読解の基礎的なスキル、とくにリーディングの力を向上させる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション、イントロダクション
- 第 2 回 The School Year Begins
- 第 3 回 Arrival
- 第 4 回 Playtime in the Classroom
- 第 5 回 In the Sandbox
- 第 6 回 In the Playground
- 第 7 回 Grammar1 一般動詞・be 動詞
- 第 8 回 Lunchtime
- 第 9 回 Changing Clothes and Story Time
- 第 10 回 Nap Time
- 第 11 回 Blowing Bubbles
- 第 12 回 A Sick Child
- 第 13 回 Grammar2 疑問文・否定文・命令文
- 第 14 回 Review(1)
- 第 15 回 Review(2)

評価方法

試験、授業内で課する課題の総合評価。ただし、三分の一以上欠席すると不可となるので注意すること。

使用教材

森田和子, 新保育の英語, 三修社, 2010.

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと。

備考

辞書は必携。

英語ⅣC（リテラシー）

担当者

松田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2 年後期必修 1 単位

講義目標

ヨーロッパ、アジアなど、世界の国々の様々な英語を聞くことで、多様な異文化コミュニケーションについて理解し、また英語によるディスカッション能力を高める。

到達目標

英語教員に必要とされる英語コミュニケーション能力を身につける。

講義内容と講義計画

第1回 オリエンテーション、イントロダクション
第2回 New English
第3回 English in ASEAN
第4回 English and Middle East
第5回 English and Volunteerism
第6回 English in America
第7回 Australia
第8回 British Literature
第9回 The Bible
第10回 The Great English Divide
第11回 Journalism and English
第12回 Inclusive Education
第13回 Intercultural Communication
第14回 Learning Different Modes of Communication
第15回 Japanese Culture

評価方法

試験(60%)、出席(30%)、授業内で課する課題(10%)の総合評価。ただし、三分の一以上欠席すると不可となるので注意すること。

使用教材

竹下裕子、The Bridges of English Language Across the World1(世界の多様な英語 1)、松柏社、2007.

授業外学習の内容

毎回単語小テストを行うので、復習を行うこと。また、教員の指示に従って、e-learning に取り組むこと。

備考

辞書は必携。

Integrated English I (リテラシー)

担当者

クリストファー・ターン

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 1 単位

講義目標

本講義では、海外英語研修参加希望者を対象に、海外での生活における様々な場面を想定した英会話練習を行う。また、海外英語研修の事前準備についての説明も行う。但し、海外英語研修参加希望者以外も履修可。

到達目標

英語による日常会話レベルのコミュニケーション能力を獲得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 海外英語研修説明会 (1)
- 第 2 回 空港で : Can I have your passport, please?
- 第 3 回 両替所で : Can I change some money here?
- 第 4 回 道を探ねる : Go straight along Seventh Avenue?
- 第 5 回 週末の予定を立てる : Are you free this weekend?
- 第 6 回 レストランで注文する : Are you ready to order?
- 第 7 回 海外英語研修説明会 (2)
- 第 8 回 家族の紹介 : My father works in a bank.
- 第 9 回 相手の趣味を探ねる : What's your favorite food?
- 第 10 回 お店での支払い : How would you like to pay?
- 第 11 回 郵便局で : Can I send this airmail?
- 第 12 回 海外英語研修説明会 (3)
- 第 13 回 チケット売り場で : What time does the show start?
- 第 14 回 紛失物を探す : Where did you lose it?
- 第 15 回 別れの挨拶 : Goodbye and thanks!

評価方法

授業参加度 (10%)、小テスト/課題遂行度 (30%)、試験 (60%)

なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

開講時に指示する

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

Integrated English II (リテラシー)

担当者

真下 裕子

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 1 単位

講義目標

実践問題演習を通して、TOEIC テストの全貌と特徴、傾向と対策をおさえるとともに、スコアアップのための受験のストラテジーも習得する。

到達目標

TOEIC テスト 500 点以上を目指す。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction (TOEIC テストの概略説明と学習法)
- 第 2 回 Part 1
- 第 3 回 Part 2
- 第 4 回 Part 3
- 第 5 回 Part 4
- 第 6 回 Part 5
- 第 7 回 Part 6
- 第 8 回 Part 7
- 第 9 回 Part 1, 2
- 第 10 回 Part 3, 4
- 第 11 回 Part 5, 6
- 第 12 回 Part 7
- 第 13 回 模擬テスト (リスニング)
- 第 14 回 模擬テスト (リーディング)
- 第 15 回 模擬テスト解答と解説

評価方法

授業参加度 (10%)、小テスト/課題遂行度 (30%)、試験 (60%)。なお、授業回数数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

開講時に指示する

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。また、授業で学んだことの復習を徹底すること。

ドイツ語（リテラシー）

担当者

出雲 春明

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

初習者がドイツ語に親しみ、講義終了後も学習を継続していくための足がかりを築く。

到達目標

ドイツ語を正確に発音し、聞き取ることができる。また、初級文法を用いて基本的な会話を行い、読み書きすることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ドイツ語の表記と母音の発音
- 第3回 子音の発音
- 第4回 発音練習
- 第5回 Lektion1 人と知り合った時の表現
- 第6回 動詞の人称変化(1)、疑問文
- 第7回 Lektion2 人を誘う時の表現
- 第8回 動詞の人称変化(2)、ドイツ語の語順など
- 第9回 Lektion3 道の尋ね方
- 第10回 名詞の性、定冠詞と不定冠詞など
- 第11回 Lektion4 買い物をするときの表現
- 第12回 名詞と冠詞の3格、前置詞など
- 第13回 Lektion5 行動や日常生活を示すための表現
- 第14回 分離動詞、話法の助動詞など
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への参加とその態度(30%)、小テスト(30%)、期末試験(40%)から評価する。

使用教材

飯田直子・江口直光『アップフェールトスキットで学ぶドイツ語 (CD付)』三修社 2007年 2,400円

授業外学習の内容

予習は必ずしも求めない。だが、復習は必ず行うこと。基礎をおろそかにすると後になるほど理解がおぼつかなくなる。

備考

本格的にテキストを用いて学習していくのは、第2回からであるため、必ずしも、事前にテキストを購入しておく必要はない。

フランス語（リテラシー）

担当者

カディオンボ アナスタシー

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

フランス語に触れる

到達目標

文法が理解できて発音できるまで

講義内容と講義計画

- 第1回フランス語のアルファベット発音及び読み方
- 第2回読み方の練習と名詞の性
- 第3回読み方の練習と冠詞と形容詞
- 第4回読み方の練習と複数形と現在形
- 第5回動詞 être、avoir 否定形文章の作り方
- 第6回第1回～5回の総まとめ、動詞 aller、faire
- 第7回読み方の練習と複合過去
- 第8回読み方の練習と複合過去の否定
- 第9回質問の作り方
- 第10回読み方の練習と前置詞
- 第11回第1回～第10回の総まとめ
- 第12回読み方の練習と半過去
- 第13回読み方練習と未来形
- 第14回読み方の練習と聞くことの練習
- 第15回フリートーク、質問

評価方法

筆記試験

使用教材

フランスの小学校で使われている本

授業外学習の内容

テキストを基に、予習と復習を行うことが望ましい。

備考

ポルトガル語（リテラシー）

担当者

伊勢島セリア明美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

ポルトガル語の基本文法と初歩の会話の習得を目標とする。

到達目標

初歩の会話ができるようになると共にブラジル文化を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回動詞 ser、挨拶、疑問文と否定文、会話1
- 第2回名詞の特徴、指示詞、所有形容詞
- 第3回動詞 ter、形容詞、定冠詞と不定冠詞、会話2
- 第4回動詞 estar、場所を示す副詞、会話3
- 第5回規則動詞の現在形、動詞 gostar、会話4
- 第6回動詞 ir、未来や意志の表現、疑問詞、会話5
- 第7回動詞 querer と preferir、数詞1、曜日、会話6
- 第8回動詞 poder、不定形容詞
- 第9回動詞 saber と conhecer、現在進行形、会話7
- 第10回再帰代名詞、時間の表現、数詞2
- 第11回完全過去、動詞 conseguir、月の名前、会話8
- 第12回形容詞の比較級と最上級、会話9
- 第13回不完全過去、過去進行形、会話10
- 第14回目的語代名詞、受動態、会話11
- 第15回まとめ

評価方法

授業貢献度

使用教材

ニューエクスプレスブラジルポルトガル語香川正子著白水社¥1,995

授業外学習の内容

テキストを基に、予習と復習を行うことが望ましい。

備考

中国語（リテラシー）

担当者

渡邊 賢

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

中国は、古代から現在に到るまでの我が国にとって、文化・経済また安全保障の面においても無縁ではあり得ない隣国である。中国を理解する上で不可欠である中国語の基礎を習得することは、学生個々および我が国の将来にとって有益なはずである。

到達目標

中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な構文を身に付ける。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起したい。

講義内容と講義計画

- 第1回が「イ」：授業の展開の仕方、中国およびその言語に関する概略的な説。
- 第2回発音の基礎Ⅰ：ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。
- 第3回発音の基礎Ⅱ：複合母音、「声(子音)」の唇音・舌尖音・舌根音などを学習する。
- 第4回発音の基礎Ⅲ：鼻母音、「声(子音)」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。
- 第5回発音の基礎Ⅳ：「軽声」および四声の組み合わせの学習。発音の基礎の総復習。
- 第6回教科書基本編レッスン1・レッスン2：簡単なあいさつの学習。
- 第7回教科書基本編レッスン3・レッスン4：名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習
- 第8回教科書基本編レッスン5・レッスン6：指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習
- 第9回教科書基本編レッスン7・レッスン8：中国語の主述構造(主謂構造)などについての学習。
- 第10回教科書基本編レッスン9・レッスン10：疑問代詞、数詞などの学習。
- 第11回教科書基本編レッスン11・レッスン12：数量や時刻を尋ねる疑問代詞などについての学習。
- 第12回発音と語法の総復習Ⅰ
- 第13回発音と語法の総復習Ⅱ
- 第14回発音と語法の総復習Ⅲ
- 第15回まとめ

評価方法

評価は授業時毎回の小試験を50%、学期末筆記試験の成績を50%とする。

使用教材

小幡敏行「大学一年生のための合格中国語」朝日出版社

授業外学習の内容

中国語の一語は、日本語の子音にあたる「声」と母音にあたる「韻」と、および高低のトーンである「調」とから構成され、この三者が正確に発音されなければ、相手に伝わる「コトバ」にはなり得ない。したがって授業は、最も基礎的な構文の徹底した反復学習によって中国語の発音ができる口を作ることに力点を置いて展開する。外国語の発音の習得は、困難なことでは決してないが、習慣的な学習の蓄積と、ある程度の忍耐が肝要である。履修者には、この点を心得てほしい。

備考

ハングル語（リテラシー）

担当者

河正一

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

韓国語で日常の基本的な会話ができるようになることである。取り分け、初級レベルの韓国語運用能力を身につける。

到達目標

正確な発音、正確な文字表記を習得する。
基本的な韓国語の4技能の「聞く」「話す」「読む」「書く」能力を向上させる。

講義内容と講義計画

第1回韓国語について、基本母音
第2回子音、複合母音
第3回パッチム、発音の変化
第4回第1課、私は浅井ゆかりです。
第5回第2課、出身はソウルです。
第6回第3課、図書館ではありません。
第7回第4課、時間がありますが。
第8回第5課、インターネットをします。
第9回第6課、貿易会社で働いています。
第10回第7課、東大門市場に行きます。
第11回第8課、しょっちゅうスーパーで買います。
第12回第9課、それは1万ウォンです。
第13回第10課、今、何時ですか。
第14回第11課、日本語を話されますか。
第15回まとめ

評価方法

授業参加度(30%)、小テスト(30%)、期末試験(40%)

使用教材

木内明(2004)『基礎から学ぶ韓国語講座初級』国書刊行会(2,205円)

授業外学習の内容

必ず予習・復習を行うこと

備考

質問等がある場合は hajeongil007@gmail.com までに

コンピュータ入門Ⅰ（リテラシー）

担当者

片山 豪、木幡 直樹

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 2単位

講義目標

インターネット、電子メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーション等各種ソフトウェアの基本的な操作方を学習する。

到達目標

保育所、幼稚園、小学校等の教育現場で校務を遂行するためのコンピュータの基本的な技術を習得する。

講義内容と講義計画

第1回 学内コンピュータの利用法、Windowsの基本操作、情報セキュリティ
第2回 インターネットの情報検索、電子メールの基本操作
第3回 Word 文書作成の基本操作・文字列の入力
第4回 Word 文書の作成(1) 基本的な文書の作成、書式の設定
第5回 Word 文書の作成(2) 文書の編集、文書の印刷
第6回 Word 文書の作成(3) 表と図表の作成
第7回 Word 課題、レポート作成
第8回 Excel 基本操作(1) セルとワークシート
第9回 Excel 基本操作(2) 集計表の作成
第10回 Excel の関数
第11回 Excel 課題、レポート作成
第12回 PowerPoint プレゼンテーション作成の基本操作
第13回 PowerPoint 図形の描画
第14回 PowerPoint プレゼンテーション効果の活用、アニメーション
第15回 PowerPoint 課題、レポート作成

評価方法

授業への取り組み、貢献度、提出された課題の内容を総合的に評価する。

使用教材

30時間でマスターoffice2010（実教出版）、自作プリント等。授業中において紹介

授業外学習の内容

授業で学習した内容を元に課題を出す。

備考

コンピュータ入門Ⅱ（リテラシー）

担当者

片山 豪、木幡 直樹

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

コンピュータ入門Ⅰでの学習したソフトの応用編及び関連付けを学ぶ。また、データベース、ホームページ作成、グラフ作成等その他の教育関連のソフトウェアの基本的な操作方法を学習する。

到達目標

保育所、幼稚園、小学校等の教育現場で行われているコンピュータを用いた校務の応用的な技術を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 Windows の操作応用編、電子メールの操作応用編
- 第2回 Access 基本操作(1)データベースソフト
- 第3回 Access 基本操作(2)テーブルの作成
- 第4回 Access 基本操作(3)レポート印刷
- 第5回 Access の課題、レポート作成
- 第6回 Word 操作応用編(表、グラフ、画像等の挿入)
- 第7回 Excel 操作応用編(関数とグラフ)
- 第8回 Excel と Word の連携(差し込み印刷)
- 第9回 Excel と Word の連携課題データの入力、レポート作成
- 第10回 PowerPoint 操作応用編(表、グラフ、写真等の挿入)
- 第11回 PowerPoint 課題、レポート作成
- 第12回ホームページの作成(1)文章の表示、ページのレイアウト
- 第13回ホームページの作成(2)表組みの作成、画像、音、映像の表示
- 第14回ホームページの課題、レポート作成
- 第15回研究のための情報検索、図書検索、論文検索

評価方法

授業への取り組み、貢献度、提出された課題の内容を総合的に評価する。

使用教材

自作プリント等。授業中において紹介。

授業外学習の内容

授業で学習した内容を元に課題を出すことがある。

備考

コンピュータ実習 I (リテラシー)

担当者

片山 豪、木幡 直樹

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 1単位

講義目標

コンピュータ入門 I での学習をもとにして、①保育所、幼稚園、小学校での教育に関する情報の入手、②情報の交換、③校務分掌等で使用される文書、クラス便り・学級通信の作成、④保育所、幼稚園、小学校で行われている会計処理、⑤授業、研修会、保護者会でのプレゼンテーションをおこなえるように実際作成する。

到達目標

コンピュータを用いて保育所、幼稚園、小学校等の教育現場での保育や授業、校務における実践力や問題解決能力を養う。

講義内容と講義計画

- 第1回 教育現場におけるコンピュータの活用
- 第2回 インターネット、電子メールの活用
- 第3回 Word を用いた文書の実践(1) 自己紹介文作成
- 第4回 Word を用いた文書の実践(2) 案内状の作成
- 第5回 Word を用いた文書の実践(3) 授業プリントの作成
- 第6回 Word を用いた文書の実践(4) テストの作成
- 第7回 Word を用いた文書の実践(5) クラス便り・学級通信の作成
- 第8回 Excel を用いた文書の実践(1) スケジュール表の作成
- 第9回 Excel を用いた文書の実践(2) レポート集計表の作成
- 第10回 Excel を用いた文書の実践(3) 会計処理表の作成
- 第11回 Excel を用いた文書の実践(4) 座席表、緊急連絡網の作成
- 第12回 PowerPoint を用いたプレゼンテーションの実践(1) テーマ決定
- 第13回 PowerPoint を用いたプレゼンテーションの実践(2) 課題作成
- 第14回 PowerPoint を用いた課題発表会(1) 教員、保護者向け資料
- 第15回 PowerPoint を用いた課題発表会(2) 生徒向け資料

評価方法

授業への取り組み、貢献度、提出された課題の内容、発表会でのプレゼンテーション能力等を総合的に評価する。

使用教材

30時間でマスターoffice2010 (実教出版)、自作プリント等。授業中において紹介。

授業外学習の内容

授業で学習した内容を元に課題を出す。

備考

コンピュータ実習Ⅱ（リテラシー）

担当者

片山 豪、木幡 直樹

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 1単位

講義目標

コンピュータ入門Ⅱでの学習をもとにして、保育、授業等の教育活動でのコンピュータの活用の技能を深化するために、各課題に応じた教材を作成し、発表する。

到達目標

良い授業をする能力やプレゼンテーション能力を養う。また、成績処理、HPの作成など教育現場で必要とされる人材になるための能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 プログラム、メニューリスト
- 第2回 教育現場におけるデータベースソフトの利用
- 第3回 Accessを用いた文書の実践(1)成績表のテーブルの作成
- 第4回 Accessを用いた文書の実践(2)成績表のフォームの作成
- 第5回 Accessを用いた文書の実践(3)成績表のフォームの作成
- 第6回 Accessを用いた文書の実践(4)レポート作成
- 第7回 Excel 操作応用編(関数とグラフ)
- 第8回 Excel と Word の連携(差し込み印刷)
- 第9回 Excel と Word の連携レポート作成
- 第10回 PowerPoint 操作応用編(表、グラフ、写真等の挿入)
- 第11回 PowerPoint 課題、レポート作成
- 第12回 ホームページの作成(1)文章の表示、ページのレイアウト
- 第13回 ホームページの作成(2)表組みの作成、画像、音、映像の表示
- 第14回 ホームページの作成(3)
- 第15回 ホームページの課題発表会

評価方法

授業への取り組み、貢献度、提出された課題の内容等を総合的に評価する。

使用教材

自作プリント等。授業中において紹介。

授業外学習の内容

授業で学習した内容を元に課題を出す。

備考

レクリエーション論（専門教養科目）

担当者

大家 千枝子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

レクリエーションという世界に関心・興味を持つ学生のための入門的な授業

到達目標

- 1 知識・理解の観点：レクリエーションの意義、歴史、使命、仕組み、制度、現代社会の課題を確認する。またそのうえでレクリエーション支援が必要とされる具体的な場面について理解を深める。
- 2 思考・判断の観点：楽しさを原動力としたレクリエーション事業の類別ができる。
- 3 関心・意欲の観点：自らの経験を振り返りながらレクリエーション活動に積極的にに関わり、問題意識をもつことができる。
- 4 態度の観点：積極的にレクリエーション事業に取り組むことができる。
- 5 技能・表現の観点：レクリエーション事業の計画・実施・評価を考える上で必要な資料や情報を収集し、適切な方法で表現できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス、レクリエーションとは
- 第2回 レクリエーションの基礎理論
- 第3回 レクリエーションの意義
- 第4回 レクリエーション運動を支える制度
- 第5回 レクリエーション支援の理論
- 第6回 ライフスタイルとレクリエーション
- 第7回 少子高齢化社会の課題とレクリエーション
- 第8回 レクリエーション事業論
- 第9回 レクリエーション事業とは
- 第10回 事業計画Ⅰ 集団を介して個人にアプローチする事業の作り方 (1)
- 第11回 事業計画Ⅰ 集団を介して個人にアプローチする事業の作り方 (2)
- 第12回 事業計画Ⅱ 市民を対象とした事業の作り方 (1)
- 第13回 事業計画Ⅱ 市民を対象とした事業の作り方 (2)
- 第14回 安全管理
- 第15回 まとめ

評価方法

レポート課題 50%、授業態度・授業への参加度 30%、授業内での発表 20%

使用教材

自作プリントを適宜配布する。また参考書を適宜紹介する。

授業外学習の内容

授業終了時に配布する課題を期日までに完成させておくこと。また日頃から新聞やニュース、地域情報などをチェックし、学外のさまざまな分野で行われているレクリエーション活動に関心・興味をもつこと。また地元や身近な地域で開催されるレクリエーション事業に積極的に参加すること。

備考

授業ごとに課題の配布、提出がある。授業を欠席した学生はその週のうちに課題を研究室まで取りに来ること

(健康福祉学部 1 号館 3 階 302)。また、積極的に C-Learning を活用する授業のため、ネット環境を整えておくこと（無理な場合は大学 PC 室を利用してください）。

子どもと医療（専門教養科目）

担当者

田島 貞子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

子どもは、発熱やけいれん等突発的な症状を起こすことが多いので、その特性を学ぶ。
また、入院中の子どもやその保護者への支援の方法や、疾病を持ちながら社会生活を送っている子ども達がより快適に過ごすことができるための方策を考えるとともに、「命」について、「健康」についてを考える。

到達目標

1. 子どもに多い疾患とその対応について理解することができる。
2. 医療を必要とする子どもや保護者の気持ちを理解することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回オリエンテーション
- 第2回健康について考える
- 第3回病院の仕組み、用語の解説
- 第4回子どもに多い疾患についての理解(1)
- 第5回子どもに多い疾患についての理解(2)
- 第6回入院中の子ども達への理解と支援(1)
- 第7回入院中の子ども達への理解と支援(2)
- 第8回子どもの気持ち、家族の気持ち(1)
- 第9回子どもの気持ち、家族の気持ち(2)
- 第10回子どもの病気への対応(1)
- 第11回子どもの病気への対応(2)
- 第12回子どもへの支援、家族への支援
- 第13回医療を必要とする子ども達への施策(1)
- 第14回チーム医療の一員としての役割
- 第15回まとめ

評価方法

レポート 80%、授業参加度・学習態度 20%で評価する。

使用教材

必要により資料を配布する。

授業外学習の内容

- ・事前に配布する資料を読み、専門用語、特に医学用語について事前に調べておくこと。
- ・「電池が切れるまで」（角川書店）、「ダウン症のおともだち」（ミネルヴァ書房）、その他授業中に紹介する図書や「命」に関する図書を読むこと。

備考

病院の見学を考えていますので、必ず4.疾患(麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎)の抗体検査を受け、抗体価が低い場合には、授業開始までに予防接種を受けておいて下さい。

メールアドレス tajima@takasaki-u.ac.jp

宗教と倫理（専門教養科目）

担当者

出雲 春明

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

東西の代表的な宗教・倫理思想に触れることで、世の多様な価値観への理解を養うことを目的とする。また、それによって自己の在り方に対する客観的・批判的な視座を養う。

到達目標

講義で取り扱った諸宗教・倫理思想の基本について説明することができる。そして、それを自己理解、他者理解に役立てることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回オリエンテーション
- 第2回『聖書』の思想：-神教の系譜
- 第3回善人とは何か-『旧約聖書』（『ヨブ記』）より(1)「応報主義」の論理
- 第4回善人とは何か-『ヨブ記』より(2)生誕の災い
- 第5回善人とは何か-『ヨブ記』より(3)自己の在り方を省みる
- 第6回善人とは何か-『ヨブ記』より(4)現代の事例から考える
- 第7回善人とは何か-『ヨブ記』より(5)「応報主義」を超えるもの
- 第8回旧約から新約へ：イエスの教え
- 第9回悪人とは何か-『歎異抄』より(1)『歎異抄』について
- 第10回悪人とは何か-『歎異抄』より(2)罪の意識
- 第11回悪人とは何か-『歎異抄』より(3)浄土思想の展開(1)
- 第12回悪人とは何か-『歎異抄』より(4)浄土思想の展開(2)
- 第13回悪人とは何か-『歎異抄』より(5)「悪人正機説」
- 第14回悪人とは何か-『歎異抄』より(6)悪の不可避性とそれゆえの無力
- 第15回総括

評価方法

授業への参加とその態度(30%)、課題・期末レポート(60%)から評価する。

使用教材

講義中に資料を配布する

授業外学習の内容

なるべく平易な表現を用いて講義を行う。特に予習は求めないが、配布された資料を読むなど復習は必ず行うこと。

備考

「宗教」は非日常的なものとして敬遠されることも多い。しかし、だからこそ、そこで語られる教えや物語は、私たちが日常を省みるための機会を提供してくれる。自分が普段、どのような判断や行動をしているか、常に考えつつ、講義に臨んで欲しい。

人間発達論（専門教養科目）

担当者

角野 善司

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 2単位

講義目標

この科目は、人間の発達に関する入門的な講義である。経験則にとどまらず、科学的に人間発達をとらえる目を養い、4年間の学習の基盤を作ることを目指す。

到達目標

主要な発達理論について説明できる。
発達と家族のかかわりについて説明できる。
発達と社会のかかわりについて説明できる。
発達の障害について説明できる。

講義内容と講義計画

第1回 発達とは何か
第2回 発達観の変遷
第3回 発達の規定因
第4回 発達と家族(1):子どもの育ちと家族
第5回 発達と家族(2):親としての発達
第6回 発達と家族(3):個人の発達と家族の発達
第7回 発達と社会(1):社会・文化と人間発達
第8回 発達と社会(2):コミュニティの中での発達
第9回 発達と社会(3):学校教育
第10回 発達と社会(4):社会教育
第11回 発達の障害(1):発達の障害とは何か
第12回 発達の障害(2):障害児(者)の発達
第13回 学習の発達
第14回 言語・認知の発達
第15回 社会性・パーソナリティの発達

評価方法

毎回の宿題 45%、学期末テスト 40%、学期末レポート 15%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、テストの受験・レポートの提出を認めない。

使用教材

青柳肇・野田満（編）「ヒューマン・ディベロップメント」ナカニシヤ出版

授業外学習の内容

毎回、復習課題と小レポートを宿題として課す。授業内容をしっかりと振り返り回答すること。また、テキストの次回該当箇所を必ず予習して授業に臨むこと。

備考

人間行動学（専門教養科目）

担当者

渡辺 俊之

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

幼児教育や小学校教育において、保育士や教員を目指す学生は、基本的な対人行動理論を知っておく必要がある。

深層心理の観点から「転移」や「逆転移」を説明し、子どもが時に教師に親を投影したり、家族が教師に対して様々なイメージを投影する心理的メカニズムを学ぶことが目的である。患者医師関係も学童教師関係も転移と逆転移織りなす世界である。

到達目標

適切な対人関係のための理論を学ぶ。転移や逆転移と教育現場について。さまざまな心理的葛藤を抱える子どもと親子の関係など、基本的な対人関係の理論と心の病に関する知識について学ぶ。他の学科との合同授業であり、視点の広がりを期待する。

講義内容と講義計画

- 第1回 人間行動としての看護
- 第2回 患者の現実を把握する能力
- 第3回 人間関係をつくる能力(対象関係)
- 第4回 感情をコントロールする能力
- 第5回 自己愛と愛他主義
- 第6回 自我の機能(防衛)
- 第7回 ハテイヤップとスティグマ
- 第8回 ケアを受ける人の共通感情-否定的感情-
- 第9回 ケアを受ける人の共通感情-肯定的感情-
- 第10回 退行(心の子ども返り)
- 第11回 対象喪失とモニング
- 第12回 転移について
- 第13回 逆転移について
- 第14回 疾病利得と心身症
- 第15回 まとめ

評価方法

マークシートによる試験

使用教材

新版「ケアを受ける人の心を理解するために」 渡辺俊之著中央法規

授業外学習の内容

実際の対人関係場面などで、転移や逆転移、退行などの現象を体験理解してみる。日々、内省に努める。

備考

音楽基礎 I (専門教養科目)

担当者

吉田 恵子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 1単位

講義目標

音楽を学ぶにあたって必要な①音楽用語など楽典の基礎的知識、②五線譜が読めたり書いたりできる力、③子どもの歌の曲の簡単な楽譜を見て歌ったり弾いたりする力、④ピアノ等の基礎的な演奏技術の習得、を目指す。現場で用いられる多くの曲例を紹介しながら、具体的な実演を交えて進め、よりよい指導者としての音楽的感性や基礎を培う。

到達目標

保育・幼児教育及び初等教育現場において、最低限必要な音楽の基礎知識と演奏技術を習得することを目的とする。ピアノ初学者対象。

講義内容と講義計画

第1回 1) リンテーション、2) 電子ピアノとピアノの構造、歴史 3) 楽譜の知識①高音部譜表、音名、音符 4) 奏法の基礎①運指
第2回 1) 電子ピアノの機能と奏法 2) 楽譜の知識②低音部譜表、拍子、音の長さ
第3回 1) 音階 2) コード譜の読み方と演奏法
第4回 1) 長調と短調、マイナーとメジャーコード 2) 第1回検定
第5回 1) 全音と半音全音音階と半音階
第6回 ガゼットの機能
第7回 ガゼットの実際: ガゼットからみる子どもの歌
第8回 1) 弾き歌い①前奏、間奏 2) 第2回検定
第9回 弾き歌い②ベースとメロディ唱
第10回 弾き歌い③コード伴奏とメロディ唱
第11回 弾き歌い④ベースとメロディ奏、メロディ唱
第12回 1) 弾き歌い⑤アルペジオ 3) 第3回検定
第13回 音によるコミュニケーション①デュオ
第14回 音によるコミュニケーション②アンサンブル
第15回 聞き手に伝える表現: 実技発表と相互評価

評価方法

筆記試験 30%、実技発表 30%、毎回の授業課題 40%を総合する

使用教材

井戸和秀編『こどものうた 100』チャイルド本社、石川良子著『はじめての楽譜の読み方』ケイ・エム・ピー、教育芸術社初等科音楽教育研究会編『最新初等科音楽教育法』音楽之友社、そのほか資料を配布する

授業外学習の内容

- ・「ピアノ課題は毎日練習して授業に臨むこと」
- ・「楽譜を読み、リズムや音取りをする練習をできるだけ多く取ること」
- ・「練習では必ず歌いながら弾くこと」

備考

・集団レッスンのため、欠席すると課題に遅れが生じる。欠席の場合は必ず課題を入手して次の授業に臨むこと。

音楽基礎Ⅱ（専門教養科目）

担当者

岡本 拓子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 1単位

講義目標

本授業では音楽基礎Ⅰに引き続き、保育士や幼稚園および小学校の教員に必要な、音楽に関する基礎知識と実践的な演奏技術を習得することを目的とする。具体的には音楽の基礎理論と技術、読譜力やソルフェージュ力、およびピアノ等の楽器の基礎的な演奏技術や弾き歌いの習得をめざす。

到達目標

- ①音程、音階、調号、和声・コードおよびリズム等、音楽に関する基礎知識について理解する。
- ②新曲視唱、リズム奏等のソルフェージュ力を習得する。
- ③習熟度に応じ、ピアノ等の楽器演奏技法を習得する。
- ③伴奏しながら歌う弾き歌いの演奏技法を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回:リエンションと習熟度判定(音楽理論に関する小テスト, 新曲視唱)
- 第2回:音程と音階
- 第3回:近親調と遠隔調
- 第4回:移調
- 第5回:調判定
- 第6回:検定試験①(理論に関する知識)
- 第7回:和声
- 第8回:コード・ネーム
- 第9回:コード奏法
- 第10回:検定試験②(コード伴奏)
- 第11回:視唱とリズム奏
- 第12回:子どもの歌の伴奏法
- 第13回:子どもに聴かせたいピアノ曲
- 第14回:検定試験③(新曲視唱, 伴奏法)
- 第15回:総合発表

評価方法

授業への参加度、定期的に行う検定試験および期末試験等総合的に評価する。

使用教材

井戸和秀編『こどものうた 100』チャイルド本社、石川良子著『はじめての楽譜の読み方』ケイ・エム・ピー、教育芸術社初等科音楽教育研究会編『最新初等科音楽教育法』音楽之友社、そのほか資料を配布する。

授業外学習の内容

- ・「ピアノ課題は毎日練習して授業に臨むこと」
- ・「楽譜を読み、リズムや音取りをする練習をできるだけ多く取ること。」
- ・「練習では必ず歌いながら弾くこと」

備考

集団レッスンのため、欠席すると課題に遅れが生じる。欠席の場合は必ず課題を入手して次の授業に臨むこと。MST3級不合格者は履修する。

現代教育論 I (専門教養科目)

担当者

森部 英生、今井 邦枝、斎藤 順二

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

Iでは、主に現代教育を人文・社会との関連で取り上げる。関係する専門の教員複数名が輪番で担当し、それぞれの観点から現代教育の状況や課題等について説く。毎回課題文を提出させる。

到達目標

保育・教育に携わる者として有しておくべきと思われる現代教育の諸相を明確に認識するとともに、学生各人が今後の大学生活において何をどのように学ぶかについて、自覚と興味を抱くようにする。

講義内容と講義計画

- 第1回現代教育と法(1)(森部英生)法規範、公教育、制度
- 第2回現代教育と法(2)(森部英生)教育法、憲法、教育基本法、
- 第3回現代教育と法(3)(森部英生)学校制度、幼児教育関連法制、初等教育
- 第4回現代教育と法(4)(森部英生)教育内容法制、生徒指導法制
- 第5回現代教育と法(5)(森部英生)学校事故、特別活動
- 第6回現代教育と法(6)(森部英生)教職員法制、教育行政、教育裁判
- 第7回現代教育と文学・言語(1)(斎藤順二)
- 第8回現代教育と文学・言語(2)(斎藤順二)
- 第9回現代教育と文学・言語(3)(斎藤順二)
- 第10回現代教育と文学・言語(4)(斎藤順二)
- 第11回現代教育と文学・言語(5)(斎藤順二)
- 第12回現代教育と文学・言語(6)(斎藤順二)
- 第13回現代教育と生活(1)(今井邦枝)
- 第14回現代教育と生活(2)(今井邦枝)
- 第15回現代教育と生活(3)(今井邦枝)

評価方法

毎回提出する課題文および授業への貢献度等を総合して評価する。

使用教材

各教員による自作のプリント等

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、配布されたプリントや問題集をしっかり復習しておくこと。毎時間の報告に当たった学生は、当該テーマについて十分な準備をしておくこと。報告に当たった場合は、当該テーマについて十分な準備をしておくこと。

備考

現代日本の保育・教育は極めて難しい状況にあります。この授業では、そうした状況を認識するとともに、将来保育者・教育者となるに必要な知見を養うことをめざします。緊張感を持って授業に臨むよう期待します。

現代教育論Ⅱ（専門教養科目）

担当者

片山 豪、木幡 直樹、嶋田 和成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 必修 1単位

講義目標

Ⅱでは、主に現代教育を自然科学・英語との関連で取り上げる。関係する専門の教員複数名が輪番で担当し、それぞれの観点から現代教育の状況や課題等について説く。毎回課題文を提出させる。

到達目標

教育に携わる者として有しておくべきと思われる現代教育の諸相を明確に認識するとともに、学生各人が今後の大学生活において何をどのように学ぶかについて、自覚と興味を抱くようにする。

講義内容と講義計画

第1回現代教育と数理(1)(木幡直樹)
第2回現代教育と数理(2)(木幡直樹)
第3回現代教育と数理(3)(木幡直樹)
第4回現代教育と数理(4)(木幡直樹)
第5回現代教育と数理(5)(木幡直樹)
第6回現代教育と科学(1)(片山豪)
第7回現代教育と科学(2)(片山豪)
第8回現代教育と科学(3)(片山豪)
第9回現代教育と科学(4)(片山豪)
第10回現代教育と科学(5)(片山豪)
第11回現代教育と英語(1)(嶋田和成)
第12回現代教育と英語(2)(嶋田和成)
第13回現代教育と英語(3)(嶋田和成)
第14回現代教育と英語(4)(嶋田和成)
第15回現代教育と英語(5)(嶋田和成)

評価方法

毎回提出する課題文および授業への貢献度等を総合して評価する。

使用教材

各教員の自作のプリント等

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、配布されたプリントや問題集をしっかり復習しておくこと。毎時間の報告に当たった学生は、当該テーマについて十分な準備をしておくこと。報告に当たった場合は、当該テーマについて十分な準備をしておくこと。

備考

現代日本の保育・教育は極めて難しい状況にあります。この授業では、そうした状況を認識するとともに、将来保育者・教育者となるに必要な知見を養うことをめざします。緊張感を持って授業に臨むよう期待します。

現代教育論Ⅲ（専門教養科目）

担当者

岡本 拓子、吉田 恵子、石原 綱成、山西 加織

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 必修 1単位

講義目標

Ⅲでは、主に現代教育を実技系（芸術・体育）分野との関連で取り上げる。関係する専門の教員複数名が輪番で担当し、それぞれの観点から現代教育の状況や課題等について説く。毎回課題文を提出させる。

到達目標

教育に携わる者として有しておくべきと思われる現代教育の諸相を明確に認識するとともに、学生各人が今後の大学生活において何をどのように学ぶかについて、自覚と興味を抱くようにする。

講義内容と講義計画

- 第1回現代教育と音楽(1) (岡本拓子)
- 第2回現代教育と音楽(2) (岡本拓子)
- 第3回現代教育と音楽(3) (岡本拓子)
- 第4回現代教育と音楽(4) (吉田恵子)
- 第5回現代教育と音楽(5) (吉田恵子)
- 第6回現代教育と美術(1) (石原綱成)
- 第7回現代教育と美術(2) (石原綱成)
- 第8回現代教育と美術(3) (石原綱成)
- 第9回現代教育と美術(4) (石原綱成)
- 第10回現代教育と美術(5) (石原綱成)
- 第11回現代教育と体育・健康(1) (山西加織)
- 第12回現代教育と体育・健康(2) (山西加織)
- 第13回現代教育と体育・健康(3) (山西加織)
- 第14回現代教育と体育・健康(4) (山西加織)
- 第15回現代教育と体育・健康(5) (山西加織)

評価方法

毎回提出する課題文および授業への貢献度等を総合して評価する。

使用教材

各教員の自作のプリント等

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、配布されたプリントや問題集をしっかり復習しておくこと。毎時間の報告に当たった学生は、当該テーマについて十分な準備をしておくこと。報告に当たった場合は、当該テーマについて十分な準備をしておくこと。

備考

現代日本の保育・教育は極めて難しい状況にあります。この授業では、そうした状況を認識するとともに、将来保育者・教育者となるに必要な知見を養うことをめざします。緊張感を持って授業に臨むよう期待します。

現代教育論Ⅳ（専門教養科目）

担当者

森部 英生、板津 裕己、松田 直、深見 匡

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 必修 1単位

講義目標

Ⅳでは、主に現代教育を教育学・心理学との関連で取り上げる。関係する専門の教員が輪番で担当し、それぞれの観点から現代教育の状況や課題等について説く。毎回課題文を提出させる。

到達目標

教育に携わる者として有しておくべきと思われる現代教育の諸相を明確に認識するとともに、学生各人が今後の大学生活において何をどのように学ぶかについて、自覚と興味を抱くようにする。

講義内容と講義計画

- 第1回現代教育の原理(1) (深見匡)
- 第2回現代教育の原理(2) (深見匡)
- 第3回現代教育の原理(3) (深見匡)
- 第4回現代教育の原理(4) (深見匡)
- 第5回現代教育の原理(5) (深見匡)
- 第6回現代教育と心理学(1) (板津裕己)
- 第7回現代教育と心理学(2) (板津裕己)
- 第8回現代教育と心理学(3) (板津裕己)
- 第9回現代教育と心理学(4) (板津裕己)
- 第10回現代特別支援教育(1) (松田直)
- 第11回現代特別支援教育(2) (松田直)
- 第12回現代特別支援教育(3) (松田直)
- 第13回教育の歴史(1) (森部英生)
- 第14回教育の歴史(2) (森部英生)
- 第15回教育の歴史(3) (森部英生)

評価方法

毎回提出する課題文および授業への貢献度等を総合して評価する。

使用教材

各教員の自作のプリント等

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、配布されたプリントや問題集をしっかり復習しておくこと。毎時間の報告に当たった学生は、当該テーマについて十分な準備をしておくこと。報告に当たった場合は、当該テーマについて十分な準備をしておくこと。

備考

現代日本の保育・教育は極めて難しい状況にあります。この授業では、そうした状況を認識するとともに、将来保育者・教育者となるに必要な知見を養うことをめざします。緊張感を持って授業に臨むよう期待します。

世界と子ども（専門教養科目）

担当者

世界と子ども担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 2単位

講義目標

学部の専任教員が輪番で、それぞれの専門分野に基づいて子どもと子どもを取り巻く世界について話題を提供し、学生の問題意識と興味を喚起するような授業を行う。毎回、課題文を書いて提出させる。

到達目標

子どもと子どもを取り巻く世界について、保育・教育の各専門分野の視点から考察を加え、学生が子ども・保育・教育に対する関心を高めることを目標とする。この授業を契機として、大学における学生各自の学修の方向性を明確にすることを目指す。

講義内容と講義計画

- 第1回授業の趣旨と運営等を説明する(森部英生)
- 第2回文学の中の子どもたち(斎藤順二)
- 第3回子どもと英語(中村博生)
- 第4回子どもと数(木幡直樹)
- 第5回子どもと科学(片山豪)
- 第6回子どもと音楽(岡本拓子)
- 第7回子どもと美術(石原綱成)
- 第8回子どもと運動(山西加織)
- 第9回子どもと健康(田島貞子)
- 第10回子どもと生活(今井邦枝)
- 第11回子どもと家族(千葉千恵美)
- 第12回子どものころ(板津裕己)
- 第13回子どもと人権(宮内洋)
- 第14回乳幼児の保育(富田純喜)
- 第15回子どもと生命(松田直)

評価方法

毎回提出する課題文及び授業への貢献度を総合して評価する。

使用教材

テキストはないが、資料を教員が配布する。

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、配布されたプリント類をしっかりと復習しておくこと。また、毎回課されるレポートについては、返却後に読み返し、事後点検すること。

備考

この授業を契機として、子どもと子どもを取り巻く世界について、関心を深め、問題意識を整理してほしい。

保育原理（保育・教育の原理）

担当者

富田 純喜

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

「保育」の基本的考え方を理解し、歴史と現状を踏まえながら、多角的な視野で保育を考える。また、社会の変化やニーズを理解し、「子どもの最善の利益」とは何か、考えを深める。保育理論を学びながら、常に保育実践と結び付けて考えることで、保育の営みについて理解を深める。

到達目標

- ・「保育」「教育」「養護」等、基盤となる用語の意味を理解する。
- ・保育内容、方法、環境等、保育を実践するうえで重要な枠組みを理解する。
- ・保育の歴史的変遷、思想、制度を理解し、子どもに対する見方の視野を広げる。

講義内容と講義計画

- 第1回 保育とはなにか(養護・教育)
- 第2回 子ども観の変遷
- 第3回 保育士の定義と保育所の役割
- 第4回 乳幼児期の教育とは
- 第5回 養護とは(生命の維持と情緒の安定)
- 第6回 保育所の特性(幼稚園との相違点・類似点)
- 第7回 保育内容とは
- 第8回 保育方法(遊び)
- 第9回 保育方法(生活)
- 第10回 保育方法(環境を通して)
- 第11回 子どもを取り巻く環境の変化
- 第12回 わが国における保育施設の歴史
- 第13回 諸外国における保育施設の歴史
- 第14回 新しい保育政策の動向
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、提出物、試験を総合的に評価する。

使用教材

なし

授業外学習の内容

授業の内容について、予習・復習をすること。特に、専門用語については、その意味を理解し、言葉で説明できるようにすること。

備考

教育原理（保育・教育の原理）

担当者

内田 祥子、柿沼 芳枝

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

この科目ではまず、講義を通じて、教育の意義・目的、教育の原理、思想と歴史的変遷を体系的に学び、教育活動の本質についての理解を踏まえる。さらに、実際の教育現場の事例に触れながら、幼児教育の場の特徴や内容について学び、保育者の専門性である。また、こどもの教育の成長を促すためにはこどもとの信頼関係を構築することがいかに大切であるかを学ぶとともに、能力を導き出すという観点から保育者の役割や援助について学ぶ。

到達目標

- ①教育活動の本質を、思想・歴史的変遷から学ぶ
- ②教育活動の内容を踏まえ、計画・評価の方法と意義について学ぶ
- ③幼児期に固有の発達課題にふさわしい教育の制度や援助の仕方について学ぶ
- ④教育者に求められる資質と任務は何かを知る

講義内容と講義計画

- 第1回:オリエンテーション
- 第2回:教育の意義・目的
- 第3回:教育の原理・本質
- 第4回:西洋教育の歴史
- 第5回:日本教育の歴史
- 第6回:西洋教育の思想
- 第7回:日本教育の思想
- 第8回:教育的場の構造的特徴
- 第9回:教育内容の理解
- 第10回:教育計画の意義
- 第11回:教育評価の意義
- 第12回:幼児の発達段階を踏まえた教育
- 第13回:教育環境の意義
- 第14回:幼児の遊び活動の理解
- 第15回:まとめ

評価方法

受講態度・提出物・学期末の試験の結果等を踏まえ総合的に評価する

使用教材

幼稚園教育要領授業内で適宜紹介する

授業外学習の内容

定期的以小テストを実施するので、授業後に復習しておくこと。

備考

教育基礎論 A (保育・教育の原理)

担当者

森部 英生、松田 直

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

本講義は、教育学の基礎的な知識となる、教育の原理、歴史、思想、教育制度、様々な現代的問題や様々な教育実践について学び、教職に携わる者に求められる基礎的な資質の獲得を目指す。特に、近・現代の公教育の歴史を学ぶことや、教育の原点と言われる障害児教育の実践から学ぶこと、さらには教育に関わる様々な事象を社会問題として認識する方法を学ぶことを通して、教育の現代的問題について、歴史や社会構造の観点を含んで考察できる力の獲得を目指す。

到達目標

教職に携わる者に求められる教育学に関する基礎的な知識と、教育実践を行うに必要となる基礎的な資質を身につけること。

講義内容と講義計画

- 第1回ガイダンス
- 第2回教育の意義
- 第3回教育の目的と理念
- 第4回近代西洋教育思想(1)ルソー
- 第5回近代西洋教育思想(2)ペスタロッチ
- 第6回近代西洋教育思想(3)デュイ
- 第7回教育の歴史1(近代以前)
- 第8回教育の歴史2(近代公教育の成立)
- 第9回教育の歴史3(近代公教育の展開)
- 第10回教育の歴史4(近代日本の公教育…昭和戦前期)
- 第11回教育の歴史5(現代日本の公教育…戦後)
- 第12回教育の歴史6(現代日本の障害児教育…戦後)
- 第13回現代公教育と教育思想1(教育の公共性と教師の問題)
- 第14回現代公教育と教育思想2(「能力」の問題)
- 第15回現代公教育と教育思想3(障害児の教育実践から見た教育のあり方)

評価方法

学生に対する評価：授業中に行う3回の小テスト(約70%)、授業への参加・貢献度など平常点(約30%)を総合して評価する。

使用教材

授業担当者の作成資料による。

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。また、5回目ごとの小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

教育に携わろうとする者は、教育に冠する確で豊富な知識を身につけておくことが最低限要求されます。この授業は、教員になろうとする学生が、それにふさわしい知見を得るためのものです。教職の重要性を十分自覚して授業に参加することを望みます。

教育制度論 A（保育・教育の原理）

担当者

森部 英生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択必修 2単位

講義目標

わが国の教育制度を的確に理解しておくことは、いずれは学校経営に携わる者として、教師をめざす者にとっては不可欠の事項であるところ、本授業は、明治以来の教育制度の歩みを、主に法制を中心に、現在に至るまでの動きを踏まえながらとらえ、「教育裁判」をも素材に加えながら、この国の教育制度を考え、学校経営のための諸条件を認識させる。

到達目標

教育が法的に制度化されているものであること、・明治初期から教育制度が整えられたこと、・戦後の教育制度の再建と定着、・教育行政の機構と作用、等のテーマのもと、明治以来現在に至るわが国教育制度について学生が理解し、そうした教育制度の中で学校がどのように経営されるかについて自覚を持つことをめざす。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「学制」「教育令」
- 第3回 諸学校令・大日本帝国憲法・教育勅語
- 第4回 軍国主義下の教育制度
- 第5回 勅語体制と教育法制のまとめ 第一回小テスト予定
- 第6回 日本国憲法・教育基本法の制定
- 第7回 教育を受ける権利の保障
- 第8回 教育の政治的中立性
- 第9回 教育の宗教的中立性
- 第10回 学校制度のまとめ 第二回小テスト予定
- 第11回 臨教審・教育改革国民会議・教育基本法改正
- 第12回 教科書制度
- 第13回 社会教育制度
- 第14回 教育行政制度
- 第15回 児童権利条約 第三回小テスト予定

評価方法

期間中行う3回の小テストに約70%、授業に対する貢献度等に約30%を配分して総合評価する。

使用教材

自作のプリント

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。また、5回目ごとの小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

学校教育をはじめとする公教育は、法令によってその基盤が整えられており、これはわが国では明治初年に始まる。この授業は、わが国の公教育に関する法制度を概観するもので、種々の法令を扱うが、同時にそれら教育法令をめぐる裁判事件をも紹介するものです。堅苦しくなりがちな法令を、実際に起きた事件との関連で理解しようと思います。この国の学校で何が起きているかを知ろうとする学生諸君は、ぜひどうぞ。

地域教育社会論（保育・教育の原理）

担当者

吉田 恵子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択必修 2単位

講義目標

幼稚園・小学校・中学校は、地域住民や保護者との社会的な連携協力なしには円滑に教育活動ができないことに鑑み、その具体的な連携協力のあり方を、学校と地域・保護者との望ましい関係、また、地域住民・保護者から寄せられるさまざまなクレーム、さらにはトラブルにまで発展してしまったケースなどを提示して、その対応と解決を考え、相互のあるべき連携協力関係を実践的に構想できるようにする。

到達目標

学校教育が地域社会の中でどのような位置を占めているかを理解し、地域住民や保護者たちとどのように連携協力していけば学校が活性化するか等につき、地域住民・保護者と学校との間で生じるトラブル事例などを素材にしながら考え、地域社会における教育実践力をつける。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学校教育・教師と地域社会との関係
- 第3回 学校教育・教師と保護者との関係
- 第4回 障害のある子どもと学校・地域・保護者
- 第5回 学校・地域・保護者の連携協力関係と学校経営 第1回小テスト予定
- 第6回 学校・教師に対する地域住民・保護者のクレームとその対応
- 第7回 学校・教師と地域住民・保護者との間に生じる教育関係トラブル
- 第8回 教育内容・方法をめぐる苦情とその対応事例
- 第9回 部活をめぐる苦情とその対応事例
- 第10回 教育評価をめぐる苦情とその対応 第2回小テスト予定
- 第11回 学習指導をめぐる裁判事例と学校経営
- 第12回 生徒指導をめぐる裁判事例と学校経営
- 第13回 特別活動をめぐる裁判事例と学校経営
- 第14回 教育トラブルをめぐる解決方式としての直接交渉と裁判
- 第15回 裁判外の教育トラブル解決方式 第3回小テスト予定

評価方法

授業中に行う3回の小テストに約70%、授業貢献度に約30%を配分して総合的に評価する。

使用教材

授業中に資料を配布する。

授業外学習の内容

「教育の問題やトラブルに関するニュースに目を配り、新聞記事等を収集しておくこと」

備考

交渉術、仲裁のロールプレイ演習がある。意欲的に授業に参加すること。

児童家庭福祉Ⅰ（保育・教育の原理）

担当者

千葉 千恵美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷保育との関連性や児童の人権について考え、理解し深めて学ぶ。

到達目標

児童家庭福祉の現状と課題について理解し、今後の児童家庭福祉の動向についても理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 児童福祉の理念と概念 歴史的変遷
- 第3回 現代社会の児童福祉と保育について
- 第4回 児童の人権擁護と児童家庭福祉
- 第5回 児童家庭福祉の制度、法体系、財政と実施期間
- 第6回 児童家庭福祉施設について
- 第7回 児童家庭福祉の専門職と支援者について
- 第8回 少子化と子育て支援サービス
- 第9回 母子保健と健全育成
- 第10回 多様な保育ニーズへの対応
- 第11回 児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス
- 第12回 社会的養護（要保護児童・障害への対応）
- 第13回 社会的養護（非行への対応、諸外国の動向）
- 第14回 保育・教育・療育・保健・医療等の連携ネットワーク
- 第15回 まとめ

評価方法

授業前の予習、授業への積極的な参加、授業後の感想、試験を総合的に評価する

使用教材

流石智子監修編著 浦田雅夫 知識を生かし実力をつける子ども家庭福祉 保育出版社 2014 2刷

授業外学習の内容

「指定した教科書の授業内容を事前に読んでおく」「毎回授業の最初に前回授業内容に係るふり返りを確認するので復習しておくこと」「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

積極的な授業参加後の感想などを記述し児童家庭福祉について理解を深めてほしい。授業で学んだ内容については復習し理解を更に深めること。次回の授業に向け予習準備をしておくこと

児童家庭福祉Ⅱ（保育・教育の原理）

担当者

千葉 千恵美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

児童家庭福祉Ⅰを基盤とした学習内容及び支援方法を更に学び、保育現場にて、具体的な場面で知識を技術を総合的に応用できるようロールプレイや事例検討を行い、問題解決にむけた支援方法の実践力を深める

到達目標

児童家庭福祉Ⅰで学んだ児童家庭福祉の現状と課題を基盤に、具体的な支援方法について理解し、専門職としての関わり、他機関連携、社会資源の活用など地域ネットワークについて理解することができる

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 子ども家庭福祉の専門性
- 第3回 専門職の資格と養成
- 第4回 専門職の研修の必要とあり方
- 第5回 子ども家庭福祉機関における専門職の役割
- 第6回 専門職の役割(医療分野・教育分野・警察関連)
- 第7回 子ども家庭福祉とボランティア NPO 法人、民間団体
- 第8回 子ども家庭福祉に向けたソーシャルワーク実践1(総論)
- 第9回 子ども家庭福祉にむけたソーシャルワーク実践2(個別援助技術)
- 第10回 子ども家庭福祉にむけたソーシャルワーク実践3(集団援助技術)
- 第11回 子ども家庭福祉にむけたソーシャルワーク実践4(地域援助技術)
- 第12回 個別援助技術・集団援助技術事例検討(ロールプレイ)
- 第13回 心理治療・家族療法の面接例(ロールプレイ)
- 第14回 地域子育て支援センターの活動
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への取り組みや毎回の提出する授業後の感想及び試験を総合的に判断する

使用教材

千葉千恵美著「保育ソーシャルワークと子育て支援」久美株式会社 2011

授業外学習の内容

「指定した教科書の授業内容を事前に読んでおく」「毎回授業の最初に前回授業内容に係るふり返しを確認するので復習しておくこと」「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

積極的な授業参加と実践（ロールプレイや実践）を体験してほしい。また体験後の自らの意見を述べるなど事例検討を深く理解してほしい。特に毎回授業後の感想をまとめるなど、この授業を通じて自分の実践力にしてほしい。授業で学んだ内容については復習し理解を更に深めること。次回の授業に向けて予習し事前に学習準備をしておくこと。

障害者福祉論（保育・教育の原理）

担当者

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

現代は障害児者の施設や特別支援学校・学級に限らず、小中学校・幼稚園・保育所にも障害をもった子どもが多く在籍しており、障害児者の福祉に関する基礎知識は保育者・教育者には必要かつ重要である。障害者福祉の理念や国内外の歴史、障害の概念や障害者の実態、障害者に関する法律や制度・サービス内容について理解し、必要な体系的知識を身につける。特に身体・知的・精神の3障害と発達障害に関する知識、障害者自立支援法は必須項目である。また、障害者の心理を学ぶ一助として体験型学習も取り入れる。

到達目標

社会福祉全体の中で障害者福祉が占める位置について述べることができ、それを踏まえて障害者福祉の現状と問題点について、要点を説明することができる。また、障害者福祉の現場にかかわりのある各種の専門職の役割について具体的に述べるができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 障害の概念と障害者の生活実態
- 第3回 障害者福祉思想と支援の歴史
- 第4回 障害者支援の体系
- 第5回 障害者支援サービス
- 第6回 生活環境の改善と所得保障
- 第7回 就労支援
- 第8回 特別支援教育
- 第9回 専門職の役割と関連領域の連携
- 第10回 障害者と社会環境
- 第11回 ブライト・ワークিং、車椅子体験
- 第12回 点字学習
- 第13回 手話学習①
- 第14回 手話学習②
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、提出物、期末試験により総合的に評価する。

使用教材

柏倉秀克編著「現代の社会福祉士養成シリーズ障害者に対する支援と障害者自立支援制度」久美（株）その他、適宜プリント配布。ビデオも視聴する。

授業外学習の内容

次回の授業範囲（テキスト）を予習し、専門用語の意味を把握しておくこと。

備考

社会福祉（保育・教育の原理）

担当者

千葉 千恵美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

現代社会における社会福祉の意義と国内外の歴史的変遷について理解し、社会福祉と児童家庭福祉及び児童の人権や家庭支援との関連について学ぶ。また、社会福祉の制度や実施体系、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解し、今後の動向と課題について考える。そのために身近な事例やビデオ教材などを用いて基礎を理解してから諸問題をについて考えていくようにする。ほかに保育所や児童福祉施設などで働く専門職の具体的な支援がわかるビデオも視聴する。

到達目標

社会福祉における主な理念、歴史、法律、制度について概略を述べるができる。また、児童福祉施設における保育士の仕事内容、特に援助の概要について説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回社会福祉の理念①ノーマライゼーション、ニーズ
- 第2回社会福祉の理念②社会参加、自立
- 第3回社会福祉の意義と歴史①貧困問題
- 第4回社会福祉の意義と歴史②平等とは
- 第5回社会福祉の対象①福祉を利用する人
- 第6回社会福祉の対象②福祉の実施主体と協同
- 第7回福祉を支える法律と財政
- 第8回社会保険と国民の生活
- 第9回第三者評価と利用者の保護
- 第10回社会福祉援助技術(個別援助技術)
- 第11回社会福祉援助技術(集団援助技術)
- 第12回社会福祉援助技術(地域援助技術)
- 第13回社会福祉を支える資格
- 第14回社会福祉の動向
- 第15回まとめ

評価方法

授業態度、提出物、期末試験により総合的に評価する。

使用教材

吉田眞理著「生活事例からはじめる社会福祉」青踏社
その他、適宜プリントを配布する。ビデオも視聴する。

授業外学習の内容

次回の授業範囲（テキスト）を予習し、専門用語の意味を把握しておくこと。

備考

社会的養護（保育・教育の原理）

担当者

野田 敦史

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

社会福祉の授業内容を踏まえて、現代社会における社会的養護の意義や国内外の歴史の変遷について理解する。社会的養護の制度や仕組み、実践体系について学ぶ。また、施設養護の実際について、その原理や社会的養護との関連、施設養護の実際について、テキストのほかに施設の様子わかるビデオを視聴し、理解する。さらに児童家庭福祉との関連性や児童の権利擁護について考える。そのために児童の権利に関する条約などの紹介・解説を行い、身近な事例についても考える。

到達目標

児童福祉施設の種別や役割、児童養護の歴史、施設の形態、里親制度についての概要を説明できる。
児童福祉施設の保育士の1日の流れや役割を詳しく述べるができる。
施設養護の基本原則を挙げて詳しく説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回オリエンテーション
- 第2回児童養護の基本的な考え方
- 第3回児童養護の制度・体系と課題①
- 第4回児童養護の制度・体系と課題②
- 第5回児童養護の内容とその実践①、ビデオ「障害児の養護①」
- 第6回児童養護の内容とその実践②、ビデオ「障害児の養護②」
- 第7回児童養護の内容とその実践③、ビデオ「障害児の養護③」
- 第8回性教育の必要性とその留意点
- 第9回児童養護を担う職員のあり方
- 第10回日常生活援助と社会福祉援助技術
- 第11回職員研修・養成のあり方
- 第12回施設運営・管理上の課題①
- 第13回施設運営・管理上の課題②
- 第14回地域福祉と施設養護・家庭養護
- 第15回まとめ

評価方法

授業態度、提出物、期末試験により総合的に評価する。

使用教材

子どもの生活を支える社会的養護 ミネルヴァ書房

授業外学習の内容

次回の授業範囲（テキスト）を予習し、専門用語の意味を把握しておくこと。

備考

子どもの保健 I (保育・教育の原理)

担当者

田島 貞子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

子どもの心身の健康増進を図ることは、保育活動において最も重要である。子どもの成長・発達及び生理機能を学ぶと共に、子どもの健康状態を把握できるようにしていく。また、子どもに多い疾患、特に感染症とその予防方法について学ぶ。

到達目標

1. 児童の成長、発達の状況を確認することができる。
2. 子どもに流行しやすい感染症について、その感染経路・潜伏期間・症状・出席停止の基準・予防方法等を説明できる。
3. 子どもの健康状態を把握する方策を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 子どもの保健の意義
- 第3回 子どもの健康とは(健康観察の重要性)
- 第4回 子どもに多い感染症とその予防(1)
- 第5回 子どもに多い感染症とその予防(2)
- 第6回 予防接種の意義
- 第7回 子どもの身体発育と保健
- 第8回 子どもの生理機能の発達と保健
- 第9回 子どもの運動機能の発達と保健
- 第10回 子どもの精神機能の発達と保健
- 第11回 ビデオで学ぶ健康な乳幼児の発育
- 第12回 症状とその対応
- 第13回 自分自身のからだを知ろう「自分と相手を大切にすること?」(ビデオで学ぶ)
- 第14回 保育所保育指針第5章「健康及び安全」
- 第15回 まとめ

評価方法

期末試験(90%)と毎回の授業終了時に提出するまとめ及び質問・感想等(10%)を総合して評価する。

使用教材

「保育保健の基礎知識」監修：巷野悟郎編集：日本保育園保健協議会 日本小児医事出版社、「保育所保育指針解説書」厚生労働省編 フレーベル館、「子どもの保健と支援」平山宗宏編 日本小児医事出版社、その他必要により、資料配布する。

授業外学習の内容

第1回に配布する授業計画に記載されている教科書の該当する項目を事前に読んでおくこと。

備考

メールアドレス tajima@takasaki-u.ac.jp

子どもの保健Ⅱ（保育・教育の原理）

担当者

田島 貞子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

幼稚園及び児童福祉施設等での子どもの健康管理の重要性を理解し、現場における実践的活動の基礎を学び、保育に生かすことを目指す。
子どもの精神保健についての重要性を理解する。また、保育環境の整備や事故防止対策について学ぶ。
地域の母子保健活動にはどのようなものがあるかを学ぶと共に、保育者自身の健康づくりを学び、実践できるようにする。

到達目標

1. 子どもに多い疾患についてその症状とその対処の仕方を実践できるようにする。
2. その地域の保健活動情報を保護者に伝えることができる。
3. 自分自身の健康管理として、健康診断等を積極的に受け、心身ともに健康な状態で保育に携わることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回オリエンテーション
- 第2回子どもの疾患の基礎知識(アレルギー性疾患、けいれん等)
- 第3回子どもの疾患の基礎知識(小児がん、心臓病、川崎病等)
- 第4回子どもの疾患の基礎知識(低体重児、脳性まひ、先天性疾患等)
- 第5回子どもの疾患の基礎知識(消化器系疾患、視聴覚関連の疾患等)
- 第6回子どもの精神保健(1)
- 第7回子どもの精神保健(2)
- 第8回疾患を持っている子ども達への支援
- 第9回保育環境整備と保健
- 第10回保育現場における事故予防と安全対策及び危機管理
- 第11回わが国の母子保健対策と地域との連携
- 第12回これからの健康づくり
- 第13回心身の健康を目指して
- 第14回最近のこどもの保健をめぐる話題
- 第15回まとめ

評価方法

期末試験(90%)と毎回の授業終了時に提出する授業のまとめ及び質問・感想等(10%)を総合して評価する。

使用教材

「保育保健の基礎知識」監修：巷野悟郎編集：日本保育園保健協議会日本小児医事出版社、「保育所保育指針解説書」厚生労働省編フレーベル館
必要により資料を配布する。

授業外学習の内容

第1回に配布する授業計画に記載されている教科書の該当する項目を事前に読んでおくこと。

備考

メールアドレス tajima@takasaki-u.ac.jp

子どもの保健Ⅲ（保育・教育の原理）

担当者

田島 貞子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 1単位

講義目標

子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶ。子どもにとっての健康増進とは何か。生活習慣と心身の健康との関係について理解する。また、体調不良や傷害が発生した場合の適切な対応方法について、理解し実践できるようにする。

到達目標

1. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。
2. 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ。
3. 救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的な方策を学び、実践できるようにする。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 保育所保育指針第5章健康と安全
- 第3回 子どもの発育を知る（身体計測と評価、体温・呼吸測定等）
- 第4回 子どもの衣服の着脱とおむつ交換
- 第5回 子どもの身体の清潔（沐浴の実習）
- 第6回 救急処置及び蘇生法
- 第7回 事故防止及び健康安全管理(1)
- 第8回 事故防止及び健康安全管理(2)
- 第9回 保健活動の計画及び評価(1)
- 第10回 保健活動の計画及び評価(2)
- 第11回 子どもの疾病とその処置及び予防方法(1)
- 第12回 子どもの疾病とその処置及び予防方法(2)
- 第13回 これからの健康づくり
- 第14回 心とからだの健康づくりと地域保健活動
- 第15回 まとめ

評価方法

期末試験(50%)と提出物(30%)授業態度、毎回の授業終了時に提出する授業のまとめ及び質問・感想等(20%)を総合して評価する。

使用教材

授業開始時に指示する。必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

第1回に配布する授業計画に記載されている教科書の該当する項目を事前に読んでおくこと。

備考

メールアドレス tajima@takasaki-u.ac.jp

教育心理学（保育・教育の原理）

担当者

角野 善司、佐藤 浩一

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 必修 2単位

講義目標

人が社会生活を営んでいくためには、学ぶよろこびや知る楽しみの経験を通して、自分自身で問題解決できる能力が求められる。このような力を育てるために、そして、人間関係能力の育成を促進させるために教育心理学領域で見いだされた研究成果を学ぶ。

到達目標

授業の到達目標及びテーマ：

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、教育心理学の理論や知見に基づいて説明できる。
- ・ 障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について理解し、説明できる。
- ・ 幼児・児童および生徒にとって、さまざまな経験を重ねることが、学びの本質であることを理解し、具体的にどのような機会や環境を提供することができるか、またその結果としてどのような学習成果が期待できるかを考察できる。
- ・ 「学び」は楽しい経験であることを、学生自身が理解し、その上で子どもたちに学びの楽しさや喜びを伝えられるようになる。

講義内容と講義計画

- 第1回教育心理学とはなにか：教育心理学の領域と研究法
- 第2回人間と学び：個性と人間らしさの育成
- 第3回発達と学び：発達過程と早期教育
- 第4回教育心理学からみた子ども観、教育観、保育観、障害観
- 第5回欲求・好奇心・創造性について：健常児と障害児
- 第6回学ぶということ①：学習心理学と学び・教えるプロセス
- 第7回学ぶということ②：学ぶ意欲と学ぶ楽しさ・達成動機
- 第8回学ぶということ③：身体活動と教育心理学
- 第9回学ぶということ④：こころの動きと認知行動
- 第10回共感性の教育心理学：協力・競争・感情共有
- 第11回ボール(信頼関係)の大切さ-依存的関係から相互信頼関係へ-
- 第12回障害を持つ子どもたちの教育心理学的理解：知的障害・発達障害・学習障害
- 第13回障害を持つ子どもたちの学習過程についての事例検討
- 第14回学校教育における評価①：評価のしくみと役割
- 第15回学校教育における評価②：教育場面における評価の倫理

評価方法

評価は、個人ワーク課題の提出状況および期末試験等を総合しておこなう。

使用教材

テキストは使用せず、授業進行に従いプリントを配布する。

授業外学習の内容

常に予習復習を心掛けること。また、適時、個人ワークやレポート等の課外課題を与えるので、真剣に取り組むこと。

備考

発達心理学（保育・教育の原理）

担当者

宮内 洋

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 1単位

講義目標

人間がこの世に生まれ、年齢を重ね、天寿を全うするまで、各発達段階において様々な課題や問題に直面していく。このような問題と人間の心身の発達について、生涯発達心理学的な観点から説明をおこなう。その際には、重要な他者を含めた他者とのかかわり、さらにはその集団である社会とのかかわりに重きを置きながら、理解を深めていく。つまり、各発達段階において、どのようにものごとを認識し、どのように他者とのやりとりをおこない、他者とどのような関係を築いていくのかについて理解を深めることによって、人間の発達に伴う心理的な変化を学ぶ。

到達目標

人間の誕生から死までの生涯発達における各段階の心理的特性を理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回ガイダンス
- 第2回発達とは何か
- 第3回胎児期・新生児期の発達心理学
- 第4回乳児期の発達心理学(1):愛着を中心に
- 第5回乳児期の発達心理学(2):他者理解と行動
- 第6回幼児期前期の発達心理学
- 第7回幼児期後期の発達心理学
- 第8回児童期前期の発達心理学
- 第9回児童期後期の発達心理学
- 第10回思春期の発達心理学
- 第11回青年期の発達心理学
- 第12回成人期の発達心理学
- 第13回高齢者の発達心理学
- 第14回異文化と心身の発達
- 第15回まとめ

評価方法

全講義終了後に実施される筆記試験と、講義期間中に課せられる課題、講義に臨む態度・参加する姿勢等によって、総合的に判断する。なお、授業を妨害し、他の受講者の学習を妨げる者は受講を認めない。

使用教材

無藤隆ほか編『よくわかる発達心理学（第2版）』ミネルヴァ書房

授業外学習の内容

授業後に各自で復習をして、授業内容の正しい理解に努めてください。

備考

最初の講義の時間に約束をします。その約束を最終回まで守ってください。

乳幼児心理学（保育・教育の原理）

担当者

清水 彩香

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

乳幼児期（胎児期から幼児期）における心理学の基礎的知識を学ぶとともに、発達の特徴を知る。様々な視点から、子どもへの理解を深め、乳幼児期の発達の重要性を理解する。また、保育実践に関わる心理学的知識を学び、実践への応用を展望する。

到達目標

- ①乳幼児の発達について心理学的な知識をえる。
- ②乳幼児期の重要性について理解をする。
- ③発達の観点から子ども理解を深める。

講義内容と講義計画

- 第1回胎児期の発達の特性
- 第2回乳児期前期の発達の特性
- 第3回乳児期中期・後期の発達の特性
- 第4回幼児期前期の発達の特性
- 第5回幼児期後期の発達の特性
- 第6回認知、自己、情緒の発達
- 第7回社会性の発達
- 第8回言語の発達
- 第9回対人関係の発達①親子関係
- 第10回対人関係の発達②仲間関係
- 第11回乳児期の発達と保育実践
- 第12回幼児期前期の発達と保育実践
- 第13回幼児期後期の発達と保育実践
- 第14回発達をつまづき
- 第15回まとめ

評価方法

授業態度、提出物、試験を総合的に評価する。

使用教材

別途提示

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。
復習をして、概念等を整理すること。

備考

臨床心理学（保育・教育の原理）

担当者

宮内 洋

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年後期 選択 2単位

講義目標

本科目においては、諸個人の心の理解とその援助についての説明をおこない、それらを可能な限り体験的に学ぶ。まず、「心の理解」であるが、「心」を取り出して直接に観察することはできない。そこで、人間の種々の行動から解釈することによって理解せざるを得ないために、人間の心に迫る、この種の方法を学ぶ必要がある。これらの幾つかの方法を実際に受講者自らが体験しながら学べるように配慮する。これらの体験に基づきながら、種々の心の状態を推測していきながら、心理的な諸問題を抱えて生きる他者への援助についても学ぶ。

到達目標

多様な状況に置かれた諸個人が抱える内面の問題を理解し、その個人に対して援助ができるための専門的知識を学ぶ。

講義内容と講義計画

第1回 ガイダンス

第2回 臨床心理学の基礎(1):臨床心理学の成立

第3回 臨床心理学の基礎(2):臨床心理学の基本的なものの見方

第4回 心の理解の方法(1):観察

第5回 心の理解の方法(2):心理検査

第6回 心の理解の方法(3):面接

第7回 現代社会におけるカウンセリング

第8回 心理臨床のフィールド

第9回 問題を抱えながら生きるということ(1):事故・災害

第10回 問題を抱えながら生きるということ(2):学校・職場

第11回 問題を抱えながら生きるということ(3):家庭

第12回 問題を抱えながら生きるということへの援助(1):国外の方法

第13回 問題を抱えながら生きるということへの援助(2):国内の方法

第14回 臨床心理学と性の問題

第15回 まとめ

評価方法

全講義終了後に実施される筆記試験と、講義期間中に課せられる課題、講義に臨む態度・参加する姿勢等によって、総合的に判断する。なお、授業を妨害し、他の受講者の学習を妨げる者は受講を認めない。

使用教材

教科書は特に指定しない。

授業外学習の内容

授業後に各自で復習をして、授業内容の正しい理解に努めてください。

備考

最初の講義の時間に約束をします。その約束を最終回まで守ってください。

遊びの指導（保育・教育の原理）

担当者

内田 祥子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

この科目では、子どもの文化状況を把握し、保育における遊び・児童文化の意義役割その内容を理解すると共に、様々な実践を通して保育活動におけるその具体的な展開方法について理解を深める。特に、（1）保育における遊びと児童文化の役割（2）遊び・児童文化のジャンル（3）遊び・児童文化の実践と創作という3つの内容を柱とし、現代の子供を取り巻く状況を踏まえた、遊びと文化の重要性について理解を深めることを目指す。

到達目標

- （1）保育における遊びと児童文化の役割を学ぶ
- （2）遊び・児童文化のジャンルとそれぞれの特性や歴史を知る
- （3）遊び・児童文化の実践と創作を通じて、具体的な展開方法を学ぶ

講義内容と講義計画

授業計画

- 第1回:オリエンテーション
- 第2回:子どもの文化状況①歴史の変遷
- 第3回:子どもの文化状況②現代の子どもの遊びと文化
- 第4回:保育における遊び・児童文化の役割①文化の伝承・再創造
- 第5回:保育における遊び・児童文化の役割②文化体験と子どもの育ち
- 第6回:遊び・児童文化のジャンル①童謡・音楽
- 第7回:遊び・児童文化のジャンル②紙芝居
- 第8回:遊び・児童文化のジャンル③絵本・図書
- 第9回:遊び・児童文化のジャンル④人形劇・演劇
- 第10回:遊び・児童文化のジャンル⑤玩具
- 第11回:遊び・児童文化のジャンル⑥テレビ・インターネット
- 第13回:創作・実践してみよう(指導案作成と模擬保育)①絵本
- 第14回:創作・実践してみよう(指導案作成と模擬保育)②玩具
- 第15回:総合的まとめ(指導案や模擬保育の総合的検討)

評価方法

授業での態度・貢献度などで総合的に評価。

使用教材

幼稚園教育要領

授業外学習の内容

幼稚園教育要領を事前によく読み、予習をしておくこと。

備考

保育者論（保育・教育の原理）

担当者

富田 純喜

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

幼稚園における教師の役割や保育所（園）における保育士の役割について知る。また、保育についての理解を深めるとともに、子どもの育ちを保障する保育者の役割について考える。さらに、今日的な保育課題にも目を向けながら、保育者の有り様を「子どものための保育とは何か」、「そのためには保育者はどのように有ればよいのか」を模索していく。

到達目標

- ①保育者の仕事と役割について理解する。
- ②保育者の職務、保育者の倫理、研修の必要性について理解する。
- ③「保育者に求められるもの」について自分なりの考えがもてる。

講義内容と講義計画

- 第1回 保育とは何か
- 第2回 幼稚園と保育所（園）
- 第3回 幼稚園教諭の仕事内容（サービス及び身分保障を含む）とその役割
- 第4回 保育所保育士の仕事内容（サービス及び身分保障を含む）とその役割
- 第5回 保育制度の変遷と今後
- 第6回 保育者の専門性とは何か①「子ども主体」について
- 第7回 保育者の専門性とは何か②資質について
- 第8回 保育者の専門性とは何か③倫理について
- 第9回 保・幼・小連携
- 第10回 保育の現状と課題①近年の動向
- 第11回 保育の現状と課題②今後の見通し
- 第12回 現職保育者との意見交換
- 第13回 保育者・教員の研修(1)求められる資質・能力
- 第14回 保育者・教員の研修(2)求められる知識・技能
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、提出物、課題への取り組み方、試験を総合的に評価する。

使用教材

なし

授業外学習の内容

予習・復習をすること。専門用語については、言葉で説明できるようにすること。

備考

教師論 A (保育・教育の原理)

担当者

森部 英生、吉田 恵子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

小学校・中学校及び特別支援学校における教職の意義と役割を学ぶ。さらに、さまざまな課題が山積しうる教育現場の現状に鑑み、学校教育における教師のあり方や求められる教師像について、歴史的及び実践的に考察する。さらに、学生が授業を通して自らの適性を考え、将来に対する展望を持つべく、進路選択の機会を提供する。

到達目標

教師の社会的責任や教師の任務・職務及び教師としての生き方を考え、いかにして教師の力量及び人間性を高めて子どもたちに接していくべきかを、学生自ら主体的に学ぶ。

講義内容と講義計画

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 近代学校成立と教師
- 第3回 教職の意義と教員の役割
- 第4回 教師の種類・職務・倫理、教師像
- 第5回 教員のサービスと身分保障及び第1回小テスト
- 第6回 教師と教育方法・技術
- 第7回 小学校と教師戦前・戦後の教育実践
- 第8回 中学校と教師戦前・戦後の教育実践
- 第9回 教員免許と資格・研修
- 第10回 専門職としての教師及び第2回小テスト
- 第11回 学校運営:校務分掌、生徒指導など
- 第12回 学校運営:特別支援教育、安全教育、健康指導など
- 第13回 教員の資質・適格性
- 第14回 教師をめぐるトラブル
- 第15回 教職への展望、進路選択の課題の考察及び第3回小テスト

評価方法

授業中に行う小テストに約70%、授業貢献度に約30%を配分して総合的に評価する。

使用教材

資料を配布

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。また、5回目ごとの小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。報告に当たった学生は、当該テーマについて十分な準備をしておくこと。

備考

学校教育において決定的に重要な役割を果たす教師のあり方について学びます。現代日本の教育の厳しさを十分自覚して、緊張感を持って授業に臨んで下さるよう希望します。

青年心理学（保育・教育の原理）

担当者

板津 裕己

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

昨今の青少年たちに生じる諸問題などを通して、こころが「おとな」になることとはどのようなことなのかを、参加学生とともに考えていく。さらに、上記の問題について考えていくことで、履修学生が真の意味での「おとな」になってほしい（総仕上げをしてほしい）。

到達目標

- ・生涯発達の視点から青年期の位置づけを理解できるようになる。
- ・青年期に生じやすい心理身体的諸問題に対して問題意識を持ち、かつ、適切な支援ができるようになる。
- ・青年期の発達課題を自分自身の問題として考えられるようになる。

講義内容と講義計画

- 第1回 回リエンテーション-ライフサイクルの視点から発達過程を復習する-
- 第2回 発達過程と学校教育
- 第3回 青年期のイメージ、青年期の課題
- 第4回 自己理解ワーク-「自分のことは自分が一番よく知っている」と言うけれど-
- 第5回 青年期と自己、アイデンティティの問題
- 第6回 注意したい人との関わり
- 第7回 青年期の心理身体的問題の概観
- 第8回 青年期の諸問題 1-いじめ、ハラスメント-
- 第9回 青年期の諸問題 2-不登校とスケジュール・アパシー-
- 第10回 青年期の諸問題 3-青年期と身体意識-
- 第11回 青年期の諸問題 3-家庭での諸問題-
- 第12回 青年期の諸問題 4-情報化社会の影響-
- 第13回 青年期の諸問題 5-経済感覚、仕事観、生命観-
- 第14回 20代頃までに考えておきたいこと、やっておきたいこと 1-個人ワークとグループワーク-
- 第15回 20代頃までに考えておきたいこと、やっておきたいこと 2-社会が求めていること-

評価方法

評価は、個人ワークなどの提出状況および期末試験などを総合して行う。

使用教材

拙著こころの健康の基礎理解教育新聞社 2007 授業進行に従いプリントを配布する。

授業外学習の内容

- ・日頃から、青年期の生じそうな諸問題について関心持ち、自発的に新聞、ニュースやインターネットなどから情報を収集するとともに、自分なりに問題の所在や改善策などを考えるようにすること。
- ・「翌週までの課題」を終えておくこと。

備考

- ・グループワークなどで得たプラハシー情報の管理に注意すること。

こころの健康（保育・教育の原理）

担当者

板津 裕己

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 2単位

講義目標

社会では、多くの人が支えあい協力し合って生活している。本講義では、将来、責任ある社会人として活動していくために、自分自身を見つめなおし、また、自分の周囲にいる人の気持ちを察知し、適切な対応が取れるように、自己学習やグループ学習をおこなう。

到達目標

- ・こころの健康の大切さを自覚できるようになる。
- ・セルフマネジメント能力を向上さす。

講義内容と講義計画

- 第1回リエンション-こころの健康とは-
- 第2回こころの健康の要件
- 第3回人間らしいこころの働き 1-適応、自己実現の欲求-
- 第4回人間らしいこころの働き 2-適応に関わるこころの働き-
- 第5回人間関係とこころの健康
 - 1) 自己評価が他者との関わりの出発点
 - 2) 自分を知ることで周囲がどのように見えてくるか
- 第6回感情と行動の結びつき
- 第7回こころが不健康になるきっかけ
- 第8回ストレス
- 第9回ストレス・マネジメント、イリショナル・ヒーリング
- 第10回より良い人間関係をつくっていく方法
- 第11回学校や施設での生活とこころの健康
- 第12回こころの健康教育 1-自分自身のこころの健康を高めていく方法-
- 第13回こころの健康教育 2-こころの健康に配慮した教育環境づくり-
- 第14回健康な自己観
- 第15回「生きること」と「死」についての教育

評価方法

評価は、個人ワークやグループワーク課題の提出状況および期末試験などを総合しておこなう。

使用教材

拙著こころの健康の基礎理解教育新聞社 2007 授業進行に従いプリントを配布する。

授業外学習の内容

- ・日頃から、教育者、保育者、そして一人の大人として、こころの健康に問題意識を持つとともに、こころの健康増進を図ること。
- ・授業中に出した課題は、指定期日までに仕上げ提出すること。
- ・「翌週までの課題」を終えておくこと。

備考

- ・グループワークなどで得たプライバシー情報の管理に注意すること。

異文化と教育（保育・教育の原理）

担当者

宮内 洋

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 2単位

講義目標

群馬県は、日本国内においても有数の、外国籍生活者が多い県である。このような地域であるからこそ、異文化に対する無知や偏見は許されはしないだろう。ましてや、保育・教育に携わる者はなおさらである。まずは鋭敏な人権感覚を持ち、その上で、自文化中心主義的思考に陥ることなく、自文化とは異なる文化を背景にした子どもたちに対しての配慮を中心とした行動が可能となるような知見を教授する。実際の調査やフィールドワークから得られた知見ふんだんに授業に取り入れる。

到達目標

日本社会が単一文化社会ではないことを理解する。その上で、多様な文化が混在・混成した中で、どのような保育・教育をおこなうべきなのかについて自らの意見を持てるようになる。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「異文化」とは何か
- 第3回 学校文化と異文化(1)
- 第4回 学校文化と異文化(2)
- 第5回 日本国内の外国籍住民
- 第6回 群馬県内の外国籍住民
- 第7回 「ホルト・カマー」と教育(1)
- 第8回 「ホルト・カマー」と教育(2)
- 第9回 「ニューカマー」と教育(1)
- 第10回 「ニューカマー」と教育(2)
- 第11回 「ニューカマー」と教育(3)
- 第12回 アイデンティティと教育(1)
- 第13回 日本社会における外国籍住民の今後
- 第14回 日本国における教育と文化の今後
- 第15回 まとめ

評価方法

全講義終了後に実施される筆記試験と、講義期間中に課せられる課題、講義に臨む態度・参加する姿勢等によって、総合的に判断する。なお、授業を妨害し、他の受講者の学習を妨げる者は受講を認めない。

使用教材

教科書は特に指定しません。必要に応じて、資料を配付します。

授業外学習の内容

授業後に各自で復習をして、授業内容の正しい理解に努めてください。

備考

最初の講義の時間に約束をします。その約束を最終回まで守ってください。本科目では、いくつもの課題に取り組んでいただく予定です。さらに、その課題の発表を受講者全員の前でしていただきますので、授業に対する積極的な態度が望まれます。

観察学（保育・教育の原理）

担当者

宮内 洋

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

「観察学」とは見慣れない科目と思われる。恐らく、日本国内では高崎健康福祉大学におけるこの科目が初となるだろう。保育の現場をはじめとして保育者・教育者として働くためには、まず子どもたちの様子を見なければならない。しかし、ただぼんやりと見ていてはいけない。いつ、誰が、何を、どのように見るのか。各々のポイントにおいて、注意しなければならない点がある。この点について、過去の人類学・民俗学・社会学・心理学等の知見を継承しながら説明する。

到達目標

事象を見る自らの〈ものの見方〉を相対化し、一人の人間として可能な限り客観的に事象を観察できるようになる。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 表層的な観察
- 第3回 観察の方法
- 第4回 観察の実践(1)
- 第5回 実践の振り返り(1)
- 第6回 観察の視点:鳥の目・虫の目・魚の目
- 第7回 観察者と被観察者の関係(1)
- 第8回 観察者と被観察者の関係(2)
- 第9回 観察の実践(2)
- 第10回 実践の振り返り(2)
- 第11回 観察データの確定
- 第12回 「羅生門問題」と新たな「羅生門問題」
- 第13回 正しい観察者はいるのか:証言の心理学的問題
- 第14回 何のための観察か
- 第15回 まとめ

評価方法

全講義終了後に実施される筆記試験と、講義期間中に課せられる課題、講義に臨む態度・参加する姿勢等によって、総合的に判断する。なお、授業を妨害し、他の受講者の学習を妨げる者は受講を認めない。

使用教材

宮内洋『観察学』北大路書房

授業外学習の内容

授業時間以内に観察に基づく様々な課題があります。

備考

最初の講義の時間に約束をします。その約束を最終回まで守ってください。本科目ではいくつかの「クサバ」を予定しています。さらに、授業中に課題の発表を受講者全員の前でしていただきますので、授業に対する積極的な態度が望まれます。

保育内容総論（保育・教育の内容）

担当者

今井 麻美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

幼稚園教育要領、保育所保育指針に通じる保育の基本的な概念、5領域それぞれの内容とその関係について総合的に学ぶ。保育内容の今日的課題について考えていく。

到達目標

保育内容5領域を総合的に理解することができる。子どもの発達過程に応じた保育内容の展開について説明することができる。

講義内容と講義計画

授業計画

第1回 オリエンテーション:授業の概要と進め方

第2回 保育内容とは何か

第3回 幼稚園教育要領・保育所保育指針の理解①:それぞれの内容について

第4回 幼稚園教育要領・保育所保育指針の理解②:二つを貫く理念

第5回 保育内容の歴史的変遷

第6回 「領域」とは何か? 「領域」同士の関係とは?

第7回 保育の実際(1) 3歳未満児クラスの保育(指導案の作成と模擬授業)

第8回 保育の実際(2) 3歳児クラスの保育(指導案の作成と模擬授業)

第9回 保育の実際(3) 5歳児クラスの保育(指導案の作成と模擬授業)

第10回 保育内容と指導計画(指導案の作成と模擬授業)

第11回 保育内容と政策

第12回 諸外国の保育内容

第13回 保育内容の今日的課題(1):保育者の専門性と成長

第14回 保育内容の今日的課題(2):小学校とのつながり。家庭との連携

第15回 まとめ

評価方法

授業態度、課題への取り組み、学期末テストにより総合的に評価する。

使用教材

幼稚園教育要領、保育所保育指針、その他は適宜プリントを配布する。

授業外学習の内容

毎回授業の最初に前回授業内容に関わる小テストを行うため、復習をしておくこと。

備考

なし

保育内容健康（保育・教育の内容）

担当者

山西 加織

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

子どもの健康、発育発達について理解を深め、子どもに必要な体験とは何かを学ぶ。また、園生活をとおして子どもたちが心と体の健康を培っていくために、保育者はどのような役割を果たし援助していけばよいのかを考えていく。

到達目標

領域「健康」のねらい及び内容を理解することができる。
乳幼児期の発達を知り、保育者の具体的な援助と関連付けることができる。
子どもの健康をめぐる現代的課題に関心を持ち、その背景と改善策を説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション子どもの健康
- 第2回 子どもの身体の発達
- 第3回 子どもの運動能力と動きの獲得
- 第4回 生活習慣の形成
- 第5回 子どもの心と健康
- 第6回 安全の指導
- 第7回 子どもの健康をめぐる現代的課題
- 第8回 領域「健康」のねらいと内容
- 第9回 領域「健康」における保育者の役割
- 第10回 領域「健康」と保育の実際(1)0～2歳児の生活(指導案の作成と模擬授業)
- 第11回 領域「健康」と保育の実際(2)0～2歳児の遊び(指導案の作成と模擬授業)
- 第12回 領域「健康」と保育の実際(3)3～5歳児の生活(指導案の作成と模擬授業)
- 第13回 領域「健康」と保育の実際(4)3～5歳児の遊び(指導案の作成と模擬授業)
- 第14回 領域「健康」と保育の実際(5)運動遊び指導のポイント
- 第15回 まとめ

評価方法

授業に対する意欲・態度、レポート、期末試験を総合評価する。

使用教材

「保育内容健康」宮下恭子編著、大学図書出版

授業外学習の内容

教科書の領域「健康」のねらいと内容を事前に読んでおくこと。授業内容に関して、適宜確認テストを実施するので、復習しておくこと。

備考

保育内容人間関係（保育・教育の内容）

担当者

清水 彩香

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

乳幼児期における対人関係の発達について理解し、子どもの実態に即した保育内容について考えを深める。また、保育内容「人間関係」のねらいおよび内容について理解し、保育者の役割や指導のあり方について学ぶ。

到達目標

- ①乳幼児の様々な場面において「人とのかかわり」の育ちについて理解を深めることができる。
- ②具体的な援助について、自分なりの考えや思いをもつことができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 保育内容と領域「人間関係」
- 第2回 乳幼児期の発達と領域「人間関係」
- 第3回 領域「人間関係」のねらいと内容
- 第4回 人とのかかわりの発達①乳児期
- 第5回 人とのかかわりの発達②幼児期前期
- 第6回 人とのかかわりの発達③幼児期後期(指導案の作成と模擬授業)
- 第7回 遊びの中で育つ人とのかかわり①乳児期
- 第8回 遊びの中で育つ人とのかかわり②幼児期
- 第9回 生活を通して育つ人とのかかわり①乳児期
- 第10回 生活を通して育つ人とのかかわり②幼児期
- 第11回 個と集団の育ち①幼児期前期
- 第12回 個と集団の育ち②幼児期後期(指導案の作成と模擬授業)
- 第13回 人とのかかわりを育てる保育者の役割①環境構成
- 第14回 人とのかかわりを育てる保育者の役割②直接的援助と間接的援助(指導案の作成と模擬授業)
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、提出物、課題への取り組み方、試験を総合的に評価する。

使用教材

「演習 保育内容人間関係」「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」

授業外学習の内容

前回の授業内容を振り返り、次の授業にのぞむこと。

備考

保育内容環境（保育・教育の内容）

担当者

竹内 幸男

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

保育における「環境」の意味を理解し、その内容や保育における方法を多角的に学びながら、実際に保育者として環境を構成でき、そこで展開する保育の実際を講義・演習を通して具体的に学ぶ。

到達目標

保育内容『環境』を中心に、「環境を通して行う教育」の意味とその実践者としての様々な内容や方法を学び、保育者としての資質を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション、保育内容「環境」とは
- 第2回 「幼稚園教育要領」の中の「環境」を読む
- 第3回 事例で考える
- 第4回 子どもの遊びについて考える
- 第5回 子どもにとっての環境としての様々な内容を理解する
- 第6回 環境としての「もの」について考える
- 第7回 環境としての「自然」について考える
- 第8回 環境としての「地域・社会」について考える
- 第9回 環境としての「文化(財)」について考える
- 第10回 環境としての「状況・情報」について考える
- 第11回 環境としての「ひと」について考える
- 第12回 環境を通して保育を進める保育者の役割を知る(指導案の作成と模擬授業)
- 第13回 環境を構成し保育の計画を立てる(指導案の作成と模擬授業)
- 第14回 グループ協議で深める(指導案の作成と模擬授業)
- 第15回 前時の全体化とまとめをする

評価方法

授業への取り組み全てが評価される。(発表、試験、取り組み)

使用教材

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーバル館

授業外学習の内容

毎回授業の終わりに次回の授業内容を説明するので、事前に教材を読んでおくこと。毎回授業の初めに前回の内容の確認をしますので、事後に復習すること。身近な植物や昆虫・幼児のあそび等に興味関心を持って欲しい。

備考

受講資格 特になし。

ルール 思ったこと・考えたことは発言して欲しい。積極的に昆虫等に対してかかわって欲しい。

資格に関する内容 幼稚園教諭免許状・保育士資格取得希望者必修

[担当教員のメールアドレス y-takeuchi@takasaki-u.ac.jp](mailto:y-takeuchi@takasaki-u.ac.jp)

学習上の助言 教材の他、担当者の作成する事例プリントを使用し理解を深めたい。

参考文献 授業の中で紹介します。

保育内容言葉

担当者

高梨 瑠子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

言葉とは、子どもの発達全般の全てに影響し、特に人間関係を作るコミュニケーションツールとして重要なものであること等を理解する。また、保育における領域「言葉」において、生活や遊びを通して指導していくという基本的な考えを理解する。そして、保育者として言葉を援助していく時に必要な基礎的な知識と指導法を身に付ける。

到達目標

- ・乳幼児期の言葉の発達について学び、保育におけるコミュニケーション力の育ちを理解する。
- ・遊びや生活場面の具体的な事例を通して、保育者の役割や援助の方法を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回 幼児教育の基本と領域「言葉」
- 第2回 乳幼児期の発達と言葉の発達
- 第3回 言葉の機能と言葉の発達
- 第4回 保育者の役割と援助
- 第5回 乳児の言葉を育てる環境
- 第6回 話し言葉を育てる環境
- 第7回 書き言葉(文字)への興味や関心を育てる環境
- 第8回 コミュニケーションとしての言葉の役割
- 第9回 言葉の指導における小学校教育との関連
- 第10回 指導計画について
- 第11回 指導計画案作成①…ことば遊びに関する指導計画案
- 第12回 指導案の検討Ⅰ…ねらい・内容について
- 第13回 指導案の検討Ⅱ…教材について
- 第14回 指導案の検討Ⅲ…援助について
- 第15回 指導計画案作成②…見直し、まとめ

評価方法

試験 50%、課題 40%、平常点 10%

使用教材

「事例で学ぶ保育内容領域言葉」無藤隆監修高濱裕子編（萌文書林）

授業外学習の内容

・第1回の授業で15回の全体の学習計画を把握したうえで、「保育内容言葉」に関する自己課題を設定して、授業と並行しながら自分自分でそれを追及し、最終的にレポート作成をします。

備考

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」を使用するので準備しておくこと。

保育内容表現

担当者

岡本 拓子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

- ①領域「表現」のねらいおよび内容について理解する。
- ②実践事例を通して、子どもの表現過程について読み取りができるようにする。
- ③子どもの表現を育むための環境構成や援助について具体的に学ぶ。

到達目標

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするという保育内容「表現」の本質、および保育におけるさまざまな活動の場での子どもの表現方法についての基礎知識を深めながら、その理解と援助の方法について具体的・実践的に学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回:保育の基本と領域「表現」について
- 第2回:他の領域と領域「表現」との関係について
- 第3回:保育内容「表現」の歴史的変遷について
- 第4回:豊かな感性と表現を育むための環境について
- 第5回:諸感覚を通しての感性と表現(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)
- 第6回:生命に対する感性と表現
- 第7回:事例を通して考える①音・音楽に対する感性と表現
- 第8回:事例を通して考える②造形に対する感性と表現
- 第9回:事例を通して考える③身体と表現
- 第10回:事例を通して考える④言葉と表現
- 第11回:園環境が育む感性と表現①時間・空間(指導案の作成と模擬授業)
- 第12回:園環境が育む感性と表現②人・モノ(指導案の作成と模擬授業)
- 第13回:子どもの感性と表現を育むための保育者の役割①環境構成のあり方(指導案の作成と模擬授業)
- 第14回:子どもの感性と表現を育むための保育者の役割②援助のあり方(指導案の作成と模擬授業)
- 第15回:まとめ-保育内容表現の課題

評価方法

課題への取り組みと期末試験により総合的に評価する。

使用教材

必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

毎時課題を課すので、個人あるいはグループで取り組むこと。

備考

受講にあたっては、毎時課される課題を必ず行うこと。

子どもの食と栄養 I (保育・教育の内容)

担当者

阿部 雅子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 1単位

講義目標

子どもの発育発達と栄養との関係及び食品の種類と成分特性などについて、理解を深める。また、子どもの食生活に関する様々な要因について整理しながら、食育基本法の趣旨や食に関する家庭・地域・教育機関等との連携について論じ理解を深める。

到達目標

子どもの健全な育成には食生活が深く関わっている。食育基本法の趣旨を理解し、乳児期、幼児期、学童期、思春期における適切な食生活と食教育について基本的知識を習得することで、子どもの指導者として食に関しても保護者の育児を支援できる力を養う。具体的な到達目標を以下に示す。

- ・栄養素の機能と代謝について理解し、食育に取り入れることができる。
- ・小児期の食生活における特徴について、ステージごとに説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回子どもの健康と食生活の意義
- 第2回子どもの発育・発達と栄養状態の評価
- 第3回栄養に関する基本的知識(1)(栄養素の種類と機能)
- 第4回栄養に関する基本的知識(2)(食事摂取基準、食事構成、献立作成)
- 第5回栄養に関する基本的知識(3)(食品の成分と機能・調理の基本)
- 第6回妊婦・授乳婦の栄養
- 第7回乳児期の栄養(母乳栄養)
- 第8回乳児期の栄養(人工栄養)
- 第9回離乳期の栄養
- 第10回幼児期の栄養
- 第11回学童期・思春期の栄養
- 第12回食育の基本と内容
- 第13回家庭や児童福祉施設における食事と栄養
- 第14回特別な配慮を要する子どもの食と栄養(1)(食物アレルギー)
- 第15回特別な配慮を要する子どもの食と栄養(2)(障がいがある子どもへの対応)

評価方法

筆記試験

使用教材

堤ちはる編『子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養』(萌文書林)

授業外学習の内容

- ・指定した教科書の章を毎授業前によく読んでおくこと。
- ・授業時に理解度を確認するための小テストを実施するので、授業終了後復習をしておくこと。

備考

担当者メールアドレス:mabe@takasaki-u.ac.jp

子どもの食と栄養Ⅱ（保育・教育の内容）

担当者

阿部 雅子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 1単位

講義目標

子どもの身体発育と精神的特長を理解した上で、保育者が実生活や保育の場面で展開できるような、子どもの発達段階に適した食品の調理方法や調理技術を実践とともに養う。また食育の事例などを取り上げ、食生活の面からも保護者を援助・指導する手法について検討する。

到達目標

食育基本法の趣旨を理解した上で、指導者として必要な乳児期、幼児期、学童期、思春期における適切な食品の調理方法や調理技術を身につける。また教育要領に基づく食育のための指導計画の立て方、実践の手法、評価方法などを学び実践力を身につける。具体的な目標を以下に示す。

- ・基本的な調理作業が一人で行える。
- ・無菌操作法による調乳ができる。
- ・衛生的な方法で離乳食を作ることができる。
- ・乳児期、幼児期、学童期の一食分の適量が分かる。

講義内容と講義計画

- 第1回 献立作成と栄養価計算方法①(献立作成)
- 第2回 〃 ②(栄養価計算)
- 第3回 成人女子及び妊娠期の食事①(実習)
- 第4回 〃 ②(演習)
- 第5回 調乳・離乳期の食事①(実習)
- 第6回 〃 ②(演習)
- 第7回 幼児期の間食①(実習)
- 第8回 〃 ②(演習)
- 第9回 幼児期の弁当①(実習)
- 第10回 〃 ②(演習)
- 第11回 保育所給食①(実習)
- 第12回 〃 ②(演習)
- 第13回 食育の計画と評価①(指導計画)
- 第14回 〃 ②(実践と評価)
- 第15回 総括

評価方法

レポートによる評価

使用教材

随時プリントを配布

授業外学習の内容

日常生活の中で調理する機会を積極的に設け、調理に慣れておくこと。

備考

担当者メールアドレス:mabe@takasaki-u.ac.jp

乳児保育 I (保育・教育の内容)

担当者

富田 純喜

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 1単位

講義目標

1. 乳児の発達を知り、発達に即した生活や遊びについて理解を深める。
2. 発達に即した保育環境やその安全性について理解する。

到達目標

乳児の発達をふまえ、発達に即した生活や遊びについて考えることができる

講義内容と講義計画

- 第1回乳児保育の基本
- 第2回乳児保育の必要性和意義
- 第3回0歳児の発達と保育①
- 第4回0歳児の発達と保育②
- 第5回0歳児の発達と保育③
- 第6回1歳児の発達と保育①
- 第7回1歳児の発達と保育②
- 第8回2歳児の発達と保育①
- 第9回2歳児の発達と保育②
- 第10回乳児の生活と遊び①
- 第11回乳児の生活と遊び②
- 第12回乳児期の食事
- 第13回排泄と睡眠
- 第14回自立への欲求
- 第15回まとめ

評価方法

授業態度、提出物、試験の結果を総合的に評価する。

使用教材

なし

授業外学習の内容

予習・復習をすること。特に、発達について理解を深めておくこと。

備考

乳児保育Ⅱ（保育・教育の内容）

担当者

齊藤 多江子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 1単位

講義目標

1. 低年齢児との望ましいかかわり方について考える。
2. 低年齢児における集団保育について、実践方法を知る。

到達目標

低年齢児における仲間との関わりをつなぐ援助について理解を深めることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回子ども同士のかかわり①
- 第2回子ども同士のかかわり②
- 第3回子ども同士のかかわり③
- 第4回教材研究①
- 第5回教材研究②
- 第6回保育計画・指導計画作成の実際①
- 第7回保育計画・指導計画作成の実際②
- 第8回保育の記録①
- 第9回保育の記録②
- 第10回保護者対応
- 第11回地域への対応
- 第12回育児相談①
- 第13回育児相談②
- 第14回乳児保育の今日的な課題
- 第15回まとめ

評価方法

授業態度、提出物、試験の結果を総合的に評価する

使用教材

なし

授業外学習の内容

復習をする中で、子ども理解や子どもへの援助について、再考すること。

備考

障害児保育 I（保育・教育の内容）

担当者

野田 敦史

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 1単位

講義目標

現代は、幼稚園・保育所にも必ずと言ってよいほど障害を持った乳幼児が在籍している。その子どもに対して保育者は個別的にもクラス集団の中でも十分な保育の対応ができなければならない。まず、障害児保育を支える理念や歴史的変遷を理解し、障害児保育の実際について学ぶ。次に、身体障害、知的障害、発達障害など様々な障害について知り、その特性を理解する。そして一人ひとりに合った援助の方法や環境構成について考えていく。さらに障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。

到達目標

まずは障害児保育を支える理念について理解する。次に様々な障害の特性と支援の方法について理解する。さらに、統合保育を行うにあたっての支援の方法を理解する。ほかにも家族の心理の理解と支援のあり方について、また、他機関との連携など多角的な子どもへの支援について理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回オリエンテーション
- 第2回日本における障害児保育の歩み
- 第3回障害児保育の現状と課題
- 第4回障害とは
- 第5回早期発見の手がかり
- 第6回子どもの発達とは
- 第7回子どもの理解と保育
- 第8回障害児保育の形態
- 第9回分離保育と統合保育
- 第10回統合保育の意義と問題
- 第11回身体障害児の理解と支援
- 第12回知的障害児の理解と支援
- 第13回重症心身障害児の理解と支援
- 第14回発達障害児の理解と支援
- 第15回まとめ

評価方法

授業態度、提出物、期末テストにより総合的に評価する。

使用教材

「障害児保育」藤永保監修萌文書林 2012年 1,995円
プリントも適宜配布し、ビデオも視聴する。

授業外学習の内容

次回の授業範囲（テキスト）を予習し、専門用語の意味を把握しておくこと。

備考

障害児保育Ⅱ（保育・教育の内容）

担当者

野田 敦史

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 1単位

講義目標

障害児保育Ⅰで学んだことを基に、さらに特別支援教育の目標の一つである健常児と障害児の統合保育のあり方やその具体的なシステム、支援方法について学ぶ。特に発達障害児への理解と支援について掘り下げ、生活面・学習面・言語面についての有効な指導法を探り、また、教材についても実際に考えて作成していく。身体障害児に対する支援については、テキスト以外にも実際に体験型の授業や手話、ブラインドウォーキング、点字の実習なども入れていく。

到達目標

各障害についての原因と特徴について述べる事が出来、それぞれに合った対応の仕方を論述できる。統合保育について、その環境づくりやシステムについて述べる事ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回障害とは(障害の概念)
- 第2回統合保育の実践を展開するために
- 第3回盲児の指導事例
- 第4回ブラインドウォーキング
- 第5回点字の基礎
- 第6回聴覚障害児の指導事例
- 第7回手話の基礎(指文字、あいさつ)
- 第8回脳性まひ児の指導事例
- 第9回言語発達遅滞児の指導事例
- 第10回集団になじめない精神発達遅滞児の指導事例
- 第11回ダウン症児の指導事例
- 第12回発達障害児の指導事例
- 第13回発達障害児のための教材づくり①
- 第14回発達障害児のために教材づくり②
- 第15回まとめ

評価方法

授業態度、提出物、期末テストにより総合的に評価する。

使用教材

障害児保育Ⅰのテキストを使用する。また、適宜プリントを配布し、ビデオも視聴する。

授業外学習の内容

次の授業範囲(テキスト)を予習し、専門用語の意味を把握しておくこと。

備考

社会的養護内容（保育・教育の内容）

担当者

坂井 勉

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 1単位

講義目標

演習によって児童福祉関連施設で活用可能な技術の習得と、実践における留意事項を学ぶ。

到達目標

演習活動を通して児童養護施設などを利用している児童の立場に立った生活や援助者の関わり理解、および児童観や養護観を養う。

講義内容と講義計画

- 第1回リエンション演習の概要と進め方
- 第2回児童養護施設の暮らし
- 第3回乳児院と母子生活支援施設の暮らし
- 第4回児童自立支援施設と情緒障害児短期治療施設の暮らし
- 第5回重症心身障害児施設と肢体不自由児施設の暮らし
- 第6回入所時支援と基本的な日常生活支援
- 第7回子ども達のこころのケア
- 第8回親子関係の調整
- 第9回学校や地域との調整
- 第10回リビングケアとアフターケア
- 第11回子どもの最善の利益とは
- 第12回生存と発達の保障
- 第13回子どもの権利を守るしくみ
- 第14回支援者の資質と倫理
- 第15回まとめ

評価方法

授業内での小課題や演習発表および筆記試験を総合して評価する。

使用教材

子どもの生活を支える社会的養護内容

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を把握しておくこと。

備考

国語（保育・教育の内容）

担当者

案田 順子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

毎回の授業において、授業参加者各自の言語力を磨いていくことを目標にする。発表活動を分析・検討する授業のゆえ、当然ながら、毎回、音声表現活動が授業出発の基、ないしは、学習活動の中軸になる。本講座参加者の意欲的・積極的な言語活動を期待する。

到達目標

授業参加者自身の言語表現力・言語理解力・言語知識の向上を追求し、他者とのコミュニケーションの向上を図るための言語力を鍛える。子どもたちに求められる基礎・基本的な言語力とは何かを常々の根底意識に据え、各自の言語力を磨くことに努める。さらに各自の文字を見直し、正確な書写能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 言語表現の旅立ち①:挨拶と自己紹介。「効果的な自己紹介」の理解と実践。
- 第2回 言語表現の旅立ち②:スピーチ=非言語コミュニケーションの活用
- 第3回 言語の特質①:言語は伝わらないもの→コミュニケーションの改善
- 第4回 言語の特質②:言語使用は楽しいもの→コミュニケーションの改善
- 第5回 聞くことの効用:聞くとは、受身の言語行動か
- 第6回 表現の原則:話力とは何か。表現には原則があるのか
- 第7回 説明:新聞記事の比べ読み→違いを分析し、記述する
- 第8回 説得:意見を主張する。皆に訴える。論題設定自由
- 第9回 話し合い①:ディベート。論題「(第6回授業時に提示する)」
- 第10回 話し合い②:グループ活動→パネリストセッション。主張を変更できるか。
- 第11回 朗読表現:場面を描く。「次郎君」(第11～1回は、読解法習得を含む。)
- 第12回 群読表現:古典の群読。「那須与一(扇の的)」 「猫また」
- 第13回 書写教育①:平仮名・片仮名を正しく整えて書くための原理・原則を学ぶ。
- 第14回 書写教育②:平仮名・漢字の大きさ、行の中心、字間・行間に気をつけて書く。
- 第15回 書写教育③:漢字と仮名の大きさや配列に注意して葉書を書き、新聞を作る。

評価方法

期末試験(A～E5段階)50点、毎回200字程度随想文(1授業3点)45点、授業中の効果的発言・朗読・質問等の言語表現(1発言2点?)5点内、その他、グループによる音声表現・文字表現は、場に応じて考慮します。

使用教材

毎回印刷資料(教材)を配付する(第15回授業終了時まで、それまでに配布された資料(教材)を、各自手元に保存しておく必要がある)。

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

社会（保育・教育の内容）

担当者

影山清四郎

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

地域や国の社会現象や制度について、具体的な事象をテーマに学習する。資料を活用し比較的考察や実証的考察ができるようにするとともに歴史的発展を通じた我が国の位置づけを学ぶ。

到達目標

初等教育における社会科教育に必要とされる社会教科全般の人文的知識と社会現象や制度の理念と内容の概略を理解し、日常生活の中での事象と結びつけられるようにする。

講義内容と講義計画

- 第1回社会の基本的捉え方-事実・理念・制度の関係
- 第2回人文科学・社会科学の歩みと方法論
- 第3回自然環境と生活
- 第4回人口変動や地域変動等の社会環境と生活
- 第5回産業と生活
- 第6回文化・消費と生活
- 第7回日本の歴史の要点
- 第8回アジアの歴史の要点
- 第9回世界の歴史の要点
- 第10回経済の仕組み
- 第11回社会制度の仕組み
- 第12回政治の仕組み
- 第13回法の仕組み
- 第14回国際社会とグローバル社会
- 第15回まとめと確認

評価方法

学習参加の積極性(30%)、レポート(20%)、定期試験(50%)

使用教材

教員作成のプリント教材

授業外学習の内容

- ① 1週間のうち、1日を選び、気になる記事を台紙に貼り、コメントを書き、提出すること（毎週）
- ② 岩波新書より1冊選び、読了して、自己の感想意見をまとめて提出（12回目まで）

備考

算数（保育・教育の内容）

担当者

村崎 武明

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

算数・数学は数の概念を基盤にしているにも関わらず、その誕生や発展の経緯については知らないでいる場合が多い。そこから学び始めて、算数の面白さまで伝えられる教師を目指す。

到達目標

算数の進化形が数学である。そのことを見通しながら算数を指導出来る力量を養う。

講義内容と講義計画

- 第1回 数学と学校数学
- 第2回 数の表記
- 第3回 数学の誕生
- 第4回 量と数
- 第5回 計算の背景
- 第6回 分数の概念
- 第7回 分数の四則(加法と減法)
- 第8回 分数の四則(乗法と除法)
- 第9回 0の概念
- 第10回 体系としての数概念
- 第11回 問題と立式
- 第12回 式計算の工夫
- 第13回 平面の図形
- 第14回 立体模型の作成
- 第15回 まとめ

評価方法

小テスト、レポート、期末試験の結果、さらに授業での貢献度を総合的に判断する。

使用教材

講義の中で適宜指示する。

授業外学習の内容

毎回授業の最初に、前回授業に係る質問を受ける時間を設けるので、復習して質問内容を整理しておくこと。

備考

理科（保育・教育の内容）

担当者

片山 豪

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

物質、エネルギー、生命、地球を総合的に学習することで、科学的な概念の知識・技能の確実な定着を図る。身近な事物・現象に関する観察、実験を行い、科学的な見方や考え方を育成する。学校におけるサイエンスコミュニケーターの役割を果たせるように現代科学で話題になっている事例を理解し、説明できる能力を養う。

到達目標

小学校学習指導要領の理科、保育所保育指針及び幼稚園教育要領の健康や環境を理解し、教育現場における理科の授業をおこなえるような即戦力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回物質の状態
- 第2回物質の変化
- 第3回無機物質
- 第4回有機物質
- 第5回物体の運動とエネルギー
- 第6回光と音
- 第7回電気と磁気
- 第8回生命現象
- 第9回生殖と発生
- 第10回生物の環境応答
- 第11回生態系
- 第12回生物の進化と系統
- 第13回地球の活動
- 第14回大気と海洋
- 第15回宇宙の構造

評価方法

試験、授業への取り組み、貢献度、提出された課題の内容等を総合的に評価する。

使用教材

自作プリント等

授業外学習の内容

授業で学習した内容を元に課題を出す。

備考

生活（保育・教育の内容）

担当者

今井 邦枝

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 必修 2単位

講義目標

小学校教育における「生活科」について、その意義や目的、具体的な教育方法や教育内容について基本的な理解を図る。生活科は幼稚園教育との共通点も多く、幼少連携の関連からも考えていく。

到達目標

- ・「生活科」が設置された歴史的経緯、その趣旨について理解する。
- ・学習指導要領「生活」における目標や内容について理解する。
- ・具体的な事例を検討する中で、「生活科」の目的や方法が幼稚園教育の基本的な考え方と結びついていること、そして、子どもの本来の学ぶ姿であるということを理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回生活科成立の背景及び経緯について
- 第2回生活科の基本的性格と目的
- 第3回生活科の教育方法
- 第4回学習指導要領における生活科の位置づけ
- 第5回生活科の具体的な教育内容について①(学校と生活)
- 第6回生活科の具体的な教育内容について②(家庭と生活)
- 第7回生活科の具体的な教育内容について③(地域と生活)
- 第8回生活科の具体的な教育内容について④(公共物や公共施設の利用)
- 第9回生活科の具体的な教育内容について⑤(季節の変化と生活)
- 第10回生活科の具体的な教育内容について⑥(自然や物を使った遊び)
- 第11回生活科の具体的な教育内容について⑦(動植物の飼育・栽培)
- 第12回生活科の具体的な教育内容について⑧(生活や出来事の交流)
- 第13回生活科の具体的な教育内容について⑨(自分の成長)
- 第14回幼稚園教育と生活科の関連について
- 第15回生活科の評価の観点とその方法、まとめ

評価方法

試験（70%）、課題（20%）、平常点（10%）

使用教材

文部科学省「小学校学習指導要領解説生活編」日本文教出版

授業外学習の内容

毎回授業の最初に前回授業内容にかかわる確認テストを実施するので、授業のポイントについて復習をしておくこと。

備考

家庭（保育・教育の内容）

担当者

内田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

小学校家庭科の内容を構成する衣生活・食生活・家庭生活・消費生活の基礎的な事項について講義する。

到達目標

小学校家庭科で取り扱う学習内容について各々の構成要素と相互の関係を理解し、小学校家庭科の指導に必要な基礎的な知識を得る。

講義内容と講義計画

第1回衣生活:衣服の働きと快適な着方の工夫

第2回衣生活:衣服の手入れ

第3回衣生活:環境に衣服

第4回衣生活:被服実習

第5回食生活:食事の意義

第6回食生活:栄養素の種類とその働き

第7回食生活:献立作成と食事調査

第8回食生活:実習

第9回家庭生活:子どもと家族

第10回家庭生活:金銭の管理と活用

第11回家庭生活:消費生活と消費者問題

第12回家庭生活:実習・演習

第13回住生活:快適な住まい

第14回家庭経済(物やお金の使い方を考えよう)

第15回家庭・地域・環境かかわりを考える。

評価方法

学習状況とレポート、課題の達成度、定期試験により総合的に評価する。

使用教材

小学校家庭科検定済教科書。必要なプリントを配布する。

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習しておくこと。

備考

図画工作（保育・教育の内容）

担当者

富澤 秀文

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年通年 必修 2単位

講義目標

小学校の図画工作は、造形遊びによる活動、絵や立体や工作の制作を通して作品につなげる活動、更に鑑賞の活動が加わり編成される。この教科は児童の感性に働きかけ、作り出す喜びを体験させていくことを特質とする。そのゆえに指導者自身も制作力を保持していることを求められている。受講者はこれらを前提として、平面や立体などの制作を行い、造形材料の扱いにも習熟できるものにする。

到達目標

造形表現全般にわたる知見を確かなものにし、それを踏まえての作品制作の基礎的な技能を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回現代の美術の状況と学校教育における造形教育の位置
- 第2回彩色材料と表現効果について
- 第3回クレヨン・パステル類の特質とその検証
- 第4回水彩絵具の特質とその位置
- 第5回水彩絵具による制作
- 第6回樹脂絵具による制作-淡彩法
- 第7回樹脂絵具による制作-重色法
- 第8回課題作品の講評と水性式絵具の解説
- 第9回一版多色木版画による制作-工程の解説
- 第10回一版多色木版画による制作-下絵の作成
- 第11回一版多色木版画による制作-転写
- 第12回一版多色木版画による制作-彫刻
- 第13回一版多色木版画による制作-擦り
- 第14回課題作品の講評と版画領域の解説
- 第15回前期のまとめ
- 第16回図画工作科に関わる材料と用具
- 第17回色紙による作品制作と解説
- 第18回色紙による作品制作-線対称による形づくり
- 第19回色紙による作品制作-非対称による形づくり
- 第20回組紙による作品制作と解説
- 第21回組紙による作品制作-R2-1方式
- 第22回組紙による作品制作-R2-2方式
- 第23回組紙による作品制作-R1-1方式
- 第24回ペーパークラフト(解説)
- 第25回ペーパークラフト制作
- 第26回動く玩具の解説
- 第27回動く玩具の制作
- 第28回動く玩具の制作と講評
- 第29回造形教材論
- 第30回1年のまとめ

評価方法

試験(筆記・実技)40%、課題作品 60%の比率で判定

使用教材

水性絵具一式、画用紙、方眼ケント紙、B4 トーナルカラー、カッターマット、カッターナイフ、直定規、樹脂粘土、工作用セメダイン、版画用紙、版画絵具

授業外学習の内容

配布資料については次回の授業時に小テストで確認するので復習しておくこと。制作の進行が遅れた場合には、時間外に自主的に調整すること。

備考

TEL・FAX 027-288-5880
TEL・メール 08013868517

体育（保育・教育の内容）

担当者

山西 加織

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 必修 2単位

講義目標

幼稚園や小学校における運動遊びや体育学習領域の内容について、さまざまな身体運動や遊びの実践をとおして理解を深めていく。それぞれの身体運動や遊びの特性を理解するとともに、子どもの発達段階に応じた教材の工夫や援助・指導の方法について学習する。

到達目標

様々な運動の特性を説明することができる。
それぞれの運動の基本的技術を身につけることができる。
発達に適した教材を選択・工夫し、運動を指導することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 体ほぐしの運動・運動遊び
- 第3回 遊具を使用しない運動・運動遊び(1) 歩行・跳躍運動
- 第4回 遊具を使用しない運動・運動遊び(2) 表現遊び
- 第5回 遊具を使用しない運動・運動遊び(3) 鬼遊び
- 第6回 レクリエーション・ゲーム遊び
- 第7回 遊具を使った運動・運動遊び(1) マット
- 第8回 遊具を使った運動・運動遊び(2) 跳び箱
- 第9回 遊具を使った運動・運動遊び(3) 鉄棒
- 第10回 遊具を使った運動・運動遊び(4) 遊具
- 第11回 遊具を使った運動・運動遊び(5) ボール
- 第12回 遊具を使った運動・運動遊び(6) 縄
- 第13回 水遊び・水泳
- 第14回 体づくり・力試しの運動・運動遊び
- 第15回 まとめ

評価方法

授業に対する意欲・態度を重視し、期末試験を合わせて総合評価する。

使用教材

「小学校学習指導要領解説体育編」文部科学省。「幼稚園教育要領解説」文部科学省。必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

各運動・運動遊びに関して、レポートを作成すること。レポート内容については、初回に説明する。

備考

英語学概論（保育・教育の内容）

担当者

日下 洋右

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論の各分野の基礎的な知識を習得し、人間言語を形成している要素を学ぶ。

到達目標

英語学の各分野についての知識を深める

講義内容と講義計画

- 第1回英語学とは何か
- 第2回言語とは何か
- 第3回英語のフォニクス
- 第4回音声学・音韻論
- 第5回形態論
- 第6回統語論
- 第7回語彙の意味論
- 第8回動詞句の意味論
- 第9回情報構造の基礎
- 第10回情報構造の応用
- 第11回日英語の比較
- 第12回意味論の学術論文購読（語彙意味論）
- 第13回意味論の学術論文購読（句動詞意味論）
- 第14回まとめ
- 第15回まとめ、復習

評価方法

レポート、テスト、プレゼンテーション、課題等の総合評価

使用教材

長谷川瑞穂編著「はじめての英語学」研究社、2011、3,500円

授業外学習の内容

次回のテキストの授業範囲を繰り返し読み、内容をよく理解して授業に臨むこと。特に発表者はテキストを入念に読みこんで、ハンドアウトを作成し、発表の準備をすること。
3回ごとに前回までの授業内容に関する小テストを実施するので、復習を十分にしておくこと。

備考

英語学といってもさまざまな分野がありますが、一つ一つをわかりやすく解説していきます。わからないことがあれば早めに気軽に質問してください。

英文法総論（保育・教育の内容）

担当者

中村 博生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

文法項目に関連する様々な練習問題に取り組みながら、読み・書き・聞き・話す能力を総合的に向上させる。さらに、特に日本人英語学習者が間違いやすい文法項目を取り上げ、英語だけでなく、日本語の文法とも比較検討しながら、英文法への理解を深めていくことを目的とする。授業では講義だけでなく受講生による発表や討論もおこなう。

到達目標

読み・書き・聞き・話すという4技能を向上させるべく文法の理解と日本語との比較を基本にした英文法習得。

講義内容と講義計画

- 第1回現在時制の基本的用法
- 第2回過去時制(1)基本的用法
- 第3回過去時制(2)応用編
- 第4回現在完了(1)その時間的範囲
- 第5回現在完了(2)時を表わす副詞的修飾語
- 第6回未来時制
- 第7回進行相
- 第8回まとめ
- 第9回中間試験(試験内容の解説も含む)
- 第10回受動態(1)基本的用法
- 第11回受動態(2)応用編
- 第12回名詞と冠詞(1)基本的用法
- 第13回名詞と冠詞(2)応用編
- 第14回名詞と冠詞(3)周辺の用法
- 第15回まとめ

評価方法

小テスト、中間試験、期末試験の結果および、授業内の貢献度を総合的に考慮する。

使用教材

講義内で適宜指示する。

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

辞書は必携。授業内容の予習・復習を行うこと。

英語学文献講読 I (保育・教育の内容)

担当者

嶋田 和成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

これまでの英語学に関する様々な現象を扱った文献を精読する。それを通して、英語学の基礎的な概念、および言語学的観点から見た言語現象の捉え方を学ぶことに主眼をおく。この授業を通して、論証の仕方を学び、論理的な思考をおこなう習慣をつけさせることをも目的とする。

到達目標

英語学の基礎的な概念、および言語学的観点から見た言語現象の捉え方を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回文ができる仕組みを考えよう(1)基本編
- 第2回文ができる仕組みを考えよう(2)応用編
- 第3回ことばの意味とコンテキスト(1)基本編
- 第4回ことばの意味とコンテキスト(2)応用編
- 第5回意味の拡張(1)基本編
- 第6回意味の拡張(2)応用編
- 第7回中間試験(試験内容の解説も含む)
- 第8回情報構造とは(1)基本編
- 第9回情報構造とは(2)応用編
- 第10回まとめの課題
- 第11回他言語との比較(1)基本編
- 第12回他言語との比較(2)応用編
- 第13回日本語の発想と英語の発想(1)基本編
- 第14回日本語の発想と英語の発想(2)応用編
- 第15回まとめ

評価方法

小テスト、中間試験、期末試験の結果および、授業内の貢献度を総合的に考慮する。

使用教材

講義内で適宜指示する。

授業外学習の内容

授業内容の予習・復習を行い、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

辞書は必携。

英語学文献講読Ⅱ（保育・教育の内容）

担当者

嶋田 和成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

英語学の専門用語を理解しながら、英語学の学術論文を精読し、各分野の代表的な概念や基礎的な知識を深める。

到達目標

英語学の幅広い分野について基礎知識を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 句構造
- 第3回 統語構造
- 第4回 変形文法の基礎
- 第5回 変形文法の変化
- 第6回 変形文法の応用
- 第7回 まとめ
- 第8回 中間試験と試験内容の解説
- 第9回 意味論の基礎
- 第10回 意味論の応用
- 第11回 語彙の意味構造
- 第12回 動詞の意味構造
- 第13回 論文購読(語彙構造)
- 第14回 論文購読(文レベルの意味構造)
- 第15回 まとめ

評価方法

レポート、中間、期末テスト、授業参加意欲等の総合評価

使用教材

未定

授業外学習の内容

授業内容の予習・復習を行い、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

英語の品詞など基礎的なところから進めていきます。専門用語もありますが、丁寧に解説していきますので、わからないことがあれば早めに気軽に質問してください。

英米文学概論（保育・教育の内容）

担当者

松田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

「英米文学」（とされてきたもの）がいかに構築され、あるいは破棄されてきたのか、批評理論の現代までの推移を概観しながら、歴史的・文化的な観点から「英米文学」という枠組みを読み解く。

到達目標

英米文学を論じる際の批評的観点を身につけること。

講義内容と講義計画

- 第1回 利エンテーション:授業の進め方、イントロダクション
- 第2回 英米文学はどこからきたか?
- 第3回 英米文学と「正しい解答」・批評的態度
- 第4回 文学・価値・正典とは何か?
- 第5回 シェイクスピアを研究する(1) (イギリスにおけるシェイクスピア研究)
- 第6回 シェイクスピアを研究する(2) (アメリカ・日本におけるシェイクスピア研究)
- 第7回 作者は死んだ?
- 第8回 隠喩と比喩的表現(1):英詩を読む
- 第9回 隠喩と比喩的表現(2):アメリカ詩を読む
- 第10回 物語と終結
- 第11回 イギリス的・国家的アイデンティティと文化遺産(シェイクスピア)
- 第12回 アメリカ的・国家的アイデンティティと文化遺産(アメリカ・ロマン主義)
- 第13回 英文学・文化・政治(シェイクスピアとルネサンス)
- 第14回 アメリカ文学・文化・政治(戦後のアメリカ文学)
- 第15回 まとめ:学際的英米文学研究のために

評価方法

レポートによる評価。ただし、三分の一以上欠席すると不可となるので注意すること。

使用教材

ロバート・イーグルストン『「英文学」とは何か』(研究社、2003)

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと

備考

英米文学講読（保育・教育の内容）

担当者

松田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

主に19世紀に書かれた英米の小説を毎時間読み、それについてディスカッションすることで、英米文学を出来るだけ多く読み、また実践的に英文学を論じる能力を得る。

到達目標

英米文学を論じる際の批評的観点を身につけること。

講義内容と講義計画

- 第1回 利エンテーション、英米文学とは何か
- 第2回 英文学と文化・政治：批評的態度について
- 第3回 Dickens, "Madman's Manuscript" を読む①（読解、内容理解）
- 第4回 Dickens, "Madman's Manuscript" を読む②（読解、ディスカッション）
- 第5回 コシック小説とゴシック・リヴァイヴァル
- 第6回 Hardy, "Barbara of the House of Grebe" を読む①（読解、内容理解）
- 第7回 Hardy, "Barbara of the House of Grebe" を読む②（読解、ディスカッション）
- 第8回 ホースト・コロニアル批評とジョセフ・コンラッド
- 第9回 Conrad, "The Disturber of Traffic" を読む①（読解、内容理解）
- 第10回 Conrad, "The Disturber of Traffic" を読む②（読解、ディスカッション）
- 第11回 脱構築とロマン主義
- 第12回 Melville, Moby-Dick を読む①（読解、内容理解）
- 第13回 Melville, Moby-Dick を読む②（読解、ディスカッション）
- 第14回 ディスカッション
- 第15回 まとめ：文学に「正しい読み」はあるか？

評価方法

レポートによる評価。ただし、三分の一以上欠席すると不可となるので注意すること。

使用教材

上記の作品以外は、その都度指定する。また、授業内でプリントを配布する。

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと

備考

英米文学文献講読（保育・教育の内容）

担当者

松田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 2単位

講義目標

シェイクスピアの『オセロー』を英語で鑑賞、精読する。読解の補助として、日本語訳を用いてもかまわない。また、『オセロー』に関する批評を読み、批評的観点から作品を読み解く方法についても学ぶ。

到達目標

シェイクスピアの『オセロー』を読み、イギリス・ルネサンス演劇読解の基礎を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 刈エントーション、イントロダクション
- 第2回 イギリス・ルネサンス演劇とシェイクスピアの悲劇
- 第3回 『オセロー』 第一幕一場～二場
- 第4回 『オセロー』 第一幕三場
- 第5回 『オセロー』 第二幕一～二場
- 第6回 『オセロー』 第二幕三場
- 第7回 『オセロー』 第三幕一場～二場
- 第8回 『オセロー』 第三幕三場
- 第9回 『オセロー』 第三幕四場
- 第10回 『オセロー』 第四幕一～二場
- 第11回 『オセロー』 第四幕三場
- 第12回 『オセロー』 第五幕一場
- 第13回 『オセロー』 第五幕二場
- 第14回 論文 Coppelia Kahn, "Man's Estate: Masculine Identity in Shakespeare" (1981)
- 第15回 論文 Alan Sinfield, "Cultural Materialism, Othello and the Politics of Plausibility" (1992)

評価方法

授業内での貢献とレポートによる評価。ただし、三分の一以上欠席すると不可となるので注意すること。

使用教材

ウィリアム・シェイクスピア『オセロー』 笹山隆編(大修館、1989)

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと

備考

英米児童文学文献講読（保育・教育の内容）

担当者

松田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

英米児童文学、とりわけファンタジー作品をできるだけ多く読み、そこに描かれた子供の表象を確認することで、近代社会の中で理想とされる子供像がいかに形成されてきたのかを確認する。

到達目標

ファンタジーに描かれた子供の表象を確認し、近代の「子供像」がどのように形成されてきたのかを読む。

講義内容と講義計画

第1回 利エンテーション、イントロダクション

第2回 「児童」とは誰か?: 児童文学というジャンルの誕生

第3回 トビヤード・キプリング 『ジャングルブック』 (1894) ① (読解、内容理解)

第4回 トビヤード・キプリング 『ジャングルブック』 (1894) ② (批評、ディスカッション)

第5回 ジェームズ・バリ 『ピーターとウエンディ』 (1911) ① (読解、内容理解)

第6回 ジェームズ・バリ 『ピーターとウエンディ』 (1911) ② (批評、ディスカッション)

第7回 P. L. トラウアース 『風にのってきたマリー・ポピンズ』 (1934) ① (読解、内容理解)

第8回 P. L. トラウアース 『風にのってきたマリー・ポピンズ』 (1934) ② (批評、ディスカッション)

第9回 C. S. ルイス 『ライオンと魔女』 (1950) ① (読解、内容理解)

第10回 C. S. ルイス 『ライオンと魔女』 (1950) ② (映画鑑賞、批評の確認)

第11回 C. S. ルイス 『ナルニア国物語』 (1950) ③ (批評、ディスカッション)

第12回 ロアルト・ダール 『チャーリーとチョコレート工場』 (1964) ① (読解、内容理解)

第13回 ロアルト・ダール 『チャーリーとチョコレート工場』 (1964) ② (批評、ディスカッション)

第14回 J. K. ローリング 『ハリー・ポッターと賢者の石』 (1997) ① (読解、内容理解)

第15回 J. K. ローリング 『ハリー・ポッターと賢者の石』 (1997) ② (批評、ディスカッション)

評価方法

レポートによる評価。ただし、三分の一以上欠席すると不可となるので注意すること。

使用教材

桂宥子, 牟田おりえ編著 『はじめて学ぶ英米児童文学史』

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと

備考

英語教育学文献講読Ⅰ（保育・教育の内容）

担当者

日下 洋右、嶋田 和成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

これまでの英語教育学に関する文献を精読し、実際の学校現場において、英語学習、英語指導に関する実践可能な手法を身につける。第2言語習得論に関して、学習を促進する方法や、そのメカニズムに関する知識を増やし、さらに良い学習方法があるかどうかを検討する。さらに、論証の仕方を学び、論理的な思考をおこなう習慣をつけさせることをも目的とする。授業では講義だけでなく受講生による発表や討論もおこなう。

到達目標

これまでの英語教育学に関する文献を精読する。それを通して、実際の学校現場において、英語学習、英語指導に関する実践可能な手法を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回第二言語習得(1)学習者の特性
- 第2回第二言語習得(2)これまでの研究の流れ
- 第3回母語と第二言語との関連
- 第4回こどもの言語習得臨界期とは
- 第5回英語学との関係(1)音韻論との関連
- 第6回英語学との関係(2)形態論との関連
- 第7回中間試験(試験内容の解説も含む)
- 第8回英語学との関係(3)統語論との関連
- 第9回英語学との関係(4)意味論との関連
- 第10回英語学との関係(5)語用論との関連
- 第11回第二言語の学習のメカニズム
- 第12回第二言語習得と第二言語習得論との関わり
- 第13回効果的な学習方法とは
- 第14回実践編
- 第15回まとめ

評価方法

小テスト、中間試験、期末試験の結果および、授業内の貢献度を総合的に考慮する。

使用教材

講義内で適宜指示する。

授業外学習の内容

授業内容の予習・復習を行い、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

辞書は必携。

英語教育学文献講読Ⅱ（保育・教育の内容）

担当者

日下 洋右、嶋田 和成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

英語教育学分野における主なテーマや問題について関連する文献を英語で読み、議論していく。

到達目標

英語教育の実践のための基礎となる「英語学」に関して、知識を深める。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 英語学とは
- 第3回 英語の地域多様性、社会的変化
- 第4回 英語学概論（英語学を構成する分野について）
- 第5回 英語形態論
- 第6回 英語音韻論
- 第7回 英語意味論
- 第8回 中間試験と試験内容の解説
- 第9回 英語統語論
- 第10回 英語語用論
- 第11回 社会言語学
- 第12回 英語教育について（レベルの考察）
- 第13回 英語教育について（シラバスの作成）
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

評価方法

レポート、テスト、プレゼンテーション、課題、授業参加意欲等の総合評価

使用教材

未定

授業外学習の内容

授業内容の予習・復習を行い、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

英語学の基礎的な内容を広く学んでいきます。わからないことがあれば早めに気軽に質問してください。

言語文化論（保育・教育の内容）

担当者

松田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

明治期以降、日本語によって翻案・翻訳されたシェイクスピア劇を、作品を取り上げながら解説し、言語の差異が、いかなる文化的な読解の可能性を生み出していくのかを探る。

到達目標

シェイクスピア演劇が、日本でどのように改作されてきたのかについて、英語と日本での翻訳の問題に注目し論じる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション、イントロダクション: アニメ『ロミオ×ジュリエット』（日本、2007）
- 第2回 エリザベス朝の英語とシェイクスピア: 劇場・上演・観客
- 第3回 エリザベス朝の『ロミオとジュリエット』: 言語の観点から
- 第4回 ミュージカル版『ロミオとジュリエット』（1）（アメリカ、1961）（鑑賞、内容理解）
- 第5回 ミュージカル版『ロミオとジュリエット』（2）（アメリカ、1961）（議論）
- 第6回 1990年代アメリカの『ロミオとジュリエット』
- 第7回 日本におけるシェイクスピア: 明治期～現在までの受容史
- 第8回 明治期日本のシェイクスピア受容（1）: 明治期の英文学受容
- 第9回 明治期日本のシェイクスピア受容（2）: 言語の観点から
- 第10回 戦前のシェイクスピア翻案・翻訳
- 第11回 戦後のシェイクスピア翻案・翻訳
- 第12回 蜷川幸雄の『ロミオとジュリエット』（2004）（1）（鑑賞、内容理解）
- 第13回 蜷川幸雄の『ロミオとジュリエット』（2004）（2）（議論）
- 第14回 現代日本におけるシェイクスピア翻案・翻訳: 劇場、TVドラマ
- 第15回 現代日本におけるシェイクスピア翻案・翻訳: 小説、漫画

評価方法

レポートによる評価。ただし、三分の一以上欠席すると不可となるので注意すること。

使用教材

特に指定しない。授業内でプリントを配布する。

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと

備考

ヨーロッパ思想と多文化理解（保育・教育の内容）

担当者

石原 綱成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 2単位

講義目標

子どもたちが、いかに教育されてきたかを、歴史、文化、社会を通して概観する。それによって、現代の教育をめぐる諸問題に対し、多角的に理解できるようにする。各時代の子どもの姿を浮き彫りにし、現代の教育問題を考える。

到達目標

教育とはその時代、地域、歴史などによって大きく変化する。すなわちどのような人格が求められるか、その価値観が如実に表れる。それは教育思想としてその時代が求める「価値観」となる。その「価値観」を理解するためには「相対的」に理解がもとめられる。現在の教育はどのような思想を経て確立したかを考察しなければならない。この講義の目標は、異文化の思想を理解することで、教育者に必要な深い知識と広い教養を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ヨーロッパ思想の源流①キリシヤ・ローマ
- 第3回 ヨーロッパ思想の源流②ヨーロッパ中世とキリスト教
- 第4回 近代の成立と家族観の変遷
- 第5回 アリスの子どもの発見をめぐって①不完全な大人とは
- 第6回 アリスの子どもの発見をめぐって②近代の子ども観の成立
- 第7回 近代の思想家をめぐって①ロックの教育思想
- 第8回 近代の思想家をめぐって②ルソーの「エミール」の成立背景
- 第9回 キリスト教美術にみる子どもの表現①レドゥの変遷
- 第10回 キリスト教美術にみる子どもの表現②死の舞踏に現われる子ども
- 第11回 子どもの教育思想を再考する
- 第12回 ヨーロッパと日本①日本の近代思想と教育
- 第13回 ヨーロッパと日本②戦前と戦後の教育思想を考える
- 第14回 各時代、各地域の教育思想を比較する
- 第15回 総復習と総括

評価方法

基本的には筆記試験をおこなうが、出席点や授業中にか課すレポート等も評価に加える。

使用教材

特にないが、参考文献は逐次紹介する。

授業外学習の内容

- ・ 次回の授業のプリントを配布するので、専門用語、時代背景などよく予習しておくこと。
- ・ 今までの授業の理解度を確認するために小テストを行うのでよく復習しておくこと。

備考

積極的な参加を期待する。授業中の良い質問は講義に反映させる。尚、学生の興味・関心によりシラバスを変更することがある。

表現演習（保育・教育の内容）

担当者

岡本 拓子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 1単位

講義目標

子どもを対象とした人形劇やミュージカル等の舞台制作について、企画、台本制作、演出、舞台装置や衣装制作等を行い、さらにそれらを演じる技術を習得し発表する。また、保育・教育現場において子どもが発表会等で行う表現活動の指導方法についても実践を通して学ぶ。

到達目標

子どもを対象とした人形劇、ミュージカル等の舞台制作および発表を通して、保育士・教師に必要な表現力を総合的に習得するとともに、子どもの表現活動の指導方法についても実践的に学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回:授業の概要説明。1グループ 10名程度にグループ分けを行い、演目検討。
- 第2回:台本制作、演出、舞台装置、衣装制作、出演者等の役割ごとの作業確認と準備
- 第3回:各グループの演目について発表し、意見交換を行い内容についての再検討。
- 第4回:音楽練習使用楽曲の選曲、パート練習
- 第5回:立ち稽古①実際に演じながら練習および演技指導
- 第6回:中間発表各グループの演目を発表し、意見交換、演技指導。
- 第7回:立ち稽古②中間発表を踏まえての修正、演技指導
- 第8回:通しリハール①照明、衣装、舞台装置等確認
- 第9回:通しリハール②最終リハール
- 第10回:舞台発表
- 第11回:発表後の振り返り反省と評価
- 第12回:子どもの発表会における表現活動の指導方法について、模擬保育の内容検討
- 第13回:表現活動の指導について、指導案を作成する。
- 第14回:模擬保育:グループごとに発表し相互に評価しあう。
- 第15回:まとめ

評価方法

課題への取り組み、発表時の取り組みおよび期末試験により総合的に評価する。

使用教材

なし

授業外学習の内容

毎時課されるグループワークなどの課題に取り組むこと。

備考

絵本論（保育・教育の内容）

担当者

今井 邦枝

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 1単位

講義目標

保育の現場において絵本は、多く使われている児童文化材の一つであり、子どもたちが楽しむことができる媒体である。この講義では多くの絵本に触れ、絵本の特性や種類などについて理解を深める。次に実際に子どもに読み聞かせをする際の絵本の選択の仕方、絵本の読み聞かせに関する方法を習得する。その上で指導案を作成し検討を行い、実践力を養う。

到達目標

- ・児童文化材の一つである絵本についての種類や特性を理解する。
- ・保育教材として絵本を捉え、保育現場での活用法や活動の展開方法などを学び、実践力を養う。

講義内容と講義計画

- 第1回 児童文化材としての絵本
- 第2回 保育教材としての絵本
- 第3回 絵本の種類①: 赤ちゃん絵本
- 第4回 絵本の種類②: 創作・物語絵本
- 第5回 絵本の種類③: 昔話・民話絵本
- 第6回 絵本の種類④: 知識絵本(科学絵本、図鑑絵本、数の絵本)
- 第7回 絵本の種類⑤: 言葉の絵本、文字のない絵本、写真絵本
- 第8回 絵本の種類⑥: しかけ絵本
- 第10回 保育現場での絵本の展開
- 第11回 読み聞かせの実践方法、指導案作成について
- 第12回 指導案作成①(ねらい・内容について)
- 第13回 指導案作成②(活動の展開)
- 第14回 指導案の検討①(保育シミュレーション): 教材とねらい
- 第15回 指導案の検討②(保育シミュレーション): 活動の展開、まとめ

評価方法

課題レポート 70%、課題 20%、平常点 10%

使用教材

必要に応じてプリントを配布する

授業外学習の内容

さまざまな絵本を読み、絵本シートを作成すること。

備考

さまざまな絵本を読み、絵本シートを作成すること

家庭教育と幼児教育（保育・教育の内容）

担当者

今井 麻美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年後期 選択 2単位

講義目標

家庭教育と幼児教育の関係の在り方に関する議論を歴史的に学ぶ。その後、現在、家庭教育は幼児教育との関係の中でどのように語られているのかについて学ぶ。最後に、ディスカッションを通して、両者のそれぞれの役割、意義について総合的に考えを深める。

到達目標

広い視野で家庭教育と幼児教育との関係を捉える視点を持つ。幼児教育、家庭支援、子育て支援に関するこれまでの学びを総合的に深める。

講義内容と講義計画

授業計画

- 第1回 オリエンテーション: 授業の概要と進め方
- 第2回 家庭教育と幼児教育の関係の在り方に関する議論(1): 幼児教育の誕生
- 第3回 家庭教育と幼児教育の関係の在り方に関する議論(2): 両者の対等性
- 第4回 家庭教育と幼児教育の関係の在り方に関する議論(3): 現在の問題と課題
- 第5回 海外の家庭教育と幼児教育
- 第6回 現代日本の家庭教育関係施策
- 第7回 行政文書から捉える「家庭教育」
- 第8回 メディアから捉える「家庭教育」
- 第9回 「家庭教育」言説から捉える子ども像、親像
- 第10回 家庭から幼児教育への移行: 親子にとっての変化
- 第11回 家庭から幼児教育への移行: 親子が保育者と関わることの意味
- 第12回 親-子ども関係と保育者-子ども関係
- 第13回 家庭教育と幼児教育のそれぞれの役割と意義: グループディスカッション
- 第14回 家庭教育と幼児教育のそれぞれの役割と意義: グループ同士のディスカッション
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、課題への取り組み、学期末レポートにより総合的に評価する。

使用教材

適宜プリントを配布する

授業外学習の内容

随時配布する文献、資料等を授業の予習として読んでくること。予習範囲については、授業内で指定する。

備考

なし

パーソナリティの心理学（保育・教育の内容）

担当者

板津 裕己

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

パーソナリティ心理学の視点から、人間行動などに見いだされる「個性」について学ぶ。さらに、人間行動規定因として重要視される「自己」の問題（自己観の発達過程、自己概念の形成やその機能を含む）について考えていく。

到達目標

- ・行動規定因の1つである自己・自分自身に対して問題意識を持って向き合えるようになる。
- ・将来、教育者や保育者として、向き合う人の個性を尊重することの大切さが自覚できるようになる。
- ・「こころ」の働きや特徴の基礎学習として、心理学的なパーソナリティ理論や自己理論の基礎を理解できるようになる。

講義内容と講義計画

- 第1回 エンターション-パーソナリティとは何か-
- 第2回 パーソナリティの内容、パーソナリティ理解の方法
- 第3回 ライフサイクルとパーソナリティ-精神分析的なパーソナリティ理解-
- 第4回 パーソナリティの理論 1-類型や特性といった観点からのパーソナリティ理解-
- 第5回 パーソナリティの理論 2-現象学的アプローチからのパーソナリティ理解-
- 第6回 パーソナリティの理論 3-「生き方(Lifeattitude)」の問題-
- 第7回 パーソナリティの理論 4-行動主義(学習理論)からのパーソナリティ理解-
- 第8回 知的能力と創造性
- 第9回 自己の心理学 1-自己意識を研究すること、自己概念のはたらき-
- 第10回 自己の心理学 2-自己観の発達過程、自己概念の形成過程-
- 第11回 自己の心理学 3-社会心理学的自己論-
- 第12回 自己の心理学 4-自己の能力を信じること、自己効力論-
- 第13回 自己の心理学 5-自己肯定感と自己受容性-
- 第14回 健康なパーソナリティ像
- 第15回 パーソナリティ、自己と文化の問題、まとめ

評価方法

評価は、個人ワーク課題の提出状況および期末試験などを総合して行う。

使用教材

テキストは使用しない。授業進行に従いプリントを配布する。

授業外学習の内容

- ・人間（自分自身や周囲にいる人など）に関心を持つようにすること。
- ・日頃から、個性に関心を持つとともに、個性の働きについて考えるようにすること。
- ・「翌週までの課題」を終えておくこと。

備考

- ・「心理検査法」の履修を考えている学生は、本科目を履修しておくことが望ましい。
- ・授業は、講義のほかに個人ワークでもって進める。

音楽と表現 I (保育・教育の方法技術)

担当者

岡本 拓子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 1単位

講義目標

歌唱表現を中心に子どもの音楽的発達を理解し、保育士・教師に必要な発声のメカニズムの基本および歌唱法に関する知識と技術を習得する。

到達目標

「歌」を中心とした保育内容・小学校音楽科の授業内容を理解し、子どもの遊びや音楽活動を豊かに展開するために必要な保育士・教師の歌唱表現の知識と技術を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回:子どもの発達と音楽表現の基本について理解する。
- 第2回:幼児,児童の声帯と発声および歌唱表現の発達について理解する。
- 第3回:保育内容における音楽表現と,小学校音楽科における授業内容について理解する。
- 第4回:基本的な発声法の習得発声のメカニズム,姿勢,呼吸法を習得し,発声練習を行う。
- 第5回:ソルフェージュ①リズム練習を行う。
- 第6回:ソルフェージュ②コーリュブソング・コンコーネから抜粋し発声法を習得する。
- 第7回:歌唱教材①手遊び歌に関する知識と技術を習得する。
- 第8回:歌唱教材②乳幼児の歌唱曲に関する知識と技術を習得する。
- 第9回:歌唱教材③小学校低学年の歌唱曲に関する知識と技術を習得する。
- 第10回:歌唱教材④小学校高学年の歌唱曲に関する知識と技術を習得する。
- 第11回:歌唱教材⑤独唱曲に関する知識と技術を習得する。
- 第12回:歌唱教材⑥輪唱,合唱曲に関する知識と技術を習得する。
- 第13回:歌唱教材⑦子どもの歌唱曲と伴奏法に関する知識と技術を習得する。
- 第14回:歌唱教材⑧歌唱教材について楽曲分析を行い,歌唱曲を構造的に理解する。
- 第15回:まとめ

評価方法

課題への取り組み,発表時の取り組みおよび期末試験により総合的に評価する。

使用教材

こどもの歌 100 (チャイルド社)、児童教育・幼児教育課程用声楽指導教本(教育芸術社)

授業外学習の内容

授業で学んだ発声法や歌唱法については,授業外でも毎日自分で学習すること。

備考

音楽と表現Ⅱ（保育・教育の方法技術）

担当者

吉田 恵子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

①生活や遊びの中での音楽表現の実際②楽器遊びや楽器作り、器楽を中心とした表現活動とその展開の方法③音楽的な環境の構成さらに、これらの活動を通して、子どもたちの自発的な表現を促すための打楽器・鍵盤楽器等の表現力を身につける。

到達目標

「音楽と表現Ⅰ」に引き続き、子どもの遊びや音楽活動を豊かに展開する為の、特に器楽を中心とした音楽表現の知識や技術を習得することを目的とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 生活や遊びの中での音楽表現
- 第3回 音遊びと自然、レポート課題提示
- 第4回 楽器作りと音遊び①叩いたりこすったりして音を出す楽器
- 第5回 楽器作りと音遊び②吹いたり吸ったりして音を出す楽器
- 第6回 楽器遊びを中心とした表現活動
- 第7回 手作り楽器を用いたアンサンブルの発表
- 第8回 鍵盤楽器とその奏法、レポート提出
- 第9回 打楽器とその奏法①太鼓、他
- 第10回 打楽器とその奏法②シロフォン、他
- 第11回 打楽器による即興表現
- 第12回 マーチングの指導①楽器の構成、フォーメーション
- 第13回 マーチングの指導②マーチング発表
- 第14回 日本の保育・教育現場と音楽教育の現状
- 第15回 子どもの音楽表現を引き出す環境構成

評価方法

手作り楽器製作とレポート 30%、発表 30%、毎回の授業課題・授業の貢献度 40%を総合する

使用教材

資料を配布する

授業外学習の内容

「配布楽譜の楽器パートは、授業内ですぐアンサンブルできるように各自練習して、授業に臨むこと」

備考

授業での参加度を重視します。意欲的に活動に取り組んでください。
・鍵盤ハーモニカ、リコーダー、カスタネットは各自で用意する。

造形と表現 I (保育・教育の方法技術)

担当者

石原 綱成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

児童の創作活動における基礎的な能力や豊かな情操を養うために、実践的に関る。
また、制作過程を理解するために、授業で制作した作品は全て課題として提出する。

到達目標

児童の造形表現を豊かに養うために、その技術と方法を理解して、豊かな創造活動への造詣を深める。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス授業の進め方、教材等の説明
- 第2回 子どもの絵画の世界を理解する
- 第3回 子どもの絵画の法則を知る
- 第4回 スクラッチを作る
- 第5回 糸引き版画を作る
- 第6回 デカルコマーを作る
- 第7回 マーブリングを作る
- 第8回 牛乳パック工作①腹話術人形
- 第9回 牛乳パック工作②快速ボート
- 第10回 ホスター制作①色彩と構図
- 第11回 ホスター制作②文字の色々
- 第12回 手作りおもちゃ制作①紙コップを使って
- 第13回 手作りおもちゃ制作②自由課題
- 第14回 提出課題制作
- 第15回 まとめ子どもの世界を再考する

評価方法

作品提出により、評価する。また授業の参加状況も成績に反映させる。

使用教材

特になし

授業外学習の内容

- ・ 次回の課題に関しては事前にプリントを配布する。手順を各学生が確認しておくこと。
- ・ 授業内でできなかった作品は授業後に完成させておくこと。

備考

授業には積極的に参加すること。また、事前に必要なものは忘れずに準備すること。

身体と表現 I (保育・教育の方法技術)

担当者

山西 加織

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

様々な身体活動や運動遊びをとおして、身体を動かすことや表現することの楽しさを体験するとともに、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を学ぶ。また、様々な遊具や用具、素材等の特性を理解し、遊びに活用する方法を学習する。

到達目標

様々な運動遊びを実践し、それぞれの遊びの特性や魅力を説明することができる。
幼児が安全に遊びに取り組めるように援助することができる。
身近なものを用いた運動遊びを考え、指導することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 身体表現遊び(創作組体操)
- 第3回 伝承遊び(鬼遊び)
- 第4回 マットを用いた運動遊び
- 第5回 マット・跳び箱を用いた運動遊び
- 第6回 ボールを用いた運動遊び
- 第7回 フープを用いた運動遊び
- 第8回 縄を用いた運動遊び(1)長縄
- 第9回 縄を用いた運動遊び(2)短縄
- 第10回 サイバーボール・バールン・オーボールを用いた運動遊び
- 第11回 ゴムを用いた運動遊び
- 第12回 身近な素材を用いた運動遊びの制作
- 第13回 遊びの模擬指導と評価
- 第14回 遊びの展開の工夫と指導上の留意点
- 第15回 まとめ

評価方法

授業に対する意欲・態度を重視し、期末試験を合わせて総合評価する。

使用教材

別なテキストはなく、必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

運動遊びごとにレポートを作成すること。レポート内容については、初回に説明する。

備考

ことばと表現 I (保育・教育の方法技術)

担当者

今井 邦枝

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

乳幼児期の言語教育のあり方について、幼稚園教育要領や保育所保育指針を通して理解を深める。その上で具体的な児童文化財を検討し、さまざまな作品について理解を深める。

到達目標

- ・乳幼児期の言語教育の目標を確認するとともに、乳幼児期の言葉の発達を踏まえた適切な言語教材について理解する。
- ・ペープサートやパネルシアターなどの児童文化財について、その特性や種類などについて学び、さまざまな作品のストーリーと言葉について理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回人の生活と言葉:子どもにとって言葉とは何か
- 第2回人の生活と言葉:言葉が果たす役割・機能
- 第3回乳幼児期の言葉の特色
- 第4回領域「言葉」のねらいと内容:幼稚園教育要領
- 第5回領域「言葉」のねらいと内容:保育所保育指針
- 第6回子どもの言葉を育てる児童文化財
- 第7回ペープサートの特性とは
- 第8回ペープサート作品にみるストーリーと言葉
- 第9回ペープサートにみる子どもの言葉の育ち
- 第10回パネルシアターの特性とは
- 第11回パネルシアター作品にみるストーリーと言葉
- 第12回パネルシアターにみる子どもの言葉の育ち
- 第13回エプロンシアターの特性とは
- 第14回エプロンシアター作品にみるストーリーと言葉
- 第15回エプロンシアターにみる子どもの言葉の育ち

評価方法

課題作品 40%、教材研究レポート 40%、平常点の総合評価 20%

使用教材

久富陽子編「保育実技」萌文書林 2002、幼稚園教育要領(文部科学省)
保育所保育指針(厚生労働省)、小学校学習指導要領(文部科学省)

授業外学習の内容

さまざまな絵本を読み、絵本シートを作成すること。
作品発表に関しては、事前に準備をして臨むこと。

備考

さまざまな絵本を読み、絵本シートを作成すること。

器楽 I (保育・教育の方法技術)

担当者

岡本 拓子、吉田 恵子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 1単位

講義目標

本授業では、保育士や幼稚園および小学校の教員に必要な、様々な楽器の演奏技術および音楽を通しての指導に関する実践的技能の習得をめざす。また、習熟度に応じて「子どもの歌」の弾き歌いを初めとするさまざまな楽器の演奏技法を習得する。

到達目標

- ①ピアノの演奏技法を習得する。
- ②子どもの歌の伴奏および弾き歌いの演奏技法を習得する。
- ③移調奏、即興演奏、コード伴奏等の演奏技法を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回:オリエンテーション
- 第2回:保育に生かすクラシック①奏法, 楽譜の解釈/子どもの歌検定①
- 第3回:保育に生かすクラシック②バロック/子どもの歌検定②
- 第4回:第1回ピアノ実技検定/保育に生かすクラシック③古典
- 第5回:保育に生かすクラシック④ロマン派/子どもの歌検定③
- 第6回:保育に生かすクラシック⑤近代・現代/子どもの歌検定④
- 第7回:子どもの動きに合わせた即興①/子どもの歌検定⑤
- 第8回:第2回ピアノ実技検定
- 第9回:子どもの動きに合わせた即興②/子どもの歌検定⑥
- 第10回:子どもの動きに合わせた即興③/子どもの歌検定⑦
- 第11回:イメージを音にする～効果音を使った展開/子どもの歌検定⑧
- 第12回:第3回ピアノ実技検定/イメージを楽譜にする～効果音を使った展開
- 第13回:イメージを楽譜にする～楽譜のいろいろ/子どもの歌検定⑨
- 第14回:まとめと発表準備
- 第15回:子どもの音楽活動を支える～実技発表と相互評価

評価方法

筆記試験 30%, 実技発表 30%, 毎回の授業課題 40%を総合する。

使用教材

井戸和秀編『こどものうた 100』チャイルド本社、石川良子著『はじめての楽譜の読み方』ケイ・エム・ピー、教育芸術社初等科音楽教育研究会編『最新初等科音楽教育法』音楽之友社、そのほか資料を配布する。

授業外学習の内容

毎時の授業課題について必ず予習復習を行うこと。毎時実技発表を行う。人前での演奏に慣れること。

備考

MST2 級不合格者は履修する。

器楽Ⅱ（保育・教育の方法技術）

担当者

岡本 拓子、吉田 恵子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 1単位

講義目標

本授業では、器楽Ⅰに引き続き、保育士や幼稚園および小学校の教員に必要な、様々な楽器の演奏技術および音楽を通しての指導に関する実践的技能の習得をめざす。また、習熟度に応じて「子どもの歌」の弾き歌いを初めとするさまざまな楽器の演奏技法を習得する。

到達目標

- ①ピアノの演奏技法を習得する。
- ②子どもの歌の伴奏および弾き歌いの演奏技法を習得する。
- ③移調奏、即興演奏、コード伴奏等の演奏技法を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回:リエンテーション
- 第2回:保育・教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲①/初見奏①
- 第3回:保育・教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲②/初見奏②
- 第4回:第1回ピアノ実技検定/保育・教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲③
- 第5回:行事と伴奏音楽/初見奏③
- 第6回:保育・教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲④/初見奏④
- 第7回:保育・教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲⑤/初見奏⑤
- 第8回:第2回ピアノ実技検定/メロディ譜の伴奏つけの方法
- 第9回:メロディ譜の伴奏つけ
- 第10回:メロディ譜の初見伴奏①
- 第11回:メロディ譜の初見伴奏②
- 第12回:第3回ピアノ実技検定/伴奏のアレンジ①
- 第13回:伴奏のアレンジ②
- 第14回:まとめ～保育・教育におけるピアノの役割と音楽的環境構成
- 第15回:表現を深める～実技発表と相互評価

評価方法

レポート 30%、実技発表 30%、毎回の授業課題 40%を総合する。

使用教材

井戸和秀編『こどものうた100』チャイルド本社、石川良子著『はじめての楽譜の読み方』ケイ・エム・ピー、教育芸術社初等科音楽教育研究会編『最新初等科音楽教育法』音楽之友社、そのほか資料を配布する

授業外学習の内容

- 「毎時の授業課題について必ず予習復習を行うこと」
- 「毎回実技発表を行う。人前での演奏に慣れること」

備考

MST2 級不合格者は履修する。

造形と表現Ⅱ（保育・教育の方法技術）

担当者

石原 綱成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

幼児の造形は生活の中から生まれ、幼児の喜びと生きる力になっていること、保育者の適格な指導によって表現する意欲と力が高まることを理論と豊富な事例を通じて学んでいく。そして、子どもの特性や指導法について、教材研究・演習により実践に活かせるように進める。

到達目標

幼児の造形について確かな理解と技術を持ち、教育者としての資質を磨き、実践的指導力を身につけるよう理論と実際を学び、必要な技術を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回「表現」のねらいや内容について他の領域との関係、
- 第2回乳幼児期の造形教育の歩みと展望
- 第3回子どもの造形表現(1)日常生活から考える
- 第4回子どもの造形表現(2)子どもの遊びの場面から考える
- 第5回子どもの造形表現(3)子どもの成長発達から考える
- 第6回子どもの造形表現の理解①さまざまな素材を理解する
- 第7回子どもの造形表現の理解②自然環境から理解する
- 第8回子どもの造形表現の理解③いろいろな行事と造形
- 第9回子どもの造形表現の理解④聴覚教材を利用する
- 第10回指導計画への理解①指導計画案の作成
- 第11回指導計画への理解②指導計画の実践
- 第12回教材を活かした遊び
- 第13回共同制作①課題制作
- 第14回共同制作②発表・実践
- 第15回まとめ

評価方法

作品提出により評価する。また授業の取り組み姿勢も評価に反映させる。

使用教材

特になし

授業外学習の内容

- ・ 次回の課題に関しては事前にプリントを配布する。
- ・ 手順を各学生が確認しておくこと。
- ・ 授業内でできなかった作品は授業後に完成させておくこと。

備考

積極的な参加を期待する。授業で指定された教材等は必ず準備すること。

身体と表現Ⅱ（保育・教育の方法技術）

担当者

坂田 恭子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

リトミックを体験する。身体の活動を通じて音楽を学習し、音楽に対する理解を深めるとともに、音楽を感じ自分らしい表現活動を行う。

到達目標

リトミックについて理解を深める。身体を用いて音（音楽）を表現することにより、音楽的基礎能力を高め豊かな表現活動ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回リトミックについて
- 第2回身体の知覚、動きの基礎練習
- 第3回歩行
- 第4回様々なステップと即時反応(歩く、走る、スキップ、ギャロップ)
- 第5回拍と数、テンポ
- 第6回拍子、指揮とリズムステップ
- 第7回音程、ダイキスの表現
- 第8回フレーズの表現
- 第9回様々な音楽的要素の表現
- 第10回音楽作品の身体表現①(春の歌を用いて)
- 第11回音楽作品の身体表現②(夏の歌を用いて)
- 第12回音楽作品の身体表現③(秋の歌を用いて)
- 第13回音楽作品の身体表現④(冬の歌を用いて)
- 第14回音楽作品の身体表現⑤(わらべうたの歌を用いて)
- 第15回発表、まとめ

評価方法

授業、課題への取り組み、発表を総合的に評価する。

使用教材

講義内で適宜指示する。

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

ことばと表現Ⅱ（保育・教育の方法技術）

担当者

今井 邦枝

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

言葉遊びや児童文化財におけるストーリーや言葉について分析、検討する中で、言葉の成り立ちや子どもの言葉の学びについて理解する。その上でどのように保育の中で位置付けているかを理解する。

到達目標

- ・乳幼児期における言語教育の基本的な考え方について理解する。
- ・言葉遊びや児童文化財についての特性を学ぶ。保育の中で用いられる教材や児童文化財について言葉の成り立ちや学びについて理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回領域の考え方と保育内容「言葉」
- 第2回領域「言葉」の具体的な内容:聞く力、表現力、考える・想像する力
- 第3回言葉を育てる環境とは
- 第4回生活の中の言葉(聞く、話す、伝え合う)
- 第5回遊びの中の言葉(イメージを広げる、考えを深める)
- 第6回文字などへの興味・関心を育てる環境とは
- 第7回言葉遊びについて
- 第8回児童文化財について
- 第9回児童文化財における言葉
- 第10回保育の中の様々な言葉遊び
- 第11回言葉遊びにみる子どもの言葉の育ち
- 第12回保育における児童文化財
- 第13回児童文化材にみる子どもの言葉の育ち
- 第14回日常生活を中心とした保育者の援助と関わり
- 第15回小学校「国語科」との連携

評価方法

課題（指導計画案）70%、課題レポート20%、平常点10%

使用教材

幼稚園教育要領（文部科学省）、保育所保育指針（厚生労働省）、小学校学習指導要領（文部科学省）

授業外学習の内容

ことばに関する教材、児童文化財について、日頃から触れる機会をもつこと。

備考

ことばに関する教材、児童文化財について、日頃から触れる機会をもつこと。
受講資格「ことばと表現Ⅰ」を受講後に履修すること。

OralCommunication I (保育・教育の方法技術)

担当者

クリス・ターン

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

このコースでは、学習と練習によって受講者の内的小および外的コミュニケーションスキルを向上させる。内的コミュニケーションスキルとは、コミュニケーションを取る際の心の持ちかたに関するスキル。外的コミュニケーションスキルとは、考えたこと思ったことを直接に表現するスキル。これらのスキルを修得するために、独自に考案した situationpractice とトレーニングを行う。

到達目標

オーラルコミュニケーションの基礎的スキルを身につける。初対面の人とも必要レベルのコミュニケーションを取ることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 InternalCommunication:OurBeliefSystemandEmotions(内的コミュニケーション I:私たちの信念システムと情緒)
- 第2回 ExternalCommunicationSkills(外的コミュニケーションスキル)
- 第3回 ExternalCommunicationToolsI, II, III(内的コミュニケーションツール)
- 第4回 IncorporatingLanguage:English, Globish, OtherLanguages(言語を組み込む)
- 第5回 IntegratingSkills(練習とトレーニング)
- 第6回 SituationalPracticeandTrainingSPT(練習とトレーニング:旅行)
- 第7回 SituationalPracticeandTrainingSPT(練習とトレーニング:レストラン)
- 第8回 SituationalPracticeandTrainingSPT(練習とトレーニング:駅)
- 第9回 SocializingandtheSocialFactor(社交の場と社会的スキル)
- 第10回 SituationalPracticeandTrainingSPT(練習とトレーニング:ホテル)
- 第11回 SituationalPracticeandTrainingSPT(練習とトレーニング:ショッピング)
- 第12回 SituationalPracticeandTrainingSPT(練習とトレーニング:医療機関)
- 第13回 SpeechSkillsandPublicSpeaking(スピーチスキル)
- 第14回 Review(レビュー)
- 第15回 OralPresentation(プレゼンテーションスキル)

評価方法

それぞれの授業で行われる situationpractice やトレーニングへの参加度、達成度を見て学生を評価する。

使用教材

OralCommunicationI(ChrisTarn)

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと

備考

辞書は必携。

OralCommunication II (保育・教育の方法技術)

担当者

クリス・ターン

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

本講義はOralCommunication Iに続くもので、Iで身につけたスキルを小・中・高等学校それぞれの現場で、どのように生徒たちに教えていくか、そのメソッドを教授する。英語のみならず、他の言語も用いて、将来英語教員になる学生たちのコミュニケーション能力を高めたい。

到達目標

オーラルコミュニケーションスキルを身につけるPartII。
教員となる生徒たちにコミュニケーションスキルを効果的に教授する。

講義内容と講義計画

- 第1回 InternalCommunicationII:OurBeliefSystemandEmotions(内的コミュニケーションII:私たちの信念システムと情緒)
- 第2回 ExternalCommunicationSkills(外的コミュニケーションスキル)
- 第3回 ExternalCommunicationToolsI, II, III(内的コミュニケーションツール)
- 第4回 IncorporatingLanguage:English, Globish, OtherLanguages(言語を組み込む)
- 第5回 SituationalPracticeandTrainingSPT(練習とトレーニング)
- 第6回 SocializingandSocialSkills(社交の場と社会的スキル)
- 第7回 Speech(スピーチをする)
- 第8回 PublicSpeaking(パブリックスピーチ)
- 第9回 OralCommunicationSkillsIntegration(コミュニケーションツールの統合)
- 第10回 HowtoTeachStudentstheaboveCommunicationSkills(学校の生徒にコミュニケーションスキルを教える)
- 第11回 SituationalPracticeandTrainingSPT(会話練習:旅行)
- 第12回 SituationalPracticeandTrainingSPT(会話練習:レストラン)
- 第13回 SituationalPracticeandTrainingSPT(会話練習:駅)
- 第14回 SituationalPracticeandTrainingSPT(会話練習:ホテル)
- 第15回 ReviewandOralPresentation(レビューと口頭発表)

評価方法

それぞれの授業で行われる situationpractice への参加度、目標達成度を見て学生を評価する。

使用教材

OralCommunicationbooklet(ChrisTarn)

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと

備考

辞書は必携。

Writing I (保育・教育の方法技術)

担当者

松田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

英文の構造に注目したテキストを用いて、基礎的なパラグラフ・ライティングに取り組む。また、大学生活にかかわるトピックについてのエッセイを書くことで、英語による伝達力を高める。

到達目標

英語による内容伝達力を高めるため、パラグラフ・ライティングに取り組む。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション、イントロダクション
- 第2回 Unit1 書き始める前に
- 第3回 Unit2 ライティングの草稿
- 第4回 Unit3 修正と編集
- 第5回 Unit4 家族や友人について
- 第6回 Unit5 ふるさとについて
- 第7回 Unit6 週末について
- 第8回 Unit7 音楽とスポーツについて
- 第9回 Unit8 日本とイギリスについて
- 第10回 Unit10 愛について
- 第11回 Unit11 結婚について
- 第12回 Unit12 アルバイトについて
- 第13回 Unit13 健康について
- 第14回 Unit14 ライティングの基本
- 第15回 Unit15 エッセイの執筆

評価方法

試験、授業内で課する課題の総合評価。ただし、三分の一以上欠席すると不可となるので注意すること。

使用教材

杉田由仁・キャラクターリチャード『パラグラフ・ライティング基礎演習』（成美堂、2008）

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと

備考

Writing II (保育・教育の方法技術)

担当者

嶋田和成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

エッセイを書くための準備と構成を学び、最終的には5段落から成るパラグラフを書けるように練習する。

到達目標

学術論文、エッセイ等を書くための準備を段階的に学び、ライティング能力を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回英文ライティングの基本を学ぼう
- 第2回英文の作り方について学ぼう
- 第3回修正、訂正の基本を学ぼう
- 第4回家族や友達について書こう(記述)
- 第5回自分の故郷について書こう(例示)
- 第6回週末について書こう(時間的順序)
- 第7回音楽やスポーツについて書こう(分類)
- 第8回日本とイギリスについて書こう(比較)
- 第9回日本とアメリカの大学生活について書こう(対照)
- 第10回愛することの定義を書こう(定義)
- 第11回晩婚傾向について書こう(原因・結果)
- 第12回アルバイトについて書こう(意見)
- 第13回健康について書こう(問題解決)
- 第14回エッセイ・ライティングの基本
- 第15回エッセイを書いてみよう

評価方法

レポート、テスト、プレゼンテーション、授業参加意欲、課題等の総合評価

使用教材

パラグラフ・ライティング基礎演習成美堂

授業外学習の内容

授業内容の予習・復習を行い、指定した課題に取り組むこと。

備考

英作文というと難しく聞こえるかもしれませんが、このクラスでは英文を書く基礎的な準備段階から徐々に進めていきます。英文が書きやすくなる方法も学んでいきます。質問があれば気軽に声をかけてください。

在宅保育論（保育・教育の方法技術）

担当者

富田 純喜

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年後期 選択 2単位

講義目標

本講義では、保護者の自宅において保育に当たるという在宅保育について、その概論や現状を学び、保育所保育との違いやベビーシッターの役割、基本姿勢や保育技術について実践的に学ぶ。

到達目標

- ・乳児の発達をふまえ、発達に即した生活や遊びについて考えることができる。
- ・低年齢児における仲間との関わりをつなぐ援助について理解を深めることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 児童福祉における在宅保育
- 第2回 ベビーシッター概論① ベビーシッターサービスの背景と現状
- 第3回 ベビーシッター概論② ベビーシッターと施設型保育の相違点
- 第4回 ベビーシッター概論③ 在宅保育の有効性と課題
- 第5回 在宅保育における保育マインド
- 第6回 在宅での子育て支援
- 第7回 ベビーシッターの基本姿勢
- 第8回 家族とのコミュニケーション
- 第9回 子どもの健康管理
- 第10回 在宅での事故の予防と対応
- 第11回 在宅における保育技術
- 第12回 ベビーシッターの仕事の実際
- 第13回 さまざまなベビーシッターサービス① 産後ケア病後児保育
- 第14回 さまざまなベビーシッターサービス② 送迎、同行保育、多胎児保育、学童保育など
- 第15回 総括

評価方法

学習態度、提出物、試験などにより総合的に評価する。

使用教材

全国ベビーシッター協会指定テキストを使用する。

授業外学習の内容

指定した教科書を事前に読んでおくこと。必ず復習し、理解を深めること。

備考

家庭支援論（保育・教育の方法技術）

担当者

千葉 千恵美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 2単位

講義目標

子育て家庭を取り巻く社会的状況の変化や子育て家庭の支援体制、多様なニーズに応じた支援の展開と関連機関の連携について理解し学ぶ

到達目標

家庭の意義と機能、役割、子育て家庭への支援について理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 利エンテーション
- 第2回 家庭の意義と機能
- 第3回 家庭支援の必要性について
- 第4回 保育士等が行う家庭支援の原理
- 第5回 現代家庭における人間関係
- 第6回 地域社会の変容と家族支援
- 第7回 男女共同参画社会とワークバランス
- 第8回 子育て家庭の福祉を図る為の社会資源
- 第9回 子育て支援施策・次世代育成支援の施策の推進
- 第10回 子育て支援サービスとその課題
- 第11回 保育所入所児童の家庭支援
- 第12回 地域の子育て家庭への支援
- 第13回 要保護児童緒およびその家庭に対する支援
- 第14回 子育て支援における関係機関と連携
- 第15回 まとめ

評価方法

授業前の予習、授業の積極的参加、授業後の感想、試験を表号的に評価する。

使用教材

山本伸晴・白幡久美子編集「保育士をめざす人の家庭支援」(株)みらい 2010 参考書籍、千葉千恵美著「乳幼児のための保育と親支援」久美株式会社 2006

授業外学習の内容

「指定した教科書の授業内容を事前に読んでおく」「毎回授業の最初に前回授業内容に係るふり返しを確認するので復習しておくこと」「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

事前の予習および積極的な授業参加、授業後の感想の記述を行い家庭支援の具体的な関わりについて学んでほしい。授業で学んだ内容については復習し理解を深めること

親子遊び論（保育・教育の方法技術）

担当者

今井 麻美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

親子関係を①生涯発達の視点、②比較文化的な視点、③歴史的な視点、④社会学的な視点から捉えうることを学び、その上で、両者の間に展開される様々な遊びの方法・指導とその在り様について考察を深める。さらに、現代の親子関係の在り様や問題、集団保育との関係とその課題についても考察する。

到達目標

異なるものの見方から親子関係を捉えることができる。現代の親子関係のあり方や遊び、また、集団保育との関係における課題について自分なりに考えることができる。

講義内容と講義計画

授業計画

- 第1回 オリエンテーション: 授業の概要と進め方
- 第2回 伝統的な発達心理学の理論と親子関係
- 第3回 親子関係に対する自分自身の「ものの見方」を相対化する
- 第4回 親子関係を生涯発達の視点から捉え、指導法のあり方を考える
- 第5回 親子関係を比較文化的な視点から捉え、指導法のあり方を考える
- 第6回 親子関係を歴史的な視点から捉え、指導法のあり方を考える
- 第7回 親子関係を社会学的な視点から捉え、指導法のあり方を考える
- 第8回 親子関係に関する言説と問い直し
- 第9回 父子関係論から捉える母子関係
- 第10回 親に「なる」こと、親の「育ち」
- 第11回 現代の親子関係における問題と課題
- 第12回 親子の遊び(指導案の作成)
- 第13回 親子の遊び(模擬保育)
- 第14回 親子関係に対する自分自身の「ものの見方」の変化: 授業を通じた変化を振り返る
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、課題への取り組み、学期末テストにより総合的に評価する。

使用教材

適宜プリントを配布する

授業外学習の内容

・ 随時配布する文献、資料等を授業の予習として読んでくること。予習範囲については、授業内で指定する。

備考

・ 授業時間外を活用し、授業で求められる発表の準備をしっかりとした上で、授業へ臨むことを求める。

教育課程論（保育・教育の方法技術）

担当者

宮崎 州弘

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

本講義では、教職に就く者にとって欠かせない学習指導要領に基づいて義務教育学校等における教育課程編成の意義、具体的方法、それにかかわる評価法やカリキュラム・マネジメントの実際について、その基本的事項が理解できることを目指す。

到達目標

教育課程とその編成に関わる基本概念を理解し、具体的な教材を介してスコープとシーケンスを自分なりにイメージできる。またカリキュラムマネジメントの意義にてらし、その実践方法を会得することによって、適切な教育課程を編成できる力を付ける。

講義内容と講義計画

- 第1回学校教育の役割、教育課程の意義
- 第2回学習指導要領と教育課程、教科書の役割
- 第3回小学校の教育課程(小学校学習指導要領を読む)
- 第4回中学校の教育課程(中学校学習指導要領を読む)
- 第5回教育基本法、小・中学校学習指導要領、教育課程の関係
- 第6回教育課程編成と社会的条件
- 第7回日本の教育課程の変遷(学習指導要領を中心に)
- 第8回諸外国の教育課程の変遷(カリキュラム改革動向)
- 第9回教育課程の類型と編成原理(①構成要素)
- 第10回教育課程の類型と編成原理(②教育内容の選択と組織)
- 第11回カリキュラム評価の考え方とその方法
- 第12回学校評価制度(学校教育法第42条、第43条、第49条)の意義とカリキュラムマネジメントの考え方
- 第13回学校・家庭・地域社会の連携において地域教育力活用カリキュラムの果たす役割及び考え方
- 第14回教育課程に関するこれからの課題(グループ討論)
- 第15回本講義全体についてのまとめと質疑応答(グループ討論)

評価方法

授業態度、提出物、期末試験の結果を踏まえ総合的に評価する。

使用教材

別途指示する

授業外学習の内容

- ・毎回、次回の授業資料（プリント）を配布するので事前に読んでおくこと。
- ・毎日、前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
- ・日頃から教育や子どもに関するニュースに注目して、できるだけ新聞記事の切り抜き（コピー）を収集しファイルしておくこと。

備考

カリキュラム論（保育・教育の方法技術）

担当者

齊藤 多江子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

保育において教育目標や保育目標を実現するために、全体計画としての教育課程、保育課程、それに基づいた指導計画が必要である。幼児教育の基本的な考え方を踏まえた教育課程や保育課程の編成や指導計画の作成に関して理解を深める。

到達目標

- ・ 幼児教育の基本的な考え方を幼稚園教育要領、保育所保育指針から読み取る。
- ・ 実践例から教育課程・保育課程、指導計画の内容について理解する。
- ・ 実際に短期的な指導計画案（日案）を作成する。

講義内容と講義計画

- 第1回 幼稚園教育の基本…教育基本法・学校教育法・幼稚園教育要領
- 第2回 教育課程について
- 第3回 指導計画について（種類と特徴）
- 第4回 保育所における保育の計画について…保育所保育指針
- 第5回 保育課程と指導計画について
- 第6回 保育内容の構造①…幼児の主体性と保育者の意図性
- 第7回 保育内容の構造②…保育の過程と構造、展開
- 第8回 指導計画の実際①…計画におけるフィードバック関係
- 第9回 指導計画の実際②…未満児保育の計画
- 第10回 指導計画の実際③…3歳児保育の計画
- 第11回 指導計画の実際④…4歳児保育の計画
- 第12回 指導計画の実際⑤…5歳児保育の計画
- 第13回 子ども理解と指導計画
- 第14回 指導計画案作成について
- 第15回 指導計画案の再検討、まとめ

評価方法

試験 70%、課題 20%、平常点 10%

使用教材

別途指示する

授業外学習の内容

指定した教科書を事前に読んでおくこと。専門用語への理解を深めること。

備考

幼児教育指導論（保育・教育の方法技術）

担当者

内田 祥子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

この科目ではまず、講義形式を通じて、教師の使命や幼児教育における教師の特性について、歴史的変遷や思想に触れながら理解を深める。さらに、実践例の紹介や観察・記録・指導計画立案についての演習を通じて、幼児期にふさわしい教育方法や技術について学ぶ。最後に現代社会における幼児教育をめぐる様々な課題に触れ、教師の意義について吟味する。

到達目標

- ①幼児教育の思想や歴史的変遷を踏まえ教師の特性について学ぶ
- ②幼児期にふさわしい教育方法や技術について学ぶ
- ③現代の幼児教育をめぐる課題について学ぶ

講義内容と講義計画

- 第1回:オリエンテーション
- 第2回:教師の特性(1)幼児教育の歴史
- 第3回:〃(2)多様な幼児教育思想
- 第4回:〃(3)幼稚園教育要領の位置づけ
- 第5回:教育方法・技術(1)環境構成
- 第6回:〃(2)遊びを通じた保育
- 第7回:〃(3)観察の意義・演習
- 第8回:〃(4)視聴覚教材の活用
- 第9回:〃(5)情報機器の活用
- 第10回:〃(6)指導計画に基づいた模擬保育(準備)
- 第12回:〃(7)指導計画に基づいた模擬保育(実践)
- 第13回:〃(8)模擬保育の反省・指導計画の評価
- 第13回:現代の幼児教育をめぐる課題
- 第15回:総合的まとめ

評価方法

授業態度・提出物・学期末の試験の結果等を踏まえ総合的に評価する

使用教材

幼稚園教育要領授業内で適宜紹介する

授業外学習の内容

幼稚園教育要領を事前に読み、予習をしておくこと。

備考

初等特別活動論（保育・教育の方法技術）

担当者

森部 英生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 1単位

講義目標

学校教育にはいわゆる学習指導の他に特別活動の指導領域があり、児童の教育に重要な役割を果たしている。この授業では、小学校教育において重要な位置を占めている特別活動について、その歴史・意味とともに、学習指導要領上の変遷を概観し、その上で、種々の行事・儀式等に関わる事項幅広く考察し、実践のあり方を述べる。

到達目標

わが国の学校では戦前から「特別活動」が行われていたこと、・昭和22年版学習指導要領における特別活動の意義、・学級活動実例、生徒会活動の実例、学校行事の実例、学校給食をめぐる事件、等をテーマに取り上げ、これらを小学校焦点づけて理解し、実践力をつけるようにする。

講義内容と講義計画

授業計画

- 第1回明治・大正・昭和戦前期の小学校課外活動
- 第2回戦後初期の「自由研究」
- 第3回「特別教育活動」から「特別活動」へ
- 第4回小学校における学校行事第1回小テスト予定
- 第5回小学校におけるクラブ・部活動
- 第6回小学校における学校保健・安全指導
- 第7回小学校における給食指導
- 第8回小学校における学校事故第2回小テスト予定

評価方法

期間中行う2回の小テストに約70%、授業に対する貢献度等に約30%を配分して総合評価する。

使用教材

自作のプリント

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。また、小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

特別活動は、学校における学習活動と並んで重要な役割を担い、わが国では明治初期の学校制度開始の時期から様々な形で行われてきたものです。いわゆる部活・行事・運動会・遠足・修学旅行等々がそれです。この授業ではそうした活動について、その歴史と実践を学びます。どうぞおいで下さい。

初等教育方法論（保育・教育の方法技術）

担当者

山崎 雄介

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 1単位

講義目標

教育方法の歴史、小学校教員の現状と教育方法、教育評価などについて理解する。学校の ICT（情報通信技術）化に対応できるように、情報機器及び教材の活用も含めた教育の方法及び技術を身につけ、ICT 活用授業を展開する実践力を養う。

到達目標

児童を取り巻く環境が変化しても、現場に適合した教育方法を自ら作り出す研究力、実践力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回小学校における教育方法の歴史と基本原理
- 第2回小学校教育・教員の現状と教育方法
- 第3回小学校における教材教具の活用
- 第4回小学校における教育方法と学習形態、施設・設備
- 第5回小学校における授業の計画と教育評価
- 第6回小学校における視聴覚メディアとコンピュータ
- 第7回小学校における学校の ICT 化と実践事例
- 第8回私が実践したい教育方法(プレゼンテーション,まとめ)

評価方法

試験、授業への取り組み、貢献度、提出された課題の内容、発表会でのプレゼンテーション能力等を総合的に評価する。

使用教材

別途指示する

授業外学習の内容

小学校時代に使っていた教科書、ノートが残っていれば見直すこと。

備考

中等特別活動論（保育・教育の方法技術）

担当者

森部 英生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 1単位

講義目標

学校教育にはいわゆる学習指導の他に特別活動の指導領域があり、生徒の教育に重要な役割を果たしている。この授業では、中学校教育において重要な位置を占めている特別活動について、その歴史・意味とともに、学習指導要領上の変遷を概観し、その上で、種々の行事・儀式等に関わる事項幅広く考察し、実践のあり方を述べる。

到達目標

わが国の学校では戦前から「特別活動」が行われていたこと、・昭和22年版学習指導要領における特別活動の意義、・学級活動実例、生徒会活動の実例、学校行事の実例、学校給食をめぐる事件、等をテーマに取り上げ、これらを中学校焦点づけて理解し、実践力をつけるようにする。

講義内容と講義計画

授業計画

- 第1回 明治・大正・昭和戦前期の課外活動
- 第2回 戦後初期の「自由研究」
- 第3回 「特別教育活動」から「特別活動」へ
- 第4回 中学校における学校行事第1回 小テスト予定
- 第5回 中学校におけるクラブ・部活動
- 第6回 中学校における学校保健・安全指導
- 第7回 中学校における給食指導
- 第8回 中学校における学校事故第2回 小テスト予定

評価方法

期間中行う2回の小テストに約70%、授業に対する貢献度等に約30%を配分して総合評価する。

使用教材

自作のプリント

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。また、小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

特別活動は、学校における学習活動と並んで重要な意味を持つ活動で、明治初期に学校制度が確立して以来、わが国では種々の形で行われてきたものです。運動会・修学旅行・行事・部活・学級活動等々がそれです。この授業では、そうした活動に関し、その歴史や実践を学んでいきます。、どうぞおいで下さい。

中等教育方法論（保育・教育の方法技術）

担当者

山崎 雄介

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 1単位

講義目標

中等教育における教育方法の歴史、中学校教員の現状と教育方法、教育評価などについて理解する。学校の ICT（情報通信技術）化に対応できるように、情報機器及び教材の活用も含めた教育の方法及び技術を身につけ、ICT 活用授業を展開する実践力を養う。

到達目標

生徒を取り巻く環境が変化しても、現場に適合した教育方法を自ら作り出す研究力、実践力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回中学校における教育方法の歴史と基本原理
- 第 2 回中学校教育・教員の現状と教育方法
- 第 3 回中学校における教材教具の活用
- 第 4 回中学校における教育方法と学習形態、施設・設備
- 第 5 回中学校における授業の計画と教育評価
- 第 6 回中学校における視聴覚メディアとコンピュータ
- 第 7 回中学校における学校の ICT 化
- 第 8 回中学校における ICT 活用授業検討会(まとめ)

評価方法

試験、授業への取り組み、貢献度、提出された課題の内容、発表会でのプレゼンテーション能力等を総合的に評価する。

使用教材

別途指示する

授業外学習の内容

中学校時代に使っていた教科書、ノートが残っていれば見直すこと。

備考

国語科指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

田貝 和子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

毎回具体的な事例、具体的な教材を提示し、子どもたちの学習活動が具体的にイメージできる授業展開をめざす。授業参加者からの質問・意見を積極的に求め、話し合い活動を重視して進めていきたい。

到達目標

子どもたちが身につけるべき国語の表現力・理解力および国語に関する知識を明らかにし、それぞれの基本的な指導法を、具体的な教材に即して習得する。その際、子どもたちが言語使用に興味を抱き、楽しんで学習していくような授業展開法を探る。

講義内容と講義計画

- 第1回子どもと言語:子どもにとって言語とは何か。
- 第2回国語科は何を指導するのか:価値・技能・言語活動例。学習指導要領の構造①
- 第3回国語科で扱う言語とは何か:音声・文字・非言語コミュニケーション
- 第4回国語科の指導のねらいは何か:関心・意欲と技能・能力。学習指導要領の構造②
- 第5回聞くことの指導:「聞く」「聴く」「訊く」、それぞれの「きく」活動の指導
- 第6回読むことの指導①:物語教材の指導はどうしたらよいか。
- 第7回読むことの指導②:説明的文章の指導はどうしたらよいか。PISA 型読解
- 第8回読むことの指導③:詩歌の指導はどうしたらよいか。
- 第9回音声化をとおして表現を吟味する。①:音読・朗読・群読の教育的効果
- 第10回音声化をとおして表現を吟味する。②:読み深めるための話し合い
- 第11回書くことの指導①:文学的文章の作文指導はどうしたらよいか。
- 第12回書くことの指導②:説明的文章の作文指導はどうしたらよいか。NIE 学習
- 第13回言語事項とは何か。どのように指導するか。
- 第14回学習指導案はどのようにして立てるか:教材に即して実際に立案し、記述する。
- 第15回まとめ

評価方法

毎回提出の200字随想分、授業内の効果的発言、作成した学習指導案、および、期末テストをそれぞれ点数化し、その合計点で評価を決める。

使用教材

小学校学習指導要領

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

社会科指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

影山 清四郎

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

授業づくりの一般的な考え方と手順を社会科のテーマをモデルに理解する。社会科指導については児童の自発的学習をサポートする観点からの実践的な授業準備と授業展開の手法を習得する。

到達目標

児童に見学、調査、観察等の活動を体験させる学習計画書を作成し、様々な資料の収集、活用、整理等を通して発達段階に応じた児童の発見力と発問力を引き出す技能を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回授業づくりの基礎理論
- 第2回教育目標と教育内容の設定
- 第3回教材選定と学習形態
- 第4回授業展開総論(1)-指導計画における学習活動と学習目標
- 第5回授業展開総論(2)-学習評価と学習記録
- 第6回授業展開総論(3)-教師の支援態様
- 第7回学級づくり、グループ学習、チーム学習の過程
- 第8回社会科指導の方法論(1)-参加型学習の方法(ワークショップ、ロールプレイ等)
- 第9回社会科指導の方法論(2)-テーマ選択(時事問題から基礎事項への連結)
- 第10回社会科指導の方法論(3)-資料づくり(地図、年表、新聞等)
- 第11回社会科指導の方法論(4)-社会科見学の計画(工場、裁判所等)
- 第12回社会科指導の方法論(5)-調査方法(地域の生活等)
- 第13回社会科指導の方法論(6)-統計資料の使い方と読み取り方
- 第14回社会科指導の方法論(7)-課題発見の視点と手順
- 第15回まとめと確認

評価方法

学習参加の積極性(30%)、レポート(20%)、定期試験(50%)

使用教材

小学校学習指導要領、教員作成のプリント教材

授業外学習の内容

- ① テキストの指定された箇所を読んでおくこと
- ② 配布された資料を事前に読み、自己の考えをまとめておくこと

備考

算数科指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

村崎 武明

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

四領域の内容と指導上のポイントを学ぶ。また指導の実践力を高めるために、指導案の作成とそれに基づく模擬授業の演習も行う。

到達目標

小学校算数の四領域について、その内容と数学的背景への理解を深める。

講義内容と講義計画

- 第1回はじめに
- 第2回「数と計算」のポイント(1～3学年)
- 第3回「数と計算」のポイント(4～6学年)
- 第4回「量と測定」のポイント(1～3学年)
- 第5回「量と測定」のポイント(4～6学年)
- 第6回「図形」のポイント(1～3学年)
- 第7回「図形」のポイント(4～6学年)
- 第8回「数量関係」のポイント(1～3学年)
- 第9回「数量関係」のポイント(4～6学年)
- 第10回指導計画案の作成(1～3学年)
- 第11回指導計画案の作成(4～6学年)
- 第12回模擬授業の展開例
- 第13回模擬授業と課題検討
- 第14回授業実践の反省
- 第15回まとめ

評価方法

小テスト、レポート、期末試験の結果、さらに授業での貢献度を総合的に判断する。

使用教材

講義の中で適宜指示する。

授業外学習の内容

毎回授業の最初に、前回授業に係る質問を受ける時間を設けるので、復習して質問内容を整理しておくこと。

備考

理科指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

岡崎 彰

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

小学校理科の授業における指導法、特に実験の指導法を指導する。また、現職教員による実践紹介していただく。そして、指導法及び教材教具の開発ができる能力のために指導法案及び実験案を学生に発表してもらう。

到達目標

小学校理科の授業における指導法や実験の指導法を学習し、自ら授業の問題点を改善し、指導法及び教材教具の開発ができる能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回理科の指導方法(1)教室での指導
- 第2回理科の指導方法(2)野外での指導
- 第3回理科の指導方法(3)実験室での指導
- 第4回実験の指導(1)第3学年A物質・エネルギーの内容
- 第5回実験の指導(2)第3学年B生命・地球
- 第6回実験の指導(3)第4学年A物質・エネルギーの内容
- 第7回実験の指導(4)第4学年B生命・地球
- 第8回現職教員による実践紹介(1)第3,4学年の指導
- 第9回実験の指導(5)第5学年A物質・エネルギーの内容
- 第10回実験の指導(6)第5学年B生命・地球
- 第11回実験の指導(7)第6学年A物質・エネルギーの内容
- 第12回実験の指導(8)第6学年B生命・地球
- 第13回現職教員による実践紹介(2)第5,6学年の指導
- 第14回A物質・エネルギーの指導法及び実験案発表会(学生による工夫発表会)
- 第15回B生命・地球の指導法及び実験案発表会(学生による工夫発表会)

評価方法

授業への取り組み、貢献度、提出された課題の内容、発表会における発表内容等を総合的に評価する。

使用教材

自作プリント等

授業外学習の内容

授業の最初に前回の授業内容に係る小テストを随時実施するので、復習しておくこと。

備考

生活科指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

影山 清四郎

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

「生活」科の理念に基づき指導できる実践的力量的基礎を身に付けることを目的とする。まず、学習指導要領「生活」に基づき、実際にどのような授業が展開されているのかを教科書や実践事例を分析・検討し、「生活科」の独自性を理解する。また、指導計画・単元計画を作成、その一部を模擬的に授業化することによって、生活科の実践的力量的基礎を身に付ける。

到達目標

・教科書や実践事例を分析・検討し、「生活科」の独自性や他の教科との違いを説明できるようになる。・低学年の児童の発達の特性と学習指導の課題を実践に即して理解し、自ら単元展開案を作成できるようになる。・模擬授業で作成した指導案の長所と課題を把握できるようになる。

講義内容と講義計画

- 第1回私の生活科体験と小学校教育体験。
- 第2回社会科・理科が変わってなぜ生活科が設けられたのか。
- 第3回新設された「生活科」はどのような性格づけとねらいを設定したのか。
- 第4回生活科の9つの教育内容と指導計画作成に当たっての配慮事項を調べる。
- 第5回年間指導計画や単元計画とは何か。
- 第6回学習指導の進め方はどうあるべきか。
- 第7回子どもの興味や意欲を育てる教師の関わりはどうあるべきか。
- 第8回年間指導計画のスケッチと単元指導計画案を作成①(年間指導計画との関連)
- 第9回単元指導計画案を作成②(目標について)
- 第10回単元指導計画案の発表
- 第11回本時の指導案の作成(指導案とは何かを含む)
- 第12回模擬授業①(生活科の目標を中心に)
- 第13回模擬授業②(生活科の単元を中心に)
- 第14回模擬授業③(生活科の授業方法を中心に)
- 第15回生活科学習の評価(ポートフォリオについて)

評価方法

単元指導計画と模擬授業等：(50%)、ミニテスト：20%、レポート：20%、平常点：10%

使用教材

文部科学省「学習指導要領解説生活編」日本文教出版

授業外学習の内容

- ① テキストの指定された箇所を事前に読み、疑問を整理しておくこと
- ② 配布された資料を事前に読み、授業後感想をまとめて提出すること

備考

家庭科指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

渡邊 彩子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

小学校家庭科を指導するのに必要な基礎的な知識・技術を、講義や実習を通して学んだ上で、指導案を作成する。

到達目標

小学校家庭科の授業設計と教材開発に必要な知識と技術を身につけること。そのために、小学校家庭科の目標と内容を知り、授業のために必要な知識や技術を獲得し、教材開発を行ってみる。学習指導案を作成し、自己評価・他者評価を通して、小学校家庭科の授業ができるようになること。

講義内容と講義計画

- 第1回 小学校教育における家庭科教育とは
- 第2回 小学校家庭科の目標と内容(学習指導要領)
- 第3回 小学校家庭科の授業方法
- 第4回 小学校家庭科の学習指導案の検討
- 第5回 調理実習の指導計画の作成
- 第6回 小物づくりの指導計画の作成
- 第7回 教具作成と実習計画の作成
- 第8回 調理実習(レポート作成・授業外学習)
- 第9回 小物(ポケットティッシュペーパーカバー)づくり
- 第10回 実習の事後指導と指導計画の評価
- 第11回 さまざま指導方法の実践
- 第12回 小学校家庭科の授業設計と指導案の作成
- 第13回 小学校指導案の相互評価と意見交換
- 第14回 教材開発における留意点
- 第15回 小学校家庭科と子どもたちの生活課題の関連性の検討

評価方法

指導案の提出による評価、および試験の結果から総合的に評価する。

使用教材

文部省『小学校学習指導要領解説 家庭編』

授業外学習の内容

- ・学習指導案のグループでの作成を課題とする。
- ・指導案に盛り込む現代生活の問題点について広く情報に目を向け、収集しておく。

備考

音楽科指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

吉田 恵子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

①幼稚園・小学校における音楽教育の目的と概要②実技指導の実際③幼稚園・小学校の音楽教育の歴史と音楽教育を取り巻く現状から、音楽指導の理論と実践を学ぶ。

到達目標

幼稚園・小学校における音楽指導の意義・目的を理解し、幼児・児童の音楽表現力を引き出す指導者としての知識・技術の習得、並びに授業づくりの基礎能力を養うことを目的とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 幼稚園及び小学校における音楽の位置づけと内容
- 第3回 子どもの発達と音楽表現
- 第4回 生活や遊びにおける音楽
- 第5回 歌を中心とした表現活動の指導
- 第6回 楽器を中心とした表現活動の指導：叩いて音を出す楽器
- 第7回 楽器を中心とした表現活動の指導：吹いて音を出す楽器 レポート課題提示
- 第8回 聴く活動の指導
- 第9回 聴く活動の評価
- 第10回 音楽作りの指導 レポート提出
- 第11回 各活動・各教科との関連
- 第12回 幼稚園・小学校音楽教育史概説
- 第13回 郷土芸能・日本の伝統音楽の指導
- 第14回 音楽の指導において教師に求められるもの
- 第15回 教材の実技発表

評価方法

開講時に指示する

使用教材

『小学生のおんがく1』、『小学生のおんがく2』、『小学生の音楽3』教育芸術社、文部科学省「小学校学習指導要領解説音楽編」、教育芸術社初等科音楽教育研究会編「最新初等科音楽教育法」音楽之友社

授業外学習の内容

- 「毎時、模擬授業を課す」
- 「小学校歌唱共通教材の弾き歌い、伴奏ができるようにしておくこと」

備考

受講にあたり、ピアノの基礎的な技術が求められる。リコーダー、鍵盤ハーモニカを用意する。

図画工作科指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

富澤 秀文

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

小学校の図画工作における、絵や工作などの表現活動を展開するための実践的な指導力の形成を目ざす。このために学習指導要領と現行の図画工作科教科書を照合させて、教科の実態を鮮明にする。また低・中・高学年の3学年にわたる年間指導計画の作成と、前年度の「図画工作」の授業で課題とした政策例を素材にした学習指導案の試作を通して、この教科の構造と特性の理解を確かなものにする。

到達目標

小学校図画工作科の内容と教科の特色を理解することにより、指導計画や学習指導案の作成ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回図画工作科の特質
- 第2回学習指導要領の「総則」と「図画工作科」
- 第3回図画工作科の内容と構成-第1学年及び第2学年
- 第4回図画工作科の内容と構成-第3学年及び第4学年
- 第5回図画工作科の内容と構成-第5学年及び第6学年
- 第6回図画工作用教科書の検証
- 第7回学習指導案の形式と内容
- 第8回学習指導案の作成-「題材設定の考え方」
- 第9回学習指導案の作成-「考察」の考え方
- 第10回学習指導案の作成-「展開」の考え方
- 第11回発表と討論
- 第12回年間指導計画の形式と内容
- 第13回年間指導計画の作成-第1～第3学年
- 第14回年間指導計画の作成-第4～第6学年
- 第15回まとめ

評価方法

課題のレポート 80%、授業時の姿勢 20%の比率で判定

使用教材

小学校学習指導要領解説「図画工作科編」 文部科学省 日本文教出版 85円

授業外学習の内容

次回の授業に向けての範囲は各回に指定するので予習をしておくこと。
レポート作成の遅れは授業外に自主的に取り組んで調整すること。

備考

TEL・FAX 027-288-5880

TEL・メール 08013868517

体育科指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

山西 加織

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

小学校学習指導要領における体育科の目標と内容を踏まえ、生涯にわたって運動に親しみ、心と体の健康を維持する態度を育むための指導法について学習する。各学年における運動領域や保健領域の授業づくりに関して、基本的な進め方を理解するとともに、指導計画の作成および教材づくり、評価など、授業を運営する能力を養う。

到達目標

小学校学習指導要領「体育科」の目標および内容について理解することができる。各領域の内容と実践方法を習得する。小学校体育科の学習指導案を作成することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 小学校学習指導要領体育編
- 第3回 体育科の目標および内容
- 第4回 低学年の目標および内容とその指導の実際
- 第5回 中学年の目標および内容とその指導の実際
- 第6回 高学年の目標および内容とその指導の実際
- 第7回 保健領域の指導
- 第8回 児童(低学年～中学年)の発育発達と教材づくり
- 第9回 児童(中学年～高学年)の発育発達と教材づくり
- 第10回 学習指導案の作成(低学年～中学年)
- 第11回 学習指導案の作成(中学年～高学年)
- 第12回 模擬授業(1) 低学年
- 第13回 模擬授業(2) 中学年
- 第14回 模擬授業(3) 高学年
- 第15回 まとめ

評価方法

出席状況、授業に対する意欲・態度、レポート、期末試験を総合評価する。

使用教材

「小学校学習指導要領解説体育編」文部科学省。必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

小学校学習指導要領体育科を事前に読んでおくこと。また、授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。

備考

英語科指導法 I (保育・教育の方法技術)

担当者

中村 博生、渡部 孝子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択2単位

講義目標

第2言語習得論に関して、学習を促進する方法や、そのメカニズムに関する知識を利用して、どのような教材を使用すれば、またどのような教授法であれば、学習者が効率よく英語を習得できるようになるかを考察し、実践する。この授業では、講義だけでなく実際に受講生による発表や討論もおこなう。

到達目標

実際の教育現場における教授方法についての理論的・実践的知識や指導上の問題に対処できる考え方の基礎を身につけることを大きな目的とする。

講義内容と講義計画

- 第1回英語教員に求められることは(小深田)
- 第2回音声の習得とは(小深田)
- 第3回発音の指導方法(小深田)
- 第4回リスニングの指導(1)習得に関して(小深田)
- 第5回リスニングの指導(2)指導方法(小深田)
- 第6回リスニングの指導(3)テストの作成と評価方法(小深田)
- 第7回スピーキングの指導(1)習得に関して(小深田)
- 第8回スピーキングの指導(2)指導方法(小深田)
- 第9回スピーキングの指導(3)テストの作成と評価方法(小深田)
- 第10回中間試験(試験内容の解説も含む)(渡部)
- 第11回リーディングの指導(1)習得に関して(渡部)
- 第12回リーディングの指導(2)指導方法(渡部)
- 第13回リーディングの指導(3)テストの作成と評価方法(渡部)
- 第14回実践編(渡部)
- 第15回まとめ(小深田)

評価方法

小テスト、中間試験、期末試験の結果および、授業内の貢献度を総合的に考慮する。

使用教材

講義内で適宜指示する。

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

辞書は必携。授業内容の予習・復習を行うこと。

英語科指導法Ⅱ（保育・教育の方法技術）

担当者

中村 博生、渡部 孝子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

英語科指導法Ⅰをふまえ、英語科教員になるために必要な知識と英語教授法を身につけることを主なねらいとする。中学校でどのような英語を教えていくのかを、学習指導要領をふまえながら具体的に指導する。また、日本の英語教育の現状を把握するとともに、中学校英語の指導案の書き方を具体的に学び、中学校の実践的な授業運営の方法や技術を身につける。

到達目標

英語科指導法Ⅰをふまえ、授業実践に関わる具体的な技術・指導案の書き方などを学ぶ。また、模擬授業を行い、授業運営の技術や方法について実践的に学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回 日本の英語教育(松田)
- 第2回 英語教育現場の諸問題(松田)
- 第3回 国際理解と早期英語教育(松田)
- 第4回 中学校における英語教育(松田)
- 第5回 学習指導要領について(松田)
- 第6回 マルチメディア機器の使用、CALL 教室運営(松田)
- 第7回 タスクについての指導(松田)
- 第8回 教科書と教材研究について(松田)
- 第9回 学習指導案と授業運営(松田)
- 第10回 学習指導案の作成(1)教材研究の点から(渡部)
- 第11回 学習指導案の作成(2)授業運営の点から(渡部)
- 第12回 学習指導案についてのディスカッション(渡部)
- 第13回 模擬授業(1)各グループの発表(渡部)
- 第14回 模擬授業(2)全体討論(渡部)
- 第15回 まとめ(松田)

評価方法

学習指導案、模擬授業への貢献および、学期末の試験を総合的に考慮する。

使用教材

『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと

備考

児童英語指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

日下 洋右

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

児童の英語教育に際し、児童の年齢・能力に応じた教材、方法、評価などを学ぶ。授業では講義だけでなく受講生による発表・討論や実技もおこなう。

到達目標

児童への英語教育についてその教材と指導法を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回ガイダンス
- 第2回児童英語指導法の捉え方
- 第3回これまでの英語指導と児童英語の指導の比較
- 第4回児童のコミュニケーション能力について
- 第5回英語コミュニケーションについて
- 第6回低学年、中学年、高学年の児童の特性について
- 第7回教材研究(低学年)
- 第8回教材研究(中学年)
- 第9回教材研究(高学年)
- 第10回教材の選択と考察(低学年)
- 第11回教材の選択と考察(中学年)
- 第12回教材の選択と考察(高学年)
- 第13回指導案の作成と模擬授業
- 第14回指導案及び模擬授業の検討
- 第15回まとめ

評価方法

指導案作成、課題、テスト、授業貢献度などの総合評価。

使用教材

講義内で適宜指示する。

授業外学習の内容

ハンドアウトを配布するので、事前に繰り返し読み、よく理解したうえで授業に臨むこと。授業では学生による実践場面が多いので、事前に十分練習しておくこと。

備考

担当者

嶋田 和成、渡部 孝子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

実際の教授方法とも関連して、どのような教材を用いれば、効率的に、かつ興味をもちながら学べるかを考える。とりわけ、e-Learning については、教師対学習者また学習者間などのコミュニケーションが可能なこと、自主的な学習が個人の能力に応じて可能なこと、教師が学習者の進捗状況を管理しやすいことなどから、さらに効果的な使用方法をも考えていく。授業では講義だけでなく受講生による発表や討論もおこなう。

到達目標

どのような教材を使用すれば教育の成果が最大限出なのか、その視点を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回音声学/音韻論発音指導について(1)基本編(嶋田)
- 第2回音声学/音韻論発音指導について(2)応用編(嶋田)
- 第3回意味論とリーディング指導(1)基本編(嶋田)
- 第4回意味論とリーディング指導(2)応用編(嶋田)
- 第5回意味論とリーディング指導(3)実践編(嶋田)
- 第6回語用論とリーディング指導(1)基本編(嶋田)
- 第7回語用論とリーディング指導(2)応用編(嶋田)
- 第8回語用論とリーディング指導(3)実践編(嶋田)
- 第9回中間試験(試験内容の解説も含む)(渡部)
- 第10回 e-Learning(1)その利点(渡部)
- 第11回 e-Learning(2)授業形態(渡部)
- 第12回 e-Learning(3)学習者の動機付け(渡部)
- 第13回 e-Learning(4)問題点および改善の可能性(渡部)
- 第14回実践編(渡部)
- 第15回まとめ(嶋田)

評価方法

小テスト、中間試験、期末試験の結果および、授業内の貢献度を総合的に考慮する。

使用教材

講義内で適宜指示する。

授業外学習の内容

授業内容の予習・復習を行い、教材についての理解を深めること。

備考

辞書は必携。

英語科教材研究Ⅱ（保育・教育の方法技術）

担当者

嶋田 和成、渡部 孝子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

文部科学省の検定教科書を軸に、それぞれの内容、使い方等について、理解を深め、教科書のもとになるシラバス、題材、言語材料、言語活動、などについても研究する。

到達目標

教科書の内容や仕組みを観察し、様々な観点から分析したり利点、欠点を述べたりすることができる。また新たな教材を作ることが出来るようにする。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス(嶋田)
- 第2回 これまでの学習指導要領の観察
- 第3回 シラバスの観察①小学校のシラバスの観察
- 第4回 シラバスの観察②中学校のシラバスの観察
- 第5回 英語教材にふさわしい内容について
- 第6回 英語教材に使用される言語
- 第7回 小学校の英語教科書の内容
- 第8回 中学校の英語教科書の内容
- 第9回 中間試験と試験内容の解説
- 第10回 シラバスの作成①小学校のシラバスの作成(渡部)
- 第11回 シラバスの作成②中学校のシラバスの作成(渡部)
- 第12回 小学校の英語教材の考案(渡部)
- 第13回 中学校の英語教材の考案(渡部)
- 第14回 まとめ(渡部)
- 第15回 プレゼンテーション(嶋田)

評価方法

授業への参加意欲、発表、テスト、制作教材を総合して評価する。

使用教材

未定

授業外学習の内容

授業内容の予習・復習を行い、教材についての理解を深めること。

備考

英語教育に関するさまざまな教材を観察していきます。活発に意見交換や発言をしましょう。わからないことがあれば早めに気軽に質問してください。

初等道徳教育論（保育・教育の方法技術）

担当者

大石 桂子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

道徳教育において目的となる人間形成は、学校教育活動全体の目標であると同時に、家庭、社会全体との強い関連性をもった根幹的課題である。価値の多様性が進行する現代、道徳教育の目標と課題は何か。本講義では道徳教育の歴史、道徳性に関する基礎的知識を習得するほか、児童・生徒の発達段階に応じた教育課題と教育法の習得、指導案作成と模擬授業といった演習を通して、道徳教育に必要な素養と指導力を養う。

到達目標

初等道徳教育に求められる理論的・実践的知識を獲得する。また、学校教育全体における道徳教育の位置づけを理解し、生徒の発達に応じた授業づくりと実践のための基礎力を培う。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス:道徳教育の目標
- 第2回 道徳教育の変遷①教育勅語と修身科
- 第3回 道徳教育の変遷②教育基本法、「こころのノート」等
- 第4回 学習指導要領と道徳教育の位置づけ
- 第5回 道徳性の発達論的理解:ピアジェ、コールバーグ等
- 第6回 道徳性の社会学的理解:デュルケム、ロールズ等
- 第7回 初等道徳教育の特性と道徳的課題①公德心と社会的態度
- 第8回 初等道徳教育の特性と道徳的課題②生命の尊重と人権
- 第9回 初等道徳教育の特性と道徳的課題③自律性の獲得
- 第10回 道徳教育と家庭、地域社会の関わり
- 第11回 道徳教育の実践①指導方法と実践事例の分析
- 第12回 道徳教育の実践②教材研究
- 第13回 道徳教育の実践③指導案の作成
- 第14回 道徳教育の実践④模擬授業
- 第15回 総括

評価方法

期末試験（60%）、指導案の作成および模擬授業（40%）を総合して評価する。

使用教材

文部科学省『小学校学習指導要領解説道徳編』東洋館出版社

授業外学習の内容

テキストの指定ページを熟読し、予習すること。

備考

本講義は、道徳教育の基礎理念を理解するだけでなく、実際の教育の場に相応しい授業づくりと実践を目的としたものである。参加者は、常に教育への高い目標意識と熱意をもって、各課題に取り組んでほしい。

中等道徳教育論（保育・教育の方法技術）

担当者

大石 桂子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 2単位

講義目標

道徳教育で求める人間像は、自他共によりよく生きようとする生き方を主体的に考え、実践していくことができる人間の育成である。教育基本法、学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念等を学校、家庭、地域社会の中で子どもたちに培い、個性豊かな文化の創造と民主的な社会と国家の発展に努め、進んで平和的な国際社会に貢献できる主体性のある日本人を育成することが大切である。そのために必要とする指導者としての資質と指導力の素地を理論と実践を通して身につけさせたい。

到達目標

道徳教育に求められる基礎的知識を獲得し、道徳教育の実践において必要となる資質と指導力を身につけること。

講義内容と講義計画

- 第1回道徳教育の目標：現在の社会状況と道徳教育の重要性
- 第2回日本における道徳教育の変遷
- 第3回学習指導要領と学校における道徳教育の位置づけ
- 第4回道徳性の発達論的理解：ピアジェ、コルバーグ等
- 第5回道徳性の社会学的理解：デュルケム、ロールズ等
- 第6回中等道徳教育の特性と道徳的課題：社会的連帯、国際的視野の獲得、自律性等
- 第7回道徳教育の指導方法
- 第8回授業のねらいと実態の取り方、副読本、自作資料、テレビ資料等の活用法
- 第9回指導案の書き方
- 第10回授業の構想づくりと指導案の作成
- 第11回指導案の発表と意見交換
- 第12回模擬授業と授業後の検討会
- 第13回全体計画と年間指導計画
- 第14回学校、家庭、地域社会の連携による道徳教育
- 第15回道徳的実践の指導

評価方法

期末試験（60%）、指導案作成および模擬授業（40%）を総合して評価する。

使用教材

文部科学省「中学校学習指導要領解説道徳編」

授業外学習の内容

テキストの指定ページを熟読し、予習すること。

備考

本講義は、道徳教育の基礎理念を理解するだけでなく、実際の教育の場に相応しい授業づくりと実践を目的としたものである。参加者は、常に教育への高い目標意識と熱意をもって、各課題に取り組んでほしい。

相談援助（保育・教育の方法技術）

担当者

千葉 千恵美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 1単位

講義目標

具体的な相談援助について方法・技術を理解し、支援展開を実践的に行うことができる

到達目標

保育におけるソーシャルワークの応用と事例検討・分析を通じて、対象者への理解を深める

講義内容と講義計画

- 第1回 利エンテーション
- 第2回 相談の理論・意義
- 第3回 相談機能とソーシャルワーク
- 第4回 保育とソーシャルワーク
- 第5回 相談援助の対象
- 第6回 相談援助の過程
- 第7回 相談援助の技術・アプローチ
- 第8回 相談援助の計画・記録・評価
- 第9回 相談援助の関係機関との協働
- 第10回 多様な専門職との連携
- 第11回 社会資源の活用・調整・開発
- 第12回 事例検討・分析①虐待予防と対応
- 第13回 事例検討・分析②障害のある子どもとその保護者への支援
- 第14回 事例検討・分析③ロールプレイとフィードバック
- 第15回 まとめ

評価方法

授業前の予習と、授業後の感想、積極的な授業への参加、試験を総合的に判断する

使用教材

杉本敏夫・豊田志保編著「相談援助」2011 保育出版社

授業外学習の内容

「指定した教科書の授業内容を事前に読んでおく」「毎回授業の最初に前回授業内容に係るふり返しを確認するので復習しておくこと」「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

積極的な授業参加、事前の予習、ロールプレイで実践的に学び、授業後の感想をまとめ、自分の実践力にしてほしい。授業後の復習で更に学習の理解を深めること。

保育相談Ⅰ（保育・教育の方法技術）

担当者

千葉 千恵美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 1単位

講義目標

保育相談、支援の意義と原則および保育者支援の基本を理解出来るようにする。

到達目標

保育相談支援の実際を学び、保育所など児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 保護者に対する保育相談支援の意義
- 第3回 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
- 第4回 子どもの最善の利益と福祉の重視
- 第5回 子どもの成長の喜びの共有
- 第6回 保護者の教育力の向上に関する支援
- 第7回 信頼関係を基本とした受容的な関わり、自己決定、守秘義務
- 第8回 地域支援の活用と関係機関の連携・協力
- 第9回 保育に関する保護者に対する指導
- 第10回 保護者の支援内容・方法・技術
- 第11回 保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス
- 第12回 保育所における保育相談支援の実際
- 第13回 保育所における特別な対応を要する家庭への支援
- 第14回 児童福祉施設などにおける保育相談支援
- 第15回 まとめ

評価方法

授業の予習および授業後の感想、試験を総合的に判断する

使用教材

「杉本敏夫監修 編著 豊田志保 考え、実践する保育相談支援 保育出版社 2012」

授業外学習の内容

「指定した教科書の授業内容を事前に読んでおく」「毎回授業の最初に前回授業内容に係るふり返りを確認するので復習しておくこと」「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

積極的な授業への参加、授業後の感想をしっかりと記述し学業に取り組んでほしい。授業で学んだ内容については復習し理解を更に深めること。次回の授業に向けて予習をし、事前学習をしておくこと

保育相談Ⅱ（保育・教育の方法技術）

担当者

板津 裕己

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 1単位

講義目標

子どもたちの健やかな成長・発達のために、どのように保護者支援をおこなえばよいのかを、グループ発表やロールプレイを交えて学んでいく。

到達目標

- ・保育相談活動の意義や約束事を理解する。
- ・保育所などの児童福祉施設における保護者支援の実際（知識や方法論など）について理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回オリエンテーション - 相談の進め方について-
- 第2回保育者の役割、保育者の子ども理解
- 第3回親と子、保育者の関係、保護者の保育者への期待、ロール
- 第4回保護者への保育相談支援 1-子どもの権利擁護-
- 第5回保護者への保育相談支援 2-相談内容、問題点の把握-
- 第6回保護者への保育相談支援 3-子育て力・養育力支援-
- 第7回保護者への保育相談支援 4-保護者のこころの健康支援-
- 第8回保育所における保育相談支援
- 第9回保育所における特別な支援を要する家庭支援
- 第10回障害児施設などにおける保育相談支援事例を用いたロールプレイやグループワーク
- 第11回障害の受容
- 第12回要保護児童の家庭支援 1-乳児院での相談を想定したロールプレイやグループワーク
- 第13回要保護児童の家庭支援 2-児童養護施設での相談を想定したロールプレイやグループワーク
- 第14回対面相談支援と電話やメールを介した相談支援
- 第15回関係相談機関などとの連携・協力、まとめ

評価方法

評価は、個人ワークやグループワーク課題の提出状況および期末試験などを総合しておこなう。

使用教材

テキストは使用しない。授業進行に従いプリントを配布する。

授業外学習の内容

- ・人間（自分自身や周囲にいる人など）に関心を持つようにすること。
- ・日頃から、保育相談活動に関心を持つようにすること。
- ・自分なりの保育観や人間観をもつようにすること。
- ・これまでに履修してきた相談関連科目について復習をしておくこと。本科目との共通点や強調点の相違理解を促進します。
- ・「翌週までの課題」を終えておくこと。

備考

- ・授業時間内でグループワークが終了できない場合、履修学生は、時間外を利用して、グループで責任ももって課題を終えておくこと。
- ・グループワークなどで得た情報のプライバシー保持をすること。

幼児教育運営論（保育・教育の方法技術）

担当者

高梨 瑠子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

幼児教育の在り方を総合的に学ぶ。

到達目標

○幼児教育に関わる社会の動向を踏まえつつ、これからの保育の役割・保育者の役割を迫及する。○幼児教育の多様性を理解し、それらの特性に応じた望ましい在り方を学ぶ。○保育・幼児教育において保護者や地域社会とどのような連携をすることが必要か学ぶ。○質の高い保育、それを実現できる保育者の在り方を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回がダンス・幼児教育を運営するとは何かを知る
- 第2回保育・幼児教育の動向について知る（個別での調べ学習）
- 第3回同上～～調べた結果の発表～～
- 第4回保育・幼児教育の多様性について知る
- 第5回実際の保育を見学し、保育の環境と子どもの遊びについて記録を取る
- 第6回前時の内容をまとめてレポートし、発表をする。
- 第7回保育・幼児教育を成立させるための保護者との連携を考える
- 第8回保育・幼児教育を成立させるための地域との連携を考える
- 第9回質の高い保育とはということについて考える
- 第10回同上～～自分の考えのまとめ・レポート～～
- 第11回質の高い保育を実現できる保育者の役割について考える
- 第12回同上～～自分の考えのまとめ・レポート～～
- 第13回自分たちが卒業する頃を見通しての「保育・幼児教育」を考える①
～～0歳児から2歳児までの保育を考え、これからの在り方を学ぶ～～
- 第14回自分たちが卒業する頃を見通しての「保育・幼児教育」を考える②
～～3歳児から5歳児までの保育を考え、これからの在り方を学ぶ～～
- 第15回この科目で学んことについてのまとめと発表をする

評価方法

授業に臨む姿勢（積極性・発言・提出物の期限厳守など）・提出物や発表の内容など充実度を毎時間確認しつつ、総合的に評価します。

使用教材

授業の中で提示します

授業外学習の内容

- ・質問や相談は随時受けるので、「わからない」まま進むことがないように期待します。
- ・授業期間全体を通じて、保育・幼児教育に関する社会の動向など、幅広く関連する情報を収集し、それらを「授業資料ノート」として各自整理しつつ毎時間持参して授業に臨むという形で進めます。

備考

任意で選択できる科目なので、第1回の授業の際、この科目を選択した意図を確認します。

保育内容指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

今井 麻美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

5領域の保育内容の目的、内容、方法の中でも、主にその具体的な「方法」に焦点を当てる。その上で、具体的な事例を用いることや、学生同士の話し合いを通して、概念的な理解に留まらない、具体的、実践的な理解を目指す。

到達目標

5領域の保育内容を踏まえた上で、保育の「方法」について理解し、専門的、実践的な力をつける。

講義内容と講義計画

授業計画

- 第1回 オリエンテーション: 授業の概要と進め方
- 第2回 保育の「方法」を「学ぶ」とは?
- 第3回 子どもを「理解」すること
- 第4回 子どもの「発達」と「保育」
- 第5回 「環境」による保育(1) 「環境」とは?
- 第6回 「環境」による保育(2) その「方法」は?
- 第7回 「遊び」による総合的な指導(1) 「遊び」とは?(指導案の作成)
- 第8回 「遊び」による総合的な指導(2) 「遊び」を「支える」とは?(模擬授業)
- 第9回 保育の「方法」と「計画」(指導案の作成)
- 第10回 保育の「方法」と「省察」(模擬授業)
- 第11回 子どもにとっての園生活
- 第12回 園生活と行事
- 第13回 保育実践における保護者支援(1) 就学前施設における課題
- 第14回 保育実践における保護者支援(2) 就学前施設に子どもを預ける親の気持ち
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、課題への取り組み、学期末テストにより総合的に評価する。

使用教材

適宜プリントを配布する

授業外学習の内容

- ・ 毎回、授業の最初に毎回授業内容に関わる小テストを行うため、復習しておくこと。

備考

- ・ 授業時間外を活用し、授業で求められる発表の準備をしっかりとった上で、授業に臨むことを求める。

子ども理解の理論と方法（保育・教育の方法技術）

担当者

今井 邦枝

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

保育において保育者は、子ども一人一人の特性に応じ発達の課題に即した指導をおこなっていく。そのためには、子ども一人一人を理解し、常にその姿を捉えていくことが重要である。本講義では、様々な側面から子どもを理解するための基礎的な知識を学ぶ。そして具体的な事例や実習での日誌を検討することを通して、子どもを理解するための視点を身に付けていく。

到達目標

- ・子ども理解のための視点を身に付ける。
- ・実習日誌を検討することを通して、子ども理解を深めるための記録方法を理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 子ども理解の重要性
- 第2回 子ども理解のための基礎理論①(身体・運動発達について)
- 第3回 子ども理解のための基礎理論②(言語・認知発達について)
- 第4回 子ども理解のための基礎理論③(感情・社会性の発達について)
- 第5回 子ども理解のための基礎理論④(遊び)
- 第6回 子ども理解のための基礎理論⑤(仲間関係)
- 第7回 記録のとり方①(環境図)
- 第8回 記録のとり方②(個別記録)
- 第9回 記録のとり方③(エピソード記述)
- 第10回 実習日誌の検討①(遊びの視点から)
- 第11回 実習日誌の検討②(仲間関係の視点から)
- 第12回 実習日誌の検討③(保育者の援助の視点から)
- 第13回 指導計画における記録の重要性
- 第14回 子ども理解を深めるための保育者の学び①(継続的な記録の重要性)
- 第15回 子ども理解を深めるための保育者の学び②(話し合うことの重要性)

評価方法

試験 (70%)、課題 (20%)、平常点 (10%)

使用教材

文部科学省「幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価」2010

授業外学習の内容

毎回授業の最初に前回授業内容にかかわる確認テストを実施するので、授業のポイントについて復習をしておくこと。

備考

小テストを実施するので、復習をすること。

幼小教育相談（保育・教育の方法技術）

担当者

宮内 洋

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 必修 2単位

講義目標

幼児や児童、その保護者等を対象とした相談活動に必要な基礎的事項を説明する。この際には、密室に閉じた相談活動ではなく、学校、さらには地域に開かれた支援を視野に入れる。

到達目標

幼児や児童、その保護者等を対象とした相談活動に必要な基礎的事項を理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回:カ`イ`ン`ス
- 第2回:カウ`ン`セ`リ`ン`グ`とは何か
- 第3回:ア`セ`ス`ト(1)見立てのための聞き取り
- 第4回:ア`セ`ス`ト(2)心理検査・神経学的所見
- 第5回:読み書きに関する相談
- 第6回:忘れ物・紛失が多いという相談
- 第7回:身体に関する相談
- 第8回:食事に関する相談
- 第9回:友達に関する相談
- 第10回:家族に関する相談
- 第11回:近親者の病気・死別に関する相談
- 第12回:虐待の疑い
- 第13回:災害・事件が起きたら
- 第14回:カウ`ン`セ`リ`ン`グ`と守秘義務
- 第15回:まとめ:諸機関との連携

評価方法

全講義終了後に実施される筆記試験と、講義期間中に課せられる課題、講義に臨む態度・参加する姿勢等によって、総合的に判断する。講義を妨害し、他の受講生の学習を妨げる者は受講を認めない。

使用教材

秋山千枝子・堀口寿広監修『スクールカウンセリングマニュアル』（2版）日本小児医事出版社 2009年

授業外学習の内容

授業後に各自で復習をして、授業内容の正しい理解に努めてください。

備考

最初の講義の時間に約束をします。その約束を最終回まで守ってください。

中学校教育相談（保育・教育の方法技術）

担当者

宮内 洋

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

教育場面で、教師が協力しあい、生徒や保護者などとの間に効果的な関係を持って指導や支援ができるような基礎学習をおこなう。本科目では、相談対象として青年期前期の生徒とその保護者を想定し、その心身および社会性の発達過程で生じやすい問題行動への対処についても考えていく。

到達目標

- ・中学生およびその保護者を対象とした学校教育相談活動に必要な基礎事項が理解できるようになる。
- ・向き合う生徒、保護者や同僚などの気持ちを十分に配慮した関係づくりの大切さに気づき、さらに、行動できるようになる。
- ・言語的メッセージや非言語的メッセージへの感受性を高める（コミュニケーション能力の向上）。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション-相談、面接、そして、カウンセリングとは-
- 第2回 カウンセリングの基礎(1):対人行動パターン
- 第3回 カウンセリングの基礎(2):コミュニケーション場面で話すことの意味
- 第4回 カウンセリングの基礎(3):非言語メッセージの意味について
- 第5回 教師のこころの健康-学校教育活動への影響、生徒への影響など-
- 第6回 学校教育相談活動とスクールカウンセラー活動-それぞれへの期待と誤解-
- 第7回 学校教育相談活動での教育相談担当、学級担任や養護教諭などの役割
- 第8回 学校内での連携、外部の関係相談機関や小学校などとの連携・協力
- 第9回 保護者との関わり方、保護者との連携
- 第10回 教師が生徒との面接や相談活動で陥りやすい問題-話を聴くということ-
- 第11回 生徒の問題行動への対処 1-学習内容に関わる問題-
- 第12回 生徒の問題行動への対処 2-いじめ、引きこもりなど人間関係に関わるような問題-
- 第13回 生徒の問題行動への対処 3-攻撃性、非行の問題に対して-
- 第14回 電話やメールを介した相談
- 第15回 効果的な人間関係を作るための配慮事項、まとめ

評価方法

評価は、個人ワークやロールプレイ等のグループワーク課題の提出状況および期末試験等を総合しておこなう。

使用教材

授業時に指示する

授業外学習の内容

授業時間以外にも様々な課題があります。

備考

本科目では、いくつかの課題に取り組んでいただく予定ですので、授業に対する積極的な態度が望まれます。

生徒指導論（保育・教育の方法技術）

担当者

森部 英生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

小学校における生徒指導の意味と意義を説くことから始め、生徒指導の実際を述べ、さらに、様々な生徒指導場面における教師の具体的な指導事例を取り上げて授業を展開していく。

到達目標

小学校において教師が子ども達に、教科等の指導以外に行う様々な生活面の指導を行うにあたり、どのような考え方のもとにどのような技術を用いるべきか、生徒指導のあり方についての理論と実践の力をつけることをめざす。

講義内容と講義計画

授業計画

- 第1回:オリエンテーション
- 第2回:生徒指導とは何か
- 第3回:生徒指導の原理
- 第4回:年間を通じての生徒指導の諸相(1)入学
- 第5回:年間を通じての生徒指導の諸相(2)進級・原級留置第1回小テスト
- 第6回:年間を通じての生徒指導の諸相(3)出席停止
- 第7回:年間を通じての生徒指導の諸相(4)卒業と卒業式
- 第8回:校則
- 第9回:校内非行
- 第10回:生徒懲戒第2回小テスト
- 第11回:体罰の禁止
- 第12回:いじめ
- 第13回:不登校
- 第14回:対教師暴力
- 第15回:まとめ第3回小テスト

評価方法

授業中に行う3回の小テスト（約70%）、講義期間中に課せられる課題、講義に臨む態度・参加する姿勢等（約30%）によって、総合的に判断する。

使用教材

授業中にプリント等を配布する。

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。報告に指名された場合は、然るべく調べること。また、5回目ごとの小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

小学校における生徒指導は、学習指導と並んで重要な意味を持っています。校則・生徒懲戒・非行・不登校等々をめぐる諸問題がこれに含まれます。この授業では、こうした事項につき、実例を示しながら進めていきます。鋭い人権感覚と問題意識を持って授業に参加することを望みます。

生徒・進路指導（保育・教育の方法技術）

担当者

森部 英生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 2単位

講義目標

中学校における生徒指導・進路指導の意味と意義を説くことから始め、生徒指導・進路指導の実際を述べ、さらに、様々な場面における教師の具体的指導事例を取り上げて授業を展開していく。そこから、より広い社会・歴史的な枠組みにおいて生徒指導・進路指導を考えていく。

到達目標

生徒の非行・問題行動への対応という狭い意味ではなく、すべての生徒に対する、各々の人格のより良き発達を目指すための教育活動として、「生徒指導」を理解する。また、最終学年時における進学や就職のための指導という狭い意味ではなく、生徒自身が主体的に生き方を考えることができるための能力や態度を育む教育活動として、「進路指導」を理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回:オリエンテーション
- 第2回:生徒指導・進路指導とは何か
- 第3回:生徒指導・進路指導の原理
- 第4回:年間を通じての生徒指導・進路指導の諸相(1)入学
- 第5回:年間を通じての生徒指導・進路指導の諸相(2)進級・原級留置第1回小テスト
- 第6回:年間を通じての生徒指導・進路指導の諸相(3)出席停止
- 第7回:年間を通じての生徒指導・進路指導の諸相(4)卒業・進学・就職
- 第8回:校則
- 第9回:校内非行・対教師暴力
- 第10回:生徒懲戒第2回小テスト
- 第11回:体罰の禁止
- 第12回:いじめ
- 第13回:不登校
- 第14回:進学・就職の選択・決定
- 第15回:まとめ第3回小テスト

評価方法

授業中に実施する筆記試験（約70%）と、講義に臨む態度・参加する姿勢等（約30%）によって、総合的に判断する。

使用教材

授業中にプリント等を配布する。

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。報告に指名された場合は、然るべく調べる。また、5回目ごとの小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

中学校における生徒指導・進路指導は、学習指導と並んで重要な意味を持っています。校則・生徒懲戒・非行・不登校等々をめぐる諸問題がこれに含まれます。この授業では、こうした事項につき、実例を示しながら進めていきます。鋭い人権感覚と問題意識を持って授業に参加することを望みます。

心理検査法（保育・教育の方法技術）

担当者

板津 裕己

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

こころの特徴理解の方法の1つとして心理検査法が用いられている。ここでは、心理検査の中で、質問紙法、作業検査法およびや知能検査を含む発達検査などについて、検査実施上の注意点や処理方法などを学ぶ。なお、投影法は、その検査実施や結果処理を習熟するために相当な経験を要するなどの理由から、基礎事項学習にとどめる。

到達目標

- ・心理検査の長所とその限界（問題点など）を含めた、心理テストについての正しい理解ができるようになる。
- ・各種検査法の正確な実施法と適切な結果の読み取りができるようになる。
- ・心理検査を受検することで自己理解を深める。

講義内容と講義計画

- 第1回 エンタメーション-心理検査の歴史と基本的な考え方-
- 第2回 心理検査で何がわかる？
- 第3回 パーソナリティ検査 1-質問紙法検査の概要-
- 第4回 パーソナリティ検査 2-質問紙法検査の実習 1-パーソナリティ、性格に関するテスト-
- 第5回 パーソナリティ検査 3-質問紙法検査の実習 2-社会的欲求や行動に関するテスト-
- 第6回 パーソナリティ検査 5-作業検査法の概要と実習-
- 第7回 パーソナリティ検査 6-作業検査法検査結果の着眼点と読み取り方-
- 第8回 パーソナリティ検査 7-作業検査法検査の結果整理の実習
- 第9回 パーソナリティ検査 8-投影法検査の概略と実習-
- 第10回 知能検査 1-知能検査の概要と集団式知能検査実習-
- 第11回 知能検査 2-集団式知能検査の結果の読み取りかたなど-
- 第12回 知能検査 3-個別式知能検査実習 1-コース立方体組み合わせテストなど-
- 第13回 知能検査 4-個別式知能検査実習 2-DN-CAS 認知評価システムなど-
- 第14回 乳幼児発達検査 1-概要と質問紙検査(遠城寺式、津守式検査など)-
- 第15回 乳幼児発達検査 2-個別検査(子どもの発達簡易検査)-

評価方法

評価は、個人ワークやグループワークなどのレポート課題にもとづく。

使用教材

各種心理検査のマニュアル・その他に、授業進行に従いプリントを配布する。

授業外学習の内容

- ・人間（自分自身や周囲にいる人など）に関心を持つようにすること。
- ・「パーソナリティの心理学」で学習した事項について復習をしておくこと。同科目を履修していない学生は、補充学習をしておくこと。その場合、必要に応じて個別・グループ対応をします。

備考

- ・個別式知能検査は、検査器具数の関係で、グループによって学習内容が入れ替わることがある。
- ・授業時間内でテスト実習および結果処理などができない場合、履修学生は、時間外を利用して、個人あるいはグループで責任ももって課題を終えておくこと。
- ・検査器具や検査用紙などは担当者が用意する。

・課題は、指定された日時までに必ず提出すること。

家族療法（保育・教育の方法技術）

担当者

千葉 千恵美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 2単位

講義目標

家族とクライアントの関係に視点を置き、家族関係、ジェノグラムの作成を行いながら、家族への援助関係のあり方について事例を検討していく。

到達目標

本講においては、家族療法の理論と技術を理解し、家族を視野においた援助技術を学ぶ。事例検討を行いながら、実際にロールプレイや模擬面接の体験をし応用的な面接技術の習得を目標とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 家族療法の発展
- 第3回 健康な家族とその発達
- 第4回 家族療法の理論
- 第5回 家族療法の諸学派
- 第6回 家族のアセスメント
- 第7回 目標の設定
- 第8回 家族療法の適応と禁止
- 第9回 家族治療上の留意点
- 第10回 一般的な家族の問題とその治療(ジェノグラム作成)
- 第11回 ロールプレイによる実践(1) 複雑な家族関係
- 第12回 ロールプレイによる実践(2) 家族内に病人がいる家族関係
- 第13回 夫婦療法
- 第14回 治療終結と治療中断の取り扱い
- 第15回 まとめ

評価方法

授業中の積極的な参加、授業後の感想、ロールプレイの取り組み、試験を総合的に判断する。

使用教材

フリップ・バーガー著中村真一・信刻恵子監訳甲斐隆・川並かおる・中村伸一・信国恵子・張田真美訳、家族療法の基礎「BASICFAMILYTHERAPY」PhilipBarker 金剛出版 1993 参考書籍

授業外学習の内容

「指定した教科書の授業内容を事前に読んでおく」「毎回授業の最初に前回授業内容に係る振り返りを確認するので復習しておくこと」「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

積極的に授業に参加し、毎回授業後の感想をまとめて記述し、学んだことを自分の知識・技術に役立てほしい。授業で学んだ内容について復習し理解を更に深めること。次回の授業に向けて改めて予習を行い、事前に学習準備をしておくこと。

保育方法論（保育・教育の方法技術）

担当者

千葉 千恵美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

子育て支援に必要な知識と技術を、講義、ディスカッション、ロールプレイ、実践を通して習得する。本学設置の子ども・家族支援センターの活動に参加する。地域の保育所・幼稚園・子ども園等施設見学を行い、子育て支援が行える保育士・幼稚園教諭を目指す。

到達目標

- ①保育方法に必要な知識を習得する。
- ②保育方法に必要なスキルの習得をする。
- ③親と家族への理解と共感性を高める

講義内容と講義計画

授業内容と授業計画

- 第1回日本における保育方法の現状とニーズ
- 第2回保育方法に必要な児童福祉の知識
(児童虐待の背景・予防・発見・連携を中心に)
- 第3回親支援に必要なかかわりと子どもの育ちについての理解
- 第4回子どもと家族関係(親の心理、障害児と家族、夫婦関係と子ども)
- 第5回保育所・幼稚園で見られる子どもの心の危険信号(送迎場面、活動場面、態度など)
- 第6回保育・相談技術の基礎1(子ども・家族支援センターの活動を見学後レポート・指導案作成)
- 第7回保育・相談技術の基礎2(見学内容についてのグループディスカッション・指導案作成)
- 第8回ロールプレイ1(事例検討を行い具体的な役割を決めてロールプレイを行う)
- 第9回ロールプレイ2(親役・保育者役を決めてロールプレイ後ディスカッションを行う)
- 第10回地域保育・子育て支援施設の見学(保育所、幼稚園、こども園等)
- 第11回地域保育・子育て支援施設の見学(育児サークル、児童館、NPO法人施設)
- 第12回子ども・家族支援センターへの参加(子育て支援の参加・親子ふれあい教室、実践支援)
- 第13回子ども・家族支援センターへの参加(親子ふれあい教室の親子の活動体験・遊びと相談・実践支援)
- 第14回子ども・家族支援センターへの参加(支援が必要な親子へのケーススタディ・支援方法等)
- 第15回まとめ

評価方法

- ①実習態度や積極性②レポート内容③総合試験を踏まえて総合的に判断する。

使用教材

保育ソーシャルワークと子育て支援(千葉千恵美著、久美株式会社)

授業外学習の内容

「指定した教科書の授業内容を事前に読んでおく」「毎回授業の最初に前回授業内容に係るふり返りを確認するので復習しておくこと」「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

積極的な授業参加と観察(実践体験・施設見学)を行うので、保育方法について必要な知識と、スキルを習得し、子育て支援が行える保育士・幼稚園教諭を目指してほしい。授業で学んだ内容について復習し理解を更に深めること。次回の授業に向けて予習を行うこと。

心身の発達と学習過程（保育・教育の方法技術）

担当者

小林 久男

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

高機能自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害など、いわゆる発達障害のある幼児児童生徒を教育的な視点からどのように理解すればよいか、現行の診断基準も含めて紹介する。また、これらの幼児児童生徒に対して行なわれている教育の方法について、実践事例（文字資料、DVD）に沿って紹介する。授業には、学習障害の疑似体験、ソーシャル・スキル・トレーニングのロールプレイ、文字や数の基礎学習教材の試作なども行ない、子どもの発達への理解を深めるとともに、発達障害児への係わり方の工夫についても洞察を深める。

到達目標

発達障害児の実態を把握する心理学的、医学的な視点を疑似体験も踏まえて把握し、具体的な指導を行なう際の基本的な留意点を理解すること。

講義内容と講義計画

- 第1回 回リエンテーション子どもの発達について
- 第2回 発達障害児の状態像
- 第3回 発達障害児教育の歴史と現状
- 第4回 発達障害児の就学と教育課程
- 第5回 発達障害児の実態把握(医学的側面)
- 第6回 発達障害児の実態把握(心理学的側面)
- 第7回 発達障害児の指導計画(その1)-指導計画の構成と内容
- 第8回 発達障害児の指導計画(その2)-指導計画の具体例
- 第9回 発達障害児の学習指導(その1)-広汎性発達障害児の指導
- 第10回 発達障害児の学習指導(その2)-LD児の指導
- 第11回 発達障害児のコミュニケーション活動
- 第12回 ソーシャル・スキル・トレーニング(その1)-目的・方法
- 第13回 ソーシャル・スキル・トレーニング(その2)-具体例
- 第14回 発達障害児の学校教育と卒業後の生活
- 第15回 子どもの発達の理解のまとめと学習教材の試作

評価方法

授業中の発言、毎回のリアクションペーパー、子どもの発達の理解と指導に関する期末課題を総合して評価する。

使用教材

阿部利彦「発達が気になる子のサポート入門」学研

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと

備考

保育実習 I (実習)

担当者

保育実習 I 担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3 年前期 選択 4 単位

講義目標

配属された保育所や施設において、講義などで習得した知識や技能を基礎として、これらを実践活動に生かし、対象児童らと保育士との直接的関わり、対象児童らと保育士を取り巻く環境、保護者と地域との関連を総合的に理解し、保育の応用力を養う。実習にあたっては、健康管理に留意するとともに、保育を学ぶ学生として強い責任感と高い倫理性に基づく行動がとれるようにする。

到達目標

保育所や施設において、意欲的に実習に取り組むことができる。また、実践を通して保育所や施設での保育士の役割について考えることができるようになる。

講義内容と講義計画

1. 保育所における実習

保育所の保育活動に参加し、乳幼児への理解を深め、保育所の機能や保育士の職務内容などについて学ぶ。

2. 児童福祉施設等における実習

児童福祉施設などの生活や支援活動に参加し、児童・利用者との関わりや支援活動を通して児童・利用者への理解を深めるとともに、児童福祉施設などの機能や保育士・施設職員の役割及び職務内容などについて学ぶ。

3. 実習にあたっては健康管理能力や責任感、高い倫理観をもつように指導する。

評価方法

実習日誌、評価票、提出物により総合的に評価する。

使用教材

実習の手引き、プリントなどを配布する。

授業外学習の内容

- ・実習に向けて生活リズムを整えるなどの準備を行うこと。
- ・毎日、実習日誌を記入すること。

備考

保育実習指導 I (実習)

担当者

保育実習 I 担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期～3年前期 選択 2単位

講義目標

この授業では、実習に対する事前事後指導を行う。事前指導では、保育所実習や施設実習に向けて準備を行うが、実習先である保育所や施設の理念と目標の理解、対象児者らの状況と保育士の職務の理解、関わり、指導計画案作成や実習日誌の書き方等について学ぶ。事後指導では反省を踏まえ次の実習に備える。

到達目標

保育所や施設について理解を深め、自己課題をもち、実習に臨もうとすることができる。実習後には、実習を丁寧に振り返り、次の実習への課題をもつことができる。

講義内容と講義計画

- 第1回オリエンテーション
- 第2回自分の保育-どのような保育をしたいか
- 第3回実習が楽しいと思う時、つまらないと思う時(保育所)
- 第4回対象児童など個性や特徴を理解する(保育所・施設)
- 第5回先生と呼ばれることについて(保育所・施設)
- 第6回共感と出会いを大切にする
- 第7回保育所実習の目的と役割・意義
- 第8回施設実習の目的と役割・意義
- 第9回実習日誌の書き方(保育所)
- 第10回施設実習の実習内容
- 第11回知的障害者施設について
- 第12回児童福祉施設について
- 第13回保育所実習の目的・課題
- 第14回保育所でのオリエンテーションの準備
- 第15回施設実習の配属先の決め方について
- 第16回健康管理について
- 第17回保育所実習の目標と課題 I
- 第18回保育所実習の目標と課題 II
- 第19回保育所実習を終えて
- 第20回実習課題の設定(施設)
- 第21回実習日誌の書き方(施設)
- 第22回受け入れ施設が実習生に望むこと(施設)
- 第23回障害がある人のこころ(施設)
- 第24回障害がある人とのかかわり方と援助(施設)
- 第25回施設実習の理解度チェック(施設)
- 第26回実習指導保育所準備
- 第27回実習指導保育所 1
- 第28回実習指導保育所 2
- 第29回実習指導保育所 3
- 第30回保育実習 II・IIIの説明

評価方法

実習日誌、評価表、提出物により総合的に評価する。

使用教材

実習の手引き、適宜プリントなどを配布する。

授業外学習の内容

- ・各自、実習先の施設について理解を深めること。
- ・可能であれば、実習先の施設に直接出向き、事前の理解を深めることを望む。
- ・必ず復習し、実習への心構えを身につけ、必要な準備を行うこと。

備考

保育者を目指す者としての自覚を持って授業に臨むこと。

保育実習Ⅱ（保育所）

担当者

保育実習Ⅱ担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年後期 選択 2単位

講義目標

保育所における実習、事前事後指導を通して学内での授業と保育実践を総合的に理解する。実習体験を生かし実践力を向上させ、各自の実習体験を話し合い、自ら保育士として資質を高める保育所保育士としての専門性を培う。

到達目標

- ・保育実習Ⅰでの反省を活かし、積極的に実習に取り組むことができる。
- ・幅広い保育所保育士の役割について、理解を深めることができる。

講義内容と講義計画

- 保育所の保育活動に参加し、乳幼児への理解を深め、保育所の機能や保育士の職務内容などについて学ぶ。
- 発達段階に応じた保育士の関わり方や保育方法について、理解を深める。
- 指導計画を立案し、保育の実践、評価を行う。
- 地域における保育所や保育士の役割について理解する。

評価方法

園からの評価、実習日誌等の提出物などを総合的に評価する。

使用教材

適宜プリントを配布する

授業外学習の内容

毎日、実習日誌を記入すること。

備考

保育実習Ⅲ（施設）（実習）

担当者

保育実習Ⅲ担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年後期 選択 2単位

講義目標

保育実習Ⅰ（施設）で学習したことを踏まえて、保育所以外の児童福祉施設等の役割や機能について実践を通じて理解を深める。家庭と地域の生活実態に触れ、児童家庭福祉及び社会的養護の授業で得た理解を基に、保護者支援・家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。また、保育士の業務内容や職業倫理についても実践をとおして理解を深めていく。さらに、保育士として自己の課題を明確にして、将来保育士として活動していくための最終の準備を行う。

到達目標

施設実習において、利用者の支援を責任をもって、積極的かつ適切に行うことができる。施設保育士として必要な記録（実習記録・日誌）を的確に記述することができる。

講義内容と講義計画

1. 実習予定の施設についての事前学習
-施設目的、利用者の特徴、援助方法、実習目標（計画）の設定など-
2. 実習についての学内オリエンテーション
3. 施設オリエンテーションへの出席
4. 出席後の学習
-オリエンテーションの再確認および実習準備（施設への提出物作成、その他）-
5. 各施設での実習
6. 実習終了後の学習や活動
-実習日誌やその他の提出物の確認など-
7. 実習報告準備
8. 施設職員としての役割について学ぶ、考える

評価方法

レポート等の提出物、評価票、提出物によって総合的に評価する。

使用教材

実習の手引き、プリントなどを配布する。

授業外学習の内容

- ・ 保育実習Ⅰ（施設）や関連する実習について振り返り、それらで見出された成果や課題をもとに、具体的な実習目標を設定すること。
- ・ 責任実習などに備えて、実施したい課題について何種類かのアイデアを考えておくこと。また、日々の活動に備えて、幼児・児童や障害を持った方々向けの遊びを準備しておくこと。

備考

- ・ 保育実習Ⅲを選択することに、「主体性」と「責任」を持つこと。
- ・ 実習中だけでなく、実習開始前から健康管理に十分に配慮すること。
- ・ 実習施設から課された課題は指定期日までに準備すること。また、施設ルールを順守すること。
- ・ 実習に必要な書類などは、期日にゆとりを持って確実に準備すること。

保育実習指導Ⅱ（実習）

担当者

保育実習Ⅱ担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年通年 選択 1単位

講義目標

保育所における実習、事前事後指導を通して学内での授業と保育実践を総合的に理解する。実習体験を生かし実践力を向上させ、各自の実習体験を話しあい、自らの保育士としての資質を高め保育所保育士としての専門性を培う。

到達目標

- ・ 保育所の役割について理解を深め、自己課題をもち、実習に臨もうとすることができる。
- ・ 実習後には、実習を丁寧に振り返り、自己課題を明確にする。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 実習園決定に向けて
- 第3回 保育実習Ⅰの振り返り
- 第4回 保育実習Ⅱを通して学ぶこと
- 第5回 実習日誌記録、指導案作成について
- 第6回 実習諸準備確認
- 第7回 実習報告、自己評価、自己課題提出
- 第8回 実習日誌提出、評価、個人指導
- 第9回 グループワーク①(子どもとのかかわりについて)
- 第10回 グループワーク②(保育者の援助について)
- 第11回 グループワーク③(保育所の役割について)
- 第12回 グループワーク④(責任実習をとおして)
- 第13回 グループワーク⑤(これから求められる保育士とは)
- 第14回 実習園からの総合評価
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、レポート等を総合的に評価する。

使用教材

講義内で指示する

授業外学習の内容

必ず復習し、実習への心構えを身につけ、実習に必要な準備を行うこと。

備考

保育実習指導Ⅲ（実習）

担当者

保育実習Ⅲ担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年通年 選択 1単位

講義目標

施設実習の意義と目的を理解して、保育や支援について総合的に学ぶ。保育実習Ⅰにおける施設実習で身につけたことや既習の教科の学習内容を踏まえて、さらに施設保育士としての実践力を高めていくための準備指導を行う。そのために、観察や記録及び自己評価等を踏まえた保育や支援の改善について、実践や事例を通して分析することを理解する。実習の事後指導として実習日誌や実習先からの評価票、巡回教員の評価などをもとに振り返りを行い、総括とする。

到達目標

保育実習Ⅲにおいて、施設について理解を深め、自己課題を持ち、利用者の支援を責任を持って適切に行うための知識、スキルを身につけ、実習を全うすることができる。また、実習後には実習を客観的に振り返り、卒業後の課題を意識することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 保育実習Ⅲ実習基準
- 第2回 ボランティア活動について
- 第3回 児童福祉施設の概要
- 第4回 障害者援護施設について
- 第5回 実習施設事前研究・実習課題の設定
- 第6回 利用者の介助方法
- 第7回 実習施設事前研究報告
- 第8回 福祉職の倫理・行動規範
- 第9回 施設実習Ⅰ終了学生の体験報告
- 第10回 実習Ⅲ体験報告①（8、9月実習生）
- 第11回 実習Ⅲ体験報告②（10月実習生）
- 第12回 「私が施設を運営するならば」
- 第13回 「福祉職の倫理綱領を作成しよう」
- 第14回 偏見とやさしさ
- 第15回 まとめ

評価方法

レポート等の提出物、授業態度、発表内容を総合して評価する。

使用教材

実習の手引き、適宜プリント等を配布する。

授業外学習の内容

- ・ 保育実習Ⅰ（施設）や関連する実習について振り返り、それらで見出された成果や課題をもとに、具体的な実習目標を設定すること。
- ・ 同じ種別の施設で実習する学生とグループ学習をおこなう、あるいは、自主学習をおこなうことで、種別特徴や実習施設特徴について理解を深めておくこと。

備考

- ・ 保育実習Ⅲを選択することに、「主体性」と「責任」を持つこと。
- ・ 課題は期日までに必ず提出すること。

幼小教育実習事前事後指導（実習）

担当者

幼小実習担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期、3年前期 必修 1単位

講義目標

幼稚園・小学校で実習を行なう学生に対し、実習前に一般的な注意を与えると同時に、実習先での勤務の仕方、身だしなみ、言葉遣い等について指導し、実習終了後は、実習報告書等をもとに個別に及び集団的に指導し、また、報告会を開催して他の実習生たちの体験を聞くなどのことを通して、学校・教師・子どもたちへの理解と実践的力量について確認させ、教師としての自覚を樹立させる。

到達目標

実習校・園に出向くにあたって学生たちが種々の心構え・態度等を身に付け、実習を終えた後は、教育に対する使命感を確立することを目指す。

講義内容と講義計画

・実習に出向くにあたって、各実習校・園の教育方針等を理解させるとともに、実習先でのみだしなみ、言葉遣い、態度、通勤方法等について入念に指導する。
・実習終了後は、実習報告書をもとに、また、実習報告会などを通じて、実習でどのようなことを学び、それが今後の学修や進路にどのような意味を持ったか等につき、学生同士で話し合わせたり報告し合ったりして、指導助言を与える。

評価方法

実習に臨むにあたっての意欲・態度、また、実習終了後の体験報告等に基づき、実習担当教員が総合的に評価する。

使用教材

特に使用しない。

授業外学習の内容

毎時の授業課題について必ず予習・復習を行うこと。

備考

提出物等は期日時間厳守で提出すること。

中学校教育実習事前事後指導（実習）

担当者

中学校実習担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期、3年前期 選択 1単位

講義目標

中学校で実習を行う学生に対し、実習前に一般的な注意を与えるとともに、実習先での勤務の仕方、身だしなみ、言葉遣い等について指導し、実習終了後は、実習報告書等をもとに個別に及び集団的に指導し、また、報告会を開催して他の実習生たちの体験を聞くなどのことを通して、学校・教師・子ども達への理解と実践的力量について確認させ、教師としての自覚を樹立させる。

到達目標

実習校に出向くに当たって学生たちが種々の心構え・態度等を身につけ、実習を終えた後は、教育に対する使命感を確立することをめざす。

講義内容と講義計画

・実習に出向くに当たって、各実習校の教育方針等を理解させるとともに、実習先での身だしなみ、言葉遣い、態度、通勤方法等について入念に指導する。
・実習終了後は、実習報告書等をもとに、また、実習報告会などを通じて、実習でどのようなことを学び、それが今後の学修や進路にどのような意味を持ったか等につき、学生同士で話し合わせたり報告し合ったりして、指導助言を与える。

評価方法

開講時に指示する

使用教材

特に使用しない。

授業外学習の内容

模擬授業の資料（学習指導案、生徒用ワークシート）その他単元の学習指導案を課す。

備考

- ・実習に臨むにあたっての意欲・態度、また、実習終了後の体験報告等に基づき、実習委員会が総合評価する。
- ・教師を目指す自覚を持って臨むこと。中学校及び中学校生徒に生じる諸問題に関心を持つこと

中学校教育基礎実習（実習）

担当者

中学校実習担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 1単位

講義目標

各学生が取得しようとする免許状及び希望に基づき、中学校に出向いて1週間の基礎的な教育実習をするもので、実習が確実にできるよう、また、確実にできているかどうかを、実習校と密に連携協力しながら、巡回等の方法で指導する。

到達目標

中学校に出向いて、そこで教育活動に従事している教職員の仕事、役割等について、実践を通して基礎的な観察・体験を行い、大学での学修に即ちその動機づけをするとともに、学校・教育・教師への理解を深める。

講義内容と講義計画

- ・実習の前には大学において必要な事前指導を行うとともに、実習校との打ち合わせを緊密に行う。
- ・実習中は実習校の担当教師の指導を第一としつつ、大学の担当教員が当該校を適宜訪問したりEメールを用いたりしながら、実習生に対する指導を行う。
- ・実習期間は短いですが、実習校に出向くにあたっては、事前の準備を周到に行う。実習終了後は、学生たちにその記録を提出させ、報告会を開催するなど事後の指導を入念に行う。

評価方法

実習委員会において、実習校における第一段階の評価をもとに、実習記録の記入状況・提出状況、指導教員・校長等の所見等を参考に、総合評価する。

使用教材

特に使用しない。

授業外学習の内容

外部講師講演会等のまとめ、感想、教育基礎実習の報告書、報告会プレゼン資料を課す。

備考

幼小教育基礎実習（実習）

担当者

幼小実習担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

各学生が取得しようとする免許状及び希望に基づき、幼稚園又は小学校に出向いて1週間の基礎的な教育実習をするもので、実習が確実にできるよう、また確実にできているかどうかを、実習校と密に連携協力しながら、巡回等の方法で指導する。

到達目標

幼稚園又は小学校のいずれかに出向き、幼稚園・小学校及びそこで教育活動に従事している教職員の仕事、役割等について、実践を通して基礎的な観察・体験を行ない、大学での学修にいつそうの動機づけをするとともに、学校・教育・教師への理解を深める。

講義内容と講義計画

- ・実習の前後には大学において必要な事前事後指導を行なうとともに、実習校との打ち合わせを緊密にする。
- ・実習中は実習校の担当教師の指導を第一としつつ、大学の担当教員が当該校・園を適宜訪問したり Eメールを用いたりしながら、実習生に対する指導を行う。
- ・実習期間は短いですが、実習校に出向くにあたっては、事前の準備を周到に行ない、実習終了後は学生たちにその記録を提出させ、報告会を開催するなど事後の指導を入念に行なう。

評価方法

実習校における第一段階の評価をもとに、実習記録の記入状況・提出状況、指導教員・校長等の所見等を参考に、実習担当教員が総合的に評価する。

使用教材

特に使用しない。

授業外学習の内容

実習期間中、毎日実習内容について実習日誌に記録すること。

備考

実習日誌については、実習校園の指導担当教員に提出して指導を受けること。

幼稚園教育実習（実習）

担当者

幼稚園実習担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 3単位

講義目標

教育現場における園児や教職員と直接に接することで、これまで学んだ専門教育科目などの知識や技術を実際の保育場面で活用し、幼稚園教諭の職務理解を深める。

到達目標

幼稚園教諭に必要な実践力を身につける。

講義内容と講義計画

学外実習

- ①幼稚園生活の流れを把握する。
- ②各年齢の発達状況を把握する。
- ③発達に応じた援助の仕方を学ぶ。
- ④個々の子どもの理解と個に応じた援助の仕方を学ぶ。
- ⑤子どもの興味・関心に沿った環境を構成する。
- ⑥子どもが主体的に関われる環境について理解する。
- ⑦日々の保育について、子どもの様子、保育者の援助と留意点、環境構成、気づきなどを適切に記録する。
- ⑧子ども理解に即して適切なねらいと内容について考え、適切な指導計画をたてる
- ⑨部分実習・全日実習などを行い、保育実践の基本を学ぶ。

評価方法

実習事前事後の取り組み。実習の取り組み、事後の振り返り、実習園の評価などから実習担当教員が総合的に評価する。

使用教材

特に使用しない

授業外学習の内容

- ・実習に臨んでは、事前に必要な教材研究及び準備を入念に行うこと。
- ・実習期間中は、毎日実習日誌の記入を綿密に行うこと。

備考

実習日誌については、実習園の担当教員の指定した日時に提出して指導を受けること。

小学校教育実習（実習）

担当者

小学校実習担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 3単位

講義目標

各学生が取得しようとする免許状に基づき、小学校に出向いて3週間の教育実習をするもので、実習が確実にできるよう、また、確実にできているかどうかを、実習校と密に連携協力しながら、巡回及び研究授業参加等の方法で指導する。

到達目標

小学校に出向き、小学校及びそこで教育活動に従事している教職員の仕事、役割、子ども達の状況等について、当該校の担当教師の指導のもと、実践に携わり、大学での学修を生かしながら学校・教育・教師への理解を深め、教育現場における種々の場面を通じて実践力を養う。

講義内容と講義計画

授業計画

- ・実習の前には大学において必要な事前指導を行うとともに、実習校との打ち合わせを緊密にする。
- ・実習中は実習校の担当教師の指導を第一としつつ、大学の担当教員が当該校・園を適宜訪問したり E メールを用いたりしながら、実習生に対する指導を行う。
- ・研究授業に際しては大学の担当教員が出向くことを原則とし、それができないときは E メール等を用い、実習校の指導教師とともに、実習生が実施した授業について必要な指導・助言を行う。
- ・3 週間にわたる実習に臨むにあたっては、実習校と事前の準備を周到に行い、実習中も当該校及び当該校の担当教師と連絡をとりながら、実習が確実にできるよう、また、確実にできているかどうかを確認するため巡回し、適宜実習生に助言指導する。実習終了後は、学生たちにその記録を提出させ、実習報告会を開催して体験を報告させるなど事後の指導を入念に行う。

評価方法

実習校における第一段階の評価をもとに、実習記録の記入状況・提出状況、指導教員・校長等の所見等を参考に、実習担当教員が総合的に評価する。

使用教材

特に使用しない。

授業外学習の内容

- ・実習に臨んでは、事前に必要な教材研究及び準備を入念に行うこと。
- ・実習期間中は、授業指導案の作成、実習日誌の記入などを綿密に行うこと。

備考

実習日誌については、実習校の担当教員の指定した日時に提出して指導を受けること。

中学校教育実習（実習）

担当者

中学校実習担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年後期 選択 3単位

講義目標

各学生が取得しようとする免許状に基づき、中学校に出向いて3週間の教育実習をするもので、実習が確実にできるよう、また、確実にできているかどうかを、実習校と密に連携協力しながら、巡回及び研究授業参加等の方法で指導する。

到達目標

中学校に出向き、中学校及びそこで教育活動に従事している教職員の仕事、役割、生徒の状況等について、当該校の担当教師の指導のもと、実践に携わり、大学での学修を生かしながら学校・教育・教師への理解を深め、教育現場における種々の場面を通じて実践力を養う。

講義内容と講義計画

- ・実習の前には大学において必要な事前指導を行うとともに、実習校との打ち合わせを緊密に行う。
- ・実習中は実習校の担当教師の指導を第一としつつ、大学の担当教員が当該校を適宜訪問したり電話やEメールを用いたりしながら、実習生に対する指導を行う。
- ・研究授業に際しては大学の担当教員が出向くことを原則とし、それができないときは電話やEメールを用い、実習校の指導教師とともに、実習生が実施した授業について必要な指導・助言を行う。
- ・3週間にわたる実習に臨むにあたっては、実習校と事前の準備を周到に行う。実習中も当該校及び当該校の担当教師と連絡をとりながら、実習が確実にできるよう、また、確実にできているかどうかを確認するため巡回し、適宜実習生に助言指導する。実習終了後は、学生たちにその記録を提出させ、実習報告会を開催して体験を報告させるなど事後の指導を入念に行う。

評価方法

実習委員会において、実習校における第一段階の評価をもとに、実習記録の記入状況・提出状況、指導教員・校長等の所見等を参考に、総合評価する。

使用教材

特に使用しない。

授業外学習の内容

毎時の授業課題について必ず予習・復習を行うこと。

備考

基礎実習と同様

特別支援学校教育基礎実習（実習）

担当者

特別支援学校実習担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 1単位

講義目標

特別支援学校（知的障害、肢体不自由、病弱）でどのような教育が実際に行われているか、児童生徒の実態・教育課程・時間割・日々の授業について、基礎的な事柄を具体的に学ぶ。特に、担当教員が児童生徒の実態をどのように把握し、どのような目標を設定して授業を組み立てているか、教材の準備・同僚との打ち合わせ・ティームティーチング・授業後の振り返りなどをどのように行っているかを観察し理解を図る。教員の指示の下で、授業の補助的な役割を体験する。特別支援学校における講話や実習記録を振り返り、個々の実習生の課題を明らかにする。

到達目標

特別支援学校でどのような教育が行われているか、児童生徒の実態・教育課程・時間割・授業等について、基礎的な事柄を理解すること。

講義内容と講義計画

1. 事前学習として、実習生としての心構え、必要な基本的マナー、特別支援学校教育の概要、基礎実習の目的、実習記録の書き方等を講義する(1コマ)。
2. 5日間(1日8時間、計40時間)の特別支援学校教育基礎実習を実施する。ここでは、児童生徒の実態、教育課程、時間割、毎回の授業の目標設定、使用する教材、授業実践、授業後の振り返り(評価)などについて、実習校からの説明を受け、配当クラスあるいは学習グループにおいて参与観察を行う。また、教員の指示により、授業の補助を行う。毎日、実習記録を書き、実習校の担当教員に提出する。人間発達学部の教員が実習校を訪問し、実習生の状況を把握するとともに、実習生の指導について担当教員と情報交換を行う。
3. 事後学習として、特別支援学校における講話や指導、実習記録を振り返り、3年次の特別支援学校教育実習に向けて各自が取り組むべき課題を明らかにする(1コマ)。

評価方法

実習校における第一段階の評価をもとに、実習委員会において実習記録の記入状況・提出状況・指導教員所見等を総合的に評価する。

使用教材

教育実習の手引き

授業外学習の内容

- ・基礎実習の手引きや日誌を事前に読んでおくこと。また、事前指導で配布する資料を、必ず授業後に繰り返し読むこと。不明な点については、障害児教育事典や教育小六法などで理解できるようにしておくこと。
- ・1年前期に開講されている特別支援教育関係の授業内容を十分に振り返り、理解を深めておくこと。
- ・特別支援学校教育基礎実習の実習校の教員や事後報告会で学生あるいは担当教員から指摘されたことについて、十分に振り返りを行うこと。

備考

特別支援学校の児童生徒が学ぶ様子をじっくり感じ取って下さい。
日誌をしっかりと書いてください。

特別支援学校教育実習（事前事後指導含む）（実習）

担当者

特別支援学校実習担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年後期 選択 3単位

講義目標

特別支援学校教育基礎実習で明らかになった個々の学生の課題について、教育実習においてどのように取り組むか、事前指導で具体的に検討し、教育実習の目的・方法を明確に自覚できるようにする。教育実習では、個々の学生の課題を中心に、特別支援学校での児童生徒との係わり方、児童生徒の実態把握・指導案作成・教材作成・授業実践・授業記録・評価・学級経営等、教員に求められる基礎基本の習得を促す。大学の教員が実習校の担当教員と連携して実習生の指導を行う。事後指導においては、教育実習を振り返り、個々の学生の課題達成状況や新たな課題を明確にする。

到達目標

教育実習の目的・方法を自覚し、児童生徒の実態把握・指導案作成・教材作成・授業実践・授業記録・評価・学級経営などの基礎基本を修得すること。

講義内容と講義計画

事前指導(25時間)として、実習にあたっての心構え・身だしなみ・言葉づかい等、障害のある児童・生徒の心身・健康の理解、特別支援学校及び教員の仕事について、学習指導案の作成方法、優れた教育自薦の紹介等を行い、各自の課題を明確に意識させる。特別支援学校における実習(1日8時間、10日間、計80時間)では、参与観察も行いつつ、児童・生徒との係わり方、実態把握・指導案作成・教材作成・授業実践・授業記録・評価・学級経営等、教員に求められる基礎基本の習得を促す。大学の教員が研究授業の日以外にも実習校を訪問し、実習生の状況を把握するとともに、実習生の指導について担当教員と情報交換を行う。事後指導(15時間)として、学生による実習体験の報告、研究授業内容の検討・確認、指導経験の報告、教職に向けての指導・助言等を行い、さらなる専門性と実践力の向上につなげる。

評価方法

実習校における第一段階の評価をもとに、実習委員会において実習記録の記入状況・提出状況・指導教員所見等を総合的に評価する。

使用教材

教育実習の手引き

授業外学習の内容

- ・実習の手引きや日誌を事前に読んでおくこと。また、事前指導で配布する資料を必ず授業後に繰り返し読むこと。不明な点については、障害児教育事典や教育小六法などで理解できるようにしておくこと。
- ・3年前期までに開講されている特別支援教育関係の授業内容を十分に振り返り、理解を深めておくこと。
- ・特別支援学校教育実習の実習校の教員や事後報告会で学生あるいは担当教員から指摘されたことについて、十分に振り返りを行うこと。

備考

特別支援学校での教育実習では、指導の内容や方法を修得するだけでなく、人間性全体が磨かれます。とてもやりがいのある、楽しい実習です。

教育実習の手引きを事前に読み、また授業後は復習をしてください。

保育・教職実践演習（幼）（実践演習）

担当者

保育・教職実践演習（幼）担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

保育・教育実習を通して得た個々の問題を、学生相互に共有しあい、それぞれの課題にグループごとに取り組みながら、解決を見出す。授業は、グループワーク、発表形式、模擬保育などの演習を中心に行う。また、保育現場におけるフィールドワークも行い、子どもとの関わりを通して問題解決をはかる。

到達目標

- ①保育者としての使命感・責任感をもち、教育的愛情をもって子どもと関わる力を身につける。
- ②保育者に必要な社会性や対人関係能力を身につける。
- ③乳幼児の理解や学級運営に関する知識・能力を身につける。
- ④保育内容の指導に対する知識・能力を身につける。

講義内容と講義計画

第1回 オリエンテーション

本授業の目的とテーマ①～④について考え、今日求められている保育者の役割・資質、および保育現場に求められる機能との関係について理解する。

第2回 グループワーク① 保育・教育実習を通して、個々に得た問題について意見を出し合う

第3回 グループワーク② 問題をテーマ①～④に分類し、各テーマにおける問題の共通点・相違点を見出す。

第4回 事例検討① さらに具体的事例を出し合いながら検討

第5回 事例検討② 各テーマにおける問題の本質的意味を理解する。

第6回 課題設定 フィールドワークにおいて見出すべき課題を設定する。

第7回 フィールドワーク① 実習協力園 A

第8回 フィールドワーク② 実習協力園 B

第9回 フィールドワーク③ 実習協力園 C

第10回 フィールドワーク④ 実習協力園 D

第11回 グループワークを通して得た観察記録を元にグループワークを行い、問題点を整理する。

第12回 模擬授業① 各グループで設定した問題の解決方法を見出す。

第13回 模擬授業② 全体討議で行う報告のための発表要旨を作成する。

第14回 全体討議

第15回 まとめ

評価方法

グループワーク、フィールドワーク、模擬授業への参加、発表、またレポート課題により、総合的に評価する。

使用教材

必要に応じて、プリントを配布する。

授業外学習の内容

授業以外においても、グループワークなどの課題に取り組むこと。

備考

教職実践演習（小中）（実践演習）

担当者

教職実践演習（小中）担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

下記の目標を達成するため、授業では、講義・講話・討論・事例研究などを取り入れて、学生が積極的に学び、教諭としての自覚と責任感を養う。

到達目標

学生が将来教師として学校現場で児童生徒に十分対応していける資質・能力、及び、使命感や責任感、教育的愛情、さらには、社会性や対人関係能力等を備えるに至ること、及び、それをさらに確実なものとし、これを確認することを目標とする。

講義内容と講義計画

授業計画

- 第1回この授業の意義。教師となるにあたっての学生同士の討論。
- 第2回実習で学んだこと・得たものを話し合い、理解する。
- 第3回教師としてどのようなことが求められているかを討論し理解する。
- 第4回学校における他の教職員・保護者・地域住民との連携協力について。
- 第5回文系教科の指導について。
- 第6回理系教科の指導について。
- 第7回実技系教科・英語の指導について。
- 第8回特別支援教育について。
- 第9回学校現場の教師を招いて講話を受ける。
- 第10回学生同士のグループによる中間的総括。
- 第11回グループごとに小・中・特支学校等に出向いて現場の話を聞く。
- 第12回前回の見聞を討論し記録する。
- 第13回学校事故等に際しての教師の役割について実例研究。
- 第14回児童・生徒指導における教師の役割等について実例研究。
- 第15回教師になる意思を確認し、まとめる。

評価方法

担当する専任教員が、各学生の教師としての資質・能力を十分備えるに至っているかどうかを、多面的に総合評価する。

使用教材

授業中に指定する

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、講話や配布されたプリント類を反芻・熟読の上、復習しておくこと。

備考

この授業は、教員免許を取得し、将来教職に就く者の教育者としての資質を確認することを重要な目的としています。教職者として身につけるべき種々の資質・能力が自らに備わっているかどうかを見極めつつ授業に参加することが求められます。

特別支援教育概論（特別支援）

担当者

篠原 吉徳

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

平成19年度から実施されている特別支援教育の趣旨、特別支援教育に関わるシステム、特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室・通常学級それぞれの役割、実践事例などについて解説する。特に、小学校・中学校の通常学級に在籍していて特別な教育ニーズのある児童生徒（その多くは発達障害と推定される）が近年増えてきていることから、この授業では、通常学級における発達障害児への特別支援教育がどのように実践されているか、また、特別支援学級や通級指導教室との連携がどのように実践されているかについて取り上げる。授業にはVTR視聴も含める。

到達目標

特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室・通常学級それぞれの役割、特に発達障害児への特別支援教育について、要点を理解すること。

講義内容と講義計画

- 第1回オリエンテーション
- 第2回特別支援教育の意義と本質
- 第3回特別支援教育の制度
- 第4回特別支援教育の教育課程
- 第5回視覚障害とその教育
- 第6回聴覚障害とその教育
- 第7回言語障害とその教育
- 第8回運動障害とその教育
- 第9回健康障害とその教育
- 第10回知的障害とその教育
- 第11回学習障害(LD)・注意欠陥/多動性障害(ADHD)とその教育
- 第12回自閉症・情緒障害とその教育
- 第13回重度・重複障害とその教育
- 第14回障害児の移行支援
- 第15回まとめ

評価方法

出席状況、授業中の発言、毎回のリアクションペーパー、試験を総合して評価する。

使用教材

佐藤泰正編「特別支援教育概説改訂版」(学芸図書)2011年

授業外学習の内容

次の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

知的障害児の心理・生理・病理（特別支援）

担当者

小林 久男

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

知的障害児の感覚・認知面、運動面などの基礎的能力の発達状態を教育的視点からどのように理解するか、医学的・心理学的な背景も含めて解説する。また、個々の幼児児童生徒が示すコミュニケーションや日常生活動作・作業動作などの実態を教育的視点からどのように理解するかについても解説する。特に、知的障害があってもすでに習得されている機能を的確に評価し、それをもとにして活動を一層充実・発展させるにはどのようなトータルな視点が必要かを考える。授業には、VTRの視聴を多く取り入れ、意見交換を行う。

到達目標

知的障害児の感覚・認知面、運動面などの基礎的能力の障害状況と発達状態について、医学的・心理学的な背景も含めて教育的視点から理解すること。

講義内容と講義計画

- 第1回リエンテーション知的障害という概念について
- 第2回知的障害児の状態像
- 第3回知的障害児の医学的側面
- 第4回知的障害児の心理学的側面
- 第5回感覚・認知面の実態
- 第6回運動面の実態
- 第7回コミュニケーションの実態(その1)-受信面
- 第8回コミュニケーションの実態(その2)-発信面
- 第9回日常生活動作の実態(その1)-食事・排泄
- 第10回日常生活動作の実態(その2)-着脱・清潔
- 第11回作業動作の実態
- 第12回余暇活動の実態
- 第13回知的障害児の学校教育と卒後の生活
- 第14回発達の退行について
- 第15回まとめ

評価方法

授業中の発言、毎回のリアクションペーパー、試験を総合して評価する。

使用教材

村井潤一・小山正「障害児発達学の基礎—障害児の発達と教育」培風館

授業外学習の内容

「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

肢体不自由児の心理・生理・病理（特別支援）

担当者

松田 直

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

肢体不自由児の感覚・認知面、運動面などの基礎的能力の発達状態を教育的視点からどのように理解するか、医学的・心理学的な背景も含めて解説する。また、個々の幼児児童生徒が示すコミュニケーションや日常生活動作・作業動作などの実態を教育的視点からどのように理解するかについても解説する。特に、肢体不自由があってもすでに習得されている機能を的確に評価し、それをもとにして活動を一層充実・発展させるにはどのようなトータルな視点が必要かを学生と共に考える。授業には、VTRの視聴を多く取り入れ、意見交換を行う。

到達目標

学生が肢体不自由児の感覚・認知面、運動面などの基礎的能力の障害状況や発達状態を医学的・心理学的な背景も含めて理解すること。

講義内容と講義計画

- 第1回リエンテーション肢体不自由という概念について
- 第2回肢体不自由児の状態像
- 第3回肢体不自由児の医学的側面
- 第4回肢体不自由児の心理学的側面
- 第5回運動面の実態
- 第6回感覚・認知面の実態
- 第7回コミュニケーションの実態(その1)-受信面
- 第8回コミュニケーションの実態(その2)-発信面
- 第9回日常生活動作の実態(その1)-食事・排泄
- 第10回日常生活動作の実態(その2)-着脱・清潔
- 第11回作業動作の実態
- 第12回余暇活動の実態
- 第13回肢体不自由児の学校教育と卒後の生活
- 第14回運動機能の低下について
- 第15回まとめ

評価方法

授業中の発言（20%）、毎回のリアクションペーパー（20%）、試験（60%）を総合して評価する。

使用教材

竹田一則「肢体不自由児、病弱・身体虚弱児教育のためのやさしい医学・生理学」ジアース教育新社

授業外学習の内容

- ・シラバスに記載してあるテーマに関わりのある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
- ・指定した教科書と随時配布する資料の当該箇所を、必ず授業後に繰り返し読むこと。
- ・専門用語で授業中に十分に理解できなかった言葉については、必ず医学事典や心理学事典などの書籍やインターネットで検索して理解できるようにしておくこと。
- ・土日や夏休みなどに、肢体不自由児との直接の関わりを ボランティア活動で行うこと。

備考

肢体不自由児の多様性を実感してほしい。教科書の関連箇所は授業後に読み直すこと

病弱児の心理・生理・病理（特別支援）

担当者

渡辺 俊之

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

病弱児について身体・心理・社会的な観点から解説する。個々の幼児、児童、生徒への疾患特性に合わせた教育的関わり、また親への支援などについて学ぶ。病弱児の最大限の社会適応能力を引き出すための教育方法、また健全な精神発達ラインにのせていくための教育方法についても学ぶ。

到達目標

病弱児の身体的特性（病態生理、心身の脆弱性、不適応性、疾患特性など）、心理的特性（葛藤や否定的感情）、親の特性などを総合的に理解する。

講義内容と講義計画

授業計画

- 第1回 オリエンテーション病弱児という概念について
- 第2回 病弱児についての総論（種類、教育に必要な観点、医療との連携など）
- 第3回 病弱児の医学的側面
- 第4回 病弱児の心理学的側面
- 第5回 病弱児の社会的側面
- 第6回 心臓病を持つ子どもたち
- 第7回 肺疾患を持つ子どもたち
- 第8回 腎疾患を持つ子どもたち
- 第9回 小児がん・白血病を持つ子どもたち
- 第10回 進行性筋ジストロフィーの子どもたち
- 第11回 病児を持つ親の心理
- 第12回 病弱児への支援（教育）
- 第13回 病弱児への支援（医療）
- 第14回 病弱児への支援（福祉）
- 第15回 まとめ

評価方法

授業中の発言、毎回のリアクションペーパー、試験を総合して評価する。

使用教材

テキスト：竹田一則「肢体不自由児、病弱・身体虚弱児教育のためのやさしい医学・生理学」ジアース教育新社

授業外学習の内容

備考

障害児の発達診断（特別支援）

担当者

小林 久男

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

特別支援教育においては、個々の幼児児童生徒の実態を的確に把握することが求められるが、その一環として、感覚面・知的面・運動面の発達状態を把握する必要がある。発達状態の把握には、生育歴・医療歴・訓練指導歴や養育環境などに関する資料収集、自然な場面や設定場面での行動観察、視覚・聴覚・知能・言語能力・性格・社会性などに関する心理学的検査、という方法が用いられている。これらの方法を具体的に紹介するとともに、それぞれの方法から得られた情報を総合して、個々の幼児児童生徒について発達の全体像をどのように描くのかについても取り上げる。

到達目標

障害のある幼児児童生徒の感覚面・知的面・運動面の発達状態を把握する基本的視点と具体的方法について、要点を理解すること。

講義内容と講義計画

- 第1回リエンテーション発達診断という概念について
- 第2回発達診断の方法
- 第3回発達診断のための資料収集
- 第4回発達診断のための行動観察
- 第5回発達診断のための心理学的検査
- 第6回発達全般に関する診断法(その1)-遠城寺式
- 第7回発達全般に関する診断法(その2)-津守・稲毛式
- 第8回聴覚の発達に関する診断法——乳児の聴覚発達チェック項目
- 第9回運動発達に関する診断法——感覚運動発達アセスメント
- 第10回言語・コミュニケーションに関する診断法——絵画語い発達検査・田中ヒネ検査
- 第11回視覚の発達に関する診断法——フロスティック[®]視知覚検査
- 第12回認知発達に関する診断法——WISC-IV
- 第13回発達特性に関する診断法(その1)-5歳児健診・発達障害チェックリスト
- 第14回発達特性に関する診断法(その2)-自閉症特性・S-M社会生活能力検査
- 第15回発達診断と発達理解の視点

評価方法

授業中の発言、毎回のリアクションペーパー、障害児の発達診断に関する期末課題を総合して評価する。

使用教材

長崎勤ほか「臨床発達心理学概論」ミネルヴァ書房(2002年)

授業外学習の内容

「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

知的障害児の指導（特別支援）

担当者

小林 久男

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

知的障害児は、感覚・認知面、運動面、コミュニケーション面など、様々な側面において遅れや不十分さがある。このような幼児児童生徒に対して、全国の特別支援学校や特別支援学級で行われている教育課程の骨格やその具体例を紹介した後、主な指導法に触れる。具体的には、感覚・認知面の指導、全身運動や手指運動の指導、コミュニケーションの指導、食事・着脱・排泄・清潔などの日常生活の指導、遊びの指導、教科の指導、作業の指導、進路の指導、地域における社会生活の指導などである。授業には、VTRの視聴も含める。

到達目標

知的障害児に対する教育課程の骨格を把握し、学校で行われている主な指導法の要点を理解すること。

講義内容と講義計画

- 第1回リエンテーション知的障害児の状態像
- 第2回特別支援学校における教育課程
- 第3回特別支援学級における教育課程
- 第4回個別の指導計画と自立活動の指導
- 第5回感覚・認知面の指導
- 第6回運動面の指導
- 第7回コミュニケーションの指導(その1)-発信面
- 第8回コミュニケーションの指導(その2)-受信面
- 第9回遊びの指導
- 第10回日常生活動作の指導(その1)-食事・排泄
- 第11回日常生活動作の指導(その2)-着脱・清潔
- 第12回作業動作の指導
- 第13回余暇活動の指導
- 第14回進路の指導
- 第15回まとめ

評価方法

出席状況、授業中の発言、毎回のリアクションペーパー、試験を総合して評価する。

使用教材

全日本特別支援教育研究連盟編名古屋恒彦責任編集「基礎から学ぶ知的障害教育」日本文化科学社

授業外学習の内容

「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

肢体不自由児の指導（特別支援）

担当者

松田 直

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 2単位

講義目標

肢体不自由児は、運動面だけの障害である場合もあるが、肢体不自由特別支援学校に在籍している児童生徒の3/4以上は、運動面感覚・認知面、コミュニケーション面など、様々な側面において遅れや不十分さがある。このような幼児児童生徒に対して、全国の特別支援学校や特別支援学級で行われている教育課程の骨格やその具体例を紹介した後、主な指導法に触れる。具体的には、姿勢の保持や移動運動に関する指導、手指運動に関する指導、感覚・認知面の指導、コミュニケーションの指導、食事・着脱・排泄・清潔などの日常生活の指導、教科の指導、作業の指導、進路の指導、地域における社会生活の指導などである。授業には、VTRの視聴も含める。

到達目標

学生が肢体不自由のある幼児児童生徒に対して特別支援学校や特別支援学級で行われている教育課程を理解し、主な指導法の要点を把握すること。

講義内容と講義計画

- 第1回リエンテーション肢体不自由児の状態像
- 第2回特別支援学校における教育課程
- 第3回特別支援学級における教育課程
- 第4回個別の指導計画と自立活動の指導
- 第5回運動面の指導
- 第6回感覚・認知面の指導
- 第7回コミュニケーションの指導(その1)-発信面
- 第8回コミュニケーションの指導(その2)-受信面
- 第9回探索活動の指導
- 第10回日常生活動作の指導(その1)-食事について
- 第11回日常生活動作の指導(その2)-排泄・着脱について
- 第12回作業動作の指導
- 第13回余暇活動の指導
- 第14回進路の指導
- 第15回まとめ

評価方法

授業中の発言（20%）、毎回のリアクションペーパー（20%）、試験（60%）を総合して評価する。

使用教材

飯野順子「障害の重い子どもの授業づくり PART3 子どもが活動する『子ども主体』の授業を目指して」ジヤース教育新社

授業外学習の内容

- ・シラバスに記載してあるテーマに関わりのある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
- ・指定した教科書と随時配布する資料の当該箇所を、必ず授業後に繰り返し読むこと。
- ・専門用語で授業中に十分に理解できなかった言葉については、必ず医学事典や心理学事典、障害児教育学事典などの書籍やインターネットで検索して理解できるようにしておくこと。

備考

教科書の該当箇所を予め読んでおき、授業後にもう 1 回読み直すこと。

病弱児の指導（特別支援）

担当者

吉野 浩之

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 2単位

講義目標

病弱児を対象とする特別支援学校・特別支援学級で学ぶ児童生徒の病気の種類は多岐にわたっており、その病状は多様である。これらの児童生徒一人ひとりの実態と教育的ニーズを的確に把握し、適切な教育課程のもとに授業をどのように実践するか、具体的に紹介する。特に、学習指導を進めるに当たって様々な制約がある中で、各教科をどのように取扱うのか、病気に関連した自立活動の指導をどのように行うのか、保護者・前籍校・医療機関・同僚等との連携をどのように進めるのかなどについて取り上げる。授業には、VTRの視聴、ロールプレイも含める。

到達目標

病弱児教育の教育課程の骨格を理解し、児童生徒の病状と教育の場に応じて指導を工夫する際の要点を踏まえて模擬指導ができるようになること。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション 病弱児の実態と教育課程
- 第2回 病弱児教育の変遷と全国および群馬県の現状
- 第3回 病弱児への教科指導と自立活動の指導
- 第4回 呼吸器疾患を伴う児童生徒の指導
- 第5回 心臓疾患を伴う児童生徒の指導
- 第6回 腎臓・泌尿器疾患を伴う児童生徒の指導
- 第7回 消化器疾患を伴う児童生徒の指導
- 第8回 骨・関節疾患および二分脊椎を伴う児童生徒の指導
- 第9回 進行性筋ジストロフィー症を伴う児童生徒の指導
- 第10回 脳性まひを伴う児童生徒の指導
- 第11回 心身症・精神疾患を伴う児童生徒の指導
- 第12回 内分泌・代謝疾患および肥満を伴う児童生徒の指導
- 第13回 悪性腫瘍を伴う児童生徒の指導
- 第14回 死に瀕した児童生徒および周囲の指導
- 第15回 多職種連携

評価方法

授業中の発言、毎回のリアクションペーパー、試験を総合して評価する。

使用教材

なし

授業外学習の内容

次の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

特別支援教育の課題と実践（特別支援）

担当者

五十嵐 一徳

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

特別支援教育は、発達障害も含めて障害のある全ての子どもを対象とする教育であるが、ケースによっては「健常児」も対象に入る。子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じて、通常の学級も含めて多様な教育の場が確保されている。それに伴い、健常児との円滑な関係や指導する教員の各障害に対する専門性が要求される。この授業ではこれらの課題の事例やその対応とした実践例を挙げ、さまざまな課題に対する対応を検討して、課題解決の能力を育成する。

到達目標

この授業の目標は、特別支援の現場に就いたときに、自ら課題を把握して早期に対応できる様々な能力を身につけることである。

講義内容と講義計画

- 第1回特別支援教育とは。障害児教育の歴史的変遷。
- 第2回特別支援教育の実際Ⅰ（知的障害）
- 第3回特別支援教育の実際Ⅱ（病弱）
- 第4回特別支援教育の実際Ⅲ（肢体不自由）
- 第5回特別支援教育体制の現状と課題Ⅰ（特別支援学校）
- 第6回特別支援教育体制の現状と課題Ⅱ（特別支援学級）
- 第7回特別支援教育体制の現状と課題Ⅲ（通常の学級）
- 第8回子どもの生活面における課題とその対応Ⅰ（幼児）
- 第9回子どもの生活面における課題とその対応Ⅱ（小・中学生）
- 第10回授業実践Ⅰ（カリキュラム）
- 第11回授業実践Ⅱ（週案）
- 第12回授業実践Ⅲ（日案）
- 第13回保護者への対応と協調Ⅰ（日々の連絡）
- 第14回保護者への対応と協調Ⅱ（研修会のあり方）
- 第15回まとめ

評価方法

試験の成績を70%、授業態度と小レポート内容を30%として評価する。

使用教材

よくわかる特別支援教育

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

次回の授業範囲（テキスト）を予習し、専門用語の意味を把握しておくこと。

知的障害児教育演習（特別支援）

担当者

小林 久男

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年通年 選択 2単位

講義目標

知的障害のある幼児児童生徒一人ひとりの心理等の実態に応じた教育的な係わりをどのように進めるか、学生の関心事を考慮しつつ主として実践事例をもとにした研究的な討議を行う。具体的には、就学前の通園施設や保育園・幼稚園を利用している知的障害幼児や、特別支援学校に通学している知的障害児童生徒を対象として、学生が参与観察や直接的な係わりで得た事例資料（文字資料、映像資料）に関する研究的な討議を毎週行い、次回の参与観察や直接的な係わりに活かすことを目指す。また、それらの事例に関連のある文献の検討も行う。

到達目標

知的障害児一人ひとりの心理等の実態に応じた教育課程、指導計画、指導実践の資料を理解し、関連する文献資料も踏まえて、実践研究をまとめること。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 知的障害児の心理等の実態について
- 第3回 知的障害児の教育課程について
- 第4回 知的障害児の指導法について
- 第5回 知的障害児を対象とした実践研究について
- 第6回 研究対象児および保護者、所属する関係機関に対する配慮について
- 第7回 実践研究のまとめ方について
- 第8回 映像資料の活用について
- 第9回 引用文献および参考文献の活用について
- 第10回 「考察」のまとめ方の再検討
- 第11回 「問題の所在」の見直し
- 第12回 「目的・方法」の見直し
- 第13回 「経過」のまとめ方の再検討
- 第14回 実践研究の事例紹介
- 第15回 実践事例に関する全般的な研究討議
- 第16回 実践事例の心理等に関する研究討議
- 第17回 実践事例の教育課程に関する研究討議
- 第18回 実践事例の指導法に関する研究討議
- 第19回 実践事例の「問題の所在」に関する研究討議
- 第20回 実践事例の「目的・方法」に関する研究討議
- 第21回 実践事例の「経過」(当初)に関する研究討議
- 第22回 実践事例の「経過」(第1期)に関する研究討議
- 第23回 実践事例の「経過」(第2期)に関する研究討議
- 第24回 実践事例の「経過」(第3期)に関する研究討議
- 第25回 実践事例の「考察」に関する研究討議
- 第26回 他の実践事例(文献)との比較に関する研究討議
- 第27回 実践研究のまとめに関する研究討議(考察のまとめ)
- 第28回 実践研究のまとめに関する研究討議(問題の所在・目的・方法のまとめ)
- 第29回 実践研究のまとめに関する研究討議(経過のまとめ)
- 第30回 実践研究の発表と総括

評価方法

授業中の発言、実践研究に対する課題意識、実践研究整理の状態を総合して評価する。

使用教材

特に定めない

授業外学習の内容

「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

肢体不自由児教育演習（特別支援）

担当者

松田 直

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年通年 選択 2単位

講義目標

肢体不自由がある幼児児童生徒を主な対象として、一人ひとりの実態に応じた教育的な係わりをどのように進めるか、学生の関心事を考慮しつつ主として実践事例をもとにした研究的な討議を行う。具体的には、就学前の通園施設を利用している肢体不自由幼児や、肢体不自由特別支援学校に通学している肢体不自由児童生徒を対象として、学生が参与観察や直接的な係わりで得た事例資料（文字資料、映像資料）に関する研究的な討議を行い、次回の参与観察や直接的な係わりに活かすことを目指す。また、それらの事例に関連のある文献の検討も行う。

到達目標

学生が肢体不自由児一人ひとりの実態に応じた教育課程、指導計画、指導実践の資料を理解し、関連する文献資料も踏まえて、実践研究をまとめること。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 肢体不自由児の心理等の実態について
- 第3回 肢体不自由児の教育課程について
- 第4回 肢体不自由児の指導法について
- 第5回 肢体不自由児を対象とした実践研究について
- 第6回 研究対象児および保護者、所属機関に対する配慮について
- 第7回 実践研究のまとめ方について
- 第8回 参考文献・引用文献の活用について
- 第9回 映像資料の活用について
- 第10回 実践研究の事例紹介
- 第11回 実践事例の心理等の実態に関する研究討議
- 第12回 実践事例の教育課程に関する研究討議
- 第13回 実践事例の指導法に関する研究討議
- 第14回 実践事例に関連のある文献の検討
- 第15回 実践事例の中間報告会
- 第16回 実践事例の「問題の所在」に関する研究討議
- 第17回 実践事例の「目的・方法」に関する研究討議
- 第18回 実践事例の「経過」(当初の参与観察)に関する研究討議
- 第19回 実践事例の「経過」(第1期の係わり)に関する研究討議
- 第20回 実践事例の「経過」(第2期の係わり)に関する研究討議
- 第21回 実践事例の「経過」(第3期の係わり)に関する研究討議
- 第22回 実践事例の「考察」に関する研究討議
- 第23回 「問題の所在」の見直し
- 第24回 「目的・方法」の見直し
- 第25回 「経過」のまとめ方の見直し
- 第26回 「考察」のまとめ方の見直し
- 第27回 他の実践研究(文献)との比較に関する研究討議
- 第28回 実践事例の報告会
- 第29回 実践事例を踏まえた肢体不自由児の心理等の実態に関する研究討議
- 第30回 実践事例を踏まえた肢体不自由児の指導に関する研究討議

評価方法

収集した資料の内容（30%）、研究討議における発言（20%）、資料整理の状態（30%）、報告会での発表（20%）等を総合して評価する。

使用教材

特になし。

授業外学習の内容

- ・ シラバスに記載してあるテーマに関わりのある内容については、講義と共に受講生が順番に発表する方式で授業を進めるので、事前の準備が不可欠である。
- ・ 授業後には、授業で出された多様な意見を各自整理し、自らの実践的研究の修正や充実に生かせるよう、他の資料を参照することも含めて確実に学修を進めていく必要がある。

備考

肢体不自由のある子どもが療育や教育を受けている現場に積極的に出かけてほしい。

病弱児教育演習（特別支援）

担当者

吉野 浩之

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年通年 選択 2単位

講義目標

多様な病状にある幼児児童生徒を主な対象として、一人ひとりの実態に応じた教育的な係わりをどのように進めるか、学生の関心事を考慮しつつ主として実践事例をもとにした研究的な討議を行う。具体的には、就学前の病弱幼児や、病弱特別支援学校や病弱特別支援学級に在籍している児童・生徒を対象として、学生が参与観察や直接的な係わりで得た事例資料（文字資料、映像資料）に関する研究的な討議を行い、次回の参与観察や直接的な係わりに活かすことを目指す。また、それらの事例に関連のある文献の検討も行う。

到達目標

病弱児一人ひとりの実態に応じた教育課程、指導計画、指導実践の資料を理解し、関連する文献資料も踏まえて、実践研究をまとめること。

講義内容と講義計画

- 第1回 利エンテーション
- 第2回 病弱児の心理等の実態について
- 第3回 病弱児の教育課程について
- 第4回 病弱児の指導法について
- 第5回 病弱児を対象とした実践研究について
- 第6回 研究対象児および保護者、所属機関に対する配慮について
- 第7回 実践研究のまとめ方について
- 第8回 病弱児教育に関する参考文献の活用について
- 第9回 実践研究の事例紹介
- 第10回 実践事例の心理等の実態に関する研究討議
- 第11回 実践事例の教育課程に関する研究討議
- 第12回 実践事例の指導法に関する研究討議
- 第13回 実践事例に関連のある文献の検討(心理等に関して)
- 第14回 実践事例に関連のある文献の検討(指導法に関して)
- 第15回 実践事例の中間報告会
- 第16回 実践事例の「問題の所在」に関する研究討議
- 第17回 実践事例の「目的・方法」に関する研究討議
- 第18回 実践事例の「経過」(当初の参与観察)に関する研究討議
- 第19回 実践事例の「経過」(第1期の係わり)に関する研究討議
- 第20回 実践事例の「経過」(第2期の係わり)に関する研究討議
- 第21回 実践事例の「経過」(第3期の係わり)に関する研究討議
- 第22回 実践事例の「考察」に関する研究討議
- 第23回 「問題の所在」の見直し
- 第24回 「目的・方法」の見直し
- 第25回 「経過」のまとめ方の見直し
- 第26回 「考察」のまとめ方の見直し
- 第27回 他の実践研究(文献)との比較に関する研究討議
- 第28回 実践事例の報告会
- 第29回 実践事例を踏まえた肢体不自由児の心理等の実態に関する研究討議
- 第30回 実践事例を踏まえた肢体不自由児の指導に関する研究討議

評価方法

収集した資料の内容、研究討議における発言、資料整理の状態、報告会での発表等を総合して評価する。

使用教材

なし

授業外学習の内容

次回の授業内容を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

視覚障害・聴覚障害教育総論（特別支援）

担当者

中村 保和、金澤 貴之

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 2単位

講義目標

視覚障害、聴覚障害のある幼児児童生徒に対して、医学的・心理学的な観点からの理解とともに、長期的な成長経過から理解することも重視する。具体的には、就学前から高等部卒業まで長期にわたって教育相談を継続した事例を提示し、視覚障害、聴覚障害についての多角的な理解を深める。また、視覚障害、聴覚障害のある幼児児童生徒に現在実施されている教育課程や主な指導法について取り上げる。すなわち、各教科の指導や自立活動の指導等について取り上げる。授業にはVTRの視聴を多く取り入れる。

到達目標

視覚障害、聴覚障害のある幼児児童生徒に対して、多角的な視点からその実態の理解を深め、教育課程と指導法についての現状を理解することを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 視覚の構造と機能-生理学的視点からの理解(中村)
- 第3回 視覚障害-医学的視点、心理学的視点からの理解(中村)
- 第4回 視覚障害児に対する学校教育の歴史(中村)
- 第5回 視覚障害児に対する教育課程(中村)
- 第6回 視覚障害児に対する自立活動の指導-主として運動面(中村)
- 第7回 視覚障害児に対する自立活動の指導-主として基礎学習面(中村)
- 第8回 視覚障害児に対する教科等の指導(中村)
- 第9回 聴覚の構造と機能-医学的視点からの理解(金澤)
- 第10回 聴覚障害-心理学的視点からの理解(金澤)
- 第11回 聴覚障害児に対する学校教育の歴史(金澤)
- 第12回 聴覚障害児に対する教育課程(金澤)
- 第13回 聴覚障害児に対する自立活動の指導(金澤)
- 第14回 聴覚障害児に対する教科等の指導(金澤)
- 第15回 視覚障害・聴覚障害教育の課題について(金澤)

評価方法

授業中の発言、毎回のリアクションペーパー、最終レポートを総合して評価する。

使用教材

特になし。

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

視覚障害、聴覚障害と一口に言っても、その実態はさまざまであることを実感してほしい。

知的障害者教育総論（特別支援）

担当者

浦崎 源次

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

知的障害のある幼児児童生徒に対して、医学的・心理学的な観点からの理解とともに、長期的な成長経過から理解することも重視する。具体的には、就学前から高等部卒業まで長期にわたって教育相談を継続した事例を提示し、知的障害についての理解を深める。また、知的障害のある幼児児童生徒に現在実施されている教育課程やおもな指導法について取り上げる。すなわち、各教科の指導や合科統合の指導(日常生活の指導、生活単元学習、作業学習等)、について取り上げる。授業には、VTRの視聴を多く取り入れる。

到達目標

知的障害のある幼児児童生徒に対して、長期的な視点からその実態の理解を深め、教育課程と指導法についての現状を理解すること。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 知的障害について
- 第3回 知的障害児教育の歴史
- 第4回 知的障害の医学的・心理学的理解
- 第5回 知的障害児の家庭養育と就学前教育
- 第6回 知的障害児の個別の教育支援計画と個別の指導計画
- 第7回 知的障害児の学校教育-教育課程について
- 第8回 知的障害児の教科指導について
- 第9回 知的障害児に対する「合わせた指導」について
- 第10回 軽度の知的障害児の学校教育
- 第11回 中重度の知的障害児の学校教育
- 第12回 知的障害児の成長経過と学校教育について
- 第13回 感覚障害を伴う知的障害児の成長経過と学校教育について
- 第14回 運動障害を伴う知的障害児の成長経過と学校教育について
- 第15回 知的障害児教育の課題について

評価方法

授業中の発言、試験を総合して評価する。

使用教材

特になし

授業外学習の内容

授業時のノートや配布資料をもとに授業後まとめノートを作成すること。

備考

重複障害児教育総論（特別支援）

担当者

松田 直

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

感覚障害、運動障害、知的障害などが複雑に絡み、多様な状態像を示す重複障害児を教育的な視点からどのように理解し、どのような教育課程を設定して具体的な指導を試みればよいか、実践事例（文字資料、VTR）をもとにして講義する。盲聾、盲難聴、弱視聾、弱視難聴、盲肢体不自由、弱視肢体不自由、聾肢体不自由、難聴肢体不自由、盲聾肢体不自由などの疑似体験（障害当事者と係わり手の双方の疑似体験）も行い、重複障害児への理解を深めるとともに、係わり方の工夫についても洞察を深める。

到達目標

学生が重複障害児の実態を把握する心理学的、医学的な視点を疑似体験も踏まえて把握し、具体的な指導を試みる際の基本的な留意点を理解すること。

講義内容と講義計画

- 第1回 回リエンテーション重複障害という概念について
- 第2回 重複障害児の状態像
- 第3回 重複障害児教育の歴史と現状
- 第4回 重複障害児の就学と教育課程
- 第5回 重複障害児の実態把握(医学的側面)
- 第6回 重複障害児の実態把握(心理学的側面)
- 第7回 重複障害児の指導計画(その1) 指導計画の構成と内容
- 第8回 重複障害児の指導計画(その2) 指導計画の具体例
- 第9回 重複障害児の探索活動
- 第10回 重複障害児のコミュニケーション活動(その1)-係わり手のあり方
- 第11回 重複障害児のコミュニケーション活動(その2)-表出の手段
- 第12回 医療的ケアを必要とする重複障害児の指導
- 第13回 重複障害児の就学前の指導
- 第14回 重複障害児の学校教育と卒後の生活
- 第15回 まとめ

評価方法

授業中の発言（20%）、毎回のリアクションペーパー（20%）、試験（60%）を総合して評価する。

使用教材

特になし。

授業外学習の内容

- ・ 授業で毎回配布する資料を、必ず授業後に繰り返し読むこと。
- ・ 専門用語で授業中に十分に理解できなかった言葉については、必ず医学事典や心理学事典、障害児教育学事典などの書籍やインターネットで検索して理解できるようにしておくこと。

備考

著しく障害の重い子どもも、教育が可能であることを実感してほしい。

発達障害児教育総論（特別支援）

担当者

五十嵐 一徳、是枝 喜代治

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

まずは、発達障害の概念や具体的な障害名（LD, ADHD, 高機能自閉症など）とその特性や医学的な診断基準を学習する。次に発達障害児に対する教育の歴史を紹介し、その過程を知る。さらに実際の保育・教育現場の様子を実際に見学したり、ビデオ視聴により、おおまかに年齢別の現実的な実情を把握する。そして、総じてどのような保育・教育が必要で有効なのかを考え、ディスカッションも交えて検討していきたい。また、LD, ADHD, 高機能自閉症についての共通点や相違点についても学ぶ

到達目標

この授業の目的は発達障害の概念を理解し、その個性（特性）を述べることができ、集団または個々の発達障害児の保育・教育のおおまかな指導方針・方法を考えられることができることである。

講義内容と講義計画

- 第1回発達障害とは。発達障害児とは(高田)
- 第2回発達障害児の理解Ⅰ(学習障害:LD)(高田)
- 第3回発達障害児の理解Ⅱ(注意欠陥多動性障害:ADHD)(高田)
- 第4回発達障害児の理解Ⅲ(高機能自閉症)(高田)
- 第5回発達障害の原因Ⅰ(総論)(是枝)
- 第6回発達障害の原因Ⅱ(各論)(是枝)
- 第7回指導のポイントⅠ(概要)(是枝)
- 第8回指導のポイントⅡ(学習面)基礎編(高田)
- 第9回指導のポイントⅡ(学習面)応用編(是枝)
- 第10回指導のポイントⅢ(言語面)基礎編(高田)
- 第11回指導のポイントⅢ(言語面)応用編(是枝)
- 第12回指導のポイントⅣ(行動面)基礎編(高田)
- 第13回指導のポイントⅣ(行動面)応用編(是枝)
- 第14回統合教育の実際(高田)
- 第15回まとめ(高田)

評価方法

試験の成績を70%、授業態度と小レポート内容を30%として評価する。

使用教材

授業内で指示する

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

卒業研究（卒業研究）

担当者

子ども教育学科教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年通年 必修 4単位

講義目標

学生の興味・関心による選択に基づいてテーマを設定し、学生の自主性を最大限尊重して指導する。この卒業研究でのテーマとなりうるのは、基本的には、教育と法、教育裁判、教育行政、社会教育、学校経営等々であるが、学生が希望するのであれば、これ以外のテーマで研究したいとする者をも受け容れる。

到達目標

大学での学修をまとめ、大学の卒業生にふさわしい専門的知見を形に表して、「学士力」の証左とすることを目標とする。

講義内容と講義計画

授業計画

- ・テーマの設定作業
- ・先行研究の探索
- ・関連する文献の探索・検討
- ・目次の作成
- ・下書きの執筆とその指導助言
- ・清書およびその点検

評価方法

テーマの内容、問題意識、文献の探索、指導への積極的姿勢、執筆に際しての姿勢、執筆内容等々を総合して評価する。

使用教材

指導中に紹介する。

授業外学習の内容

毎回の助言指導に従い、出された課題に学内外できちんと取り組み、次回のゼミまでに整えておくこと。

備考

卒研は大学生活の総決算です。明確な問題意識と持続的な取り組みが不可欠です。教育学全般とりわけ教育と法の問題等に関心を持つ学生諸君は、遠慮なくどうぞ。

学校経営と学校図書館（司書教諭科目）

担当者

井ノ口 雄久

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年後期必修 2単位

講義目標

学校図書館メディアを収集・整理・保存・提供する図書館サービスは、単に図書館内部の問題として考えられるだけでなく、学校教育の目的達成を支援するという基本的役割を担っていることを理解する。その上で、教師と司書教諭による協調（コラボレーション）の重要性と学校図書館の活動について説明できるようになることを目的とする。

到達目標

いきいきとした学校図書館の運営計画を立案できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 教育と学校図書館
- 第2回 学校図書館の発達と役割
- 第3回 制度としての学校図書館
- 第4回 教育課程と学校図書館
- 第5回 学校経営と学校図書館
- 第6回 学校図書館メディア
- 第7回 学校図書館の施設・設備
- 第8回 学校図書館経営のための諸組織
- 第9回 学校図書館の会計
- 第10回 学校図書館経営
- 第11回 学校図書館活動
- 第12回 学校図書館活動の実際
- 第13回 学校図書館の評価と改善
- 第14回 学校図書館の課題と展望
- 第15回 まとめ

評価方法

レポートによる。期中、期末の2回のレポートを提出してもらい評価する。

レポート2回（80%）、出席状況及び出席態度（20%）

使用教材

使用教材：『学校経営と学校図書館』（司書教諭テキストシリーズ 01）古賀節子編最新版、樹村房

授業外学習の内容

講義中に紹介した資料は極力目を通すこと。また指示した事項は必ず確認する事。

備考

司書教諭資格科目指定したテキストは事前に読んでおくこと。

学校図書館メディアの構成（司書教諭科目）

担当者

小柳 聡美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4 年前期必修 2 単位

講義目標

学校図書館メディアの教育的意義・役割及び種類・特性等について学習し、その選択・収集・保存・提供等について考察する。特に各種メディアへのアクセスを容易にするための資料組織化の技術を習得する。

到達目標

学校図書館メディアの収集・組織・提供ができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回学校図書館メディアの意義・役割
- 第 2 回学校図書館メディアの種類・特性
- 第 3 回学校図書館メディアの選択と構成
- 第 4 回学校図書館メディアの組織化(1)分類の意義と機能
- 第 5 回学校図書館メディアの組織化(2)日本十進分類法の概要
- 第 6 回学校図書館メディアの組織化(3)日本十進分類法の使い方①
- 第 7 回学校図書館メディアの組織化(4)日本十進分類法の使い方②
- 第 8 回学校図書館メディアの組織化(5)日本十進分類法の使い方③
- 第 9 回学校図書館メディアの組織化(6)件名標目表
- 第 10 回学校図書館メディアの組織化(7)目録の意義と機能
- 第 11 回学校図書館メディアの組織化(8)日本目録規則の概要
- 第 12 回学校図書館メディアの組織化(9)日本目録規則の使い方①
- 第 13 回学校図書館メディアの組織化(10)日本目録規則の使い方②
- 第 14 回学校図書館メディアの組織化(11)目録の電算化
- 第 15 回多様な学習環境と学校図書館メディアの配置

評価方法

筆記試験 80%、授業参加度・受講態度 20%

使用教材

『情報資源組織法』最新版志保田務高鷲忠美編著第一法規定価 2,600 円（税別）

授業外学習の内容

「日本十進分類法 第 2 次区分表を暗記（使用教材に一覧表有）」

備考

- ・ 司書教諭資格科目
- ・ 教育実習の際、学校図書館をよく観察すること。

学習指導と学校図書館（司書教諭科目）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年後期必修 2 単位

講義目標

学校図書館が教師の学ぶ場となり、司書教諭が教師の学習活動を支援することができるように、学校図書館メディアの活用について理解を図ることができる。

到達目標

学習指導における学校図書館メディア活用についての理解を図ることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回はじめに(教育課程の展開と学校図書館)
- 第2回学校教育と学校図書館
- 第3回カリキュラム編成と学校図書館
- 第4回学習情報センターとしての学校図書館
- 第5回発達段階に応じた学習指導のあり方
- 第6回生涯学習の理念と学校図書館
- 第7回現代社会におけるメディア活用能力
- 第8回図書館利用の指導-その目的と理念
- 第9回図書館利用の指導-その内容
- 第10回図書館利用の指導-その方法と評価
- 第11回メディア活用における諸問題
- 第12回リファレンス・サービスの実際
- 第13回情報の収集と提供
- 第14回情報サービスとネットワークの活用
- 第15回おわりに(まとめのレポート)

評価方法

授業への積極的な参加状況とまとめの課題レポートを総合評価する。

使用教材

教科書:『学習指導と学校図書館』(学校図書館実践テキストシリーズ 03) 堀川照代編著樹村房定価 1,943 円(本体 1,850 円+税)

授業外学習の内容

指定した教科書の各章を読んでおくこと。

備考

司書教諭資格科目

読書と豊かな人間性（司書教諭科目）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4 年前期必修 2 単位

講義目標

学校図書館の読書センターとしての仕事の実態を把握し、児童・生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法について理解を図ることができる。

到達目標

児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法について理解を図ることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回はじめに(読書と人間形成)
- 第 2 回読書の意義と目的
- 第 3 回児童青少年の読書習慣と心の教育
- 第 4 回情報社会と読書環境の整備
- 第 5 回読書と学校図書館の役割
- 第 6 回発達段階の読書指導
- 第 7 回出版状況と図書資料の選択
- 第 8 回読書資料の種類と特性
- 第 9 回図書館資料としての漫画の利用
- 第 10 回読書の指導方法
- 第 11 回ストーリーテリング、読み聞かせ、ブックトーク
- 第 12 回読書環境の整備(図書委員会活動・読書感想文等)
- 第 13 回家庭、地域、公共図書館との連携
- 第 14 回学校図書館と公共図書館との連携・協力
- 第 15 回おわりに(まとめのレポート)

評価方法

授業への積極的な参加状況とまとめの課題レポートを総合評価する。

使用教材

教科書：『読書と豊かな人間性』（学校図書館実践テキスト 4）朝比奈大作編著 樹村房定価 1,943 円（本体 1,850 円+税）

授業外学習の内容

指定した教科書の各章を事前に読んでおくこと。

備考

司書教諭資格科目

情報メディアの活用（司書教諭科目）

担当者

井ノ口 雄久

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年後期必修 2単位

講義目標

学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。

到達目標

多様な情報メディアを授業に役立つように利用できること

講義内容と講義計画

- 第1回現代生活と情報メディア
- 第2回情報メディアの歴史
- 第3回伝統的情報メディアとデジタルメディア
- 第4回学習メディアとしての利点と選択
- 第5回インターネットのしくみと活用
- 第6回データベースの検索と利用
- 第7回ソフトウェアとその利用
- 第8回個別学習のための教育用ソフトウェア
- 第9回問題解決学習のための情報探索
- 第10回学びの共同体と協調学習支援環境
- 第11回校内における学校図書館メディアの選択と構成
- 第12回学校図書館と情報技術
- 第13回知的財産権と著作権制度の概要
- 第14回デジタル・ネットワーク社会の陥穽
- 第15回学校図書館と情報メディア

評価方法

レポートによる。期中、期末の2回のレポートを提出してもらい評価する。
レポート2回（80%）、出席状況及び出席態度（20%）

使用教材

『新版 情報メディアの活用』山本純一他放送大学教育振興会

授業外学習の内容

講義中に紹介した資料は極力目を通すこと。また指示した事項は必ず確認する事。

備考

司書教諭資格科目指定したテキストは事前に読んでおくこと。